

文部科学省 「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」

次代を担うがん研究者・医療人養成プラン

外部評価報告(27年度)

京 都 大 学

三 重 大 学

滋 賀 医 科 大 学

大 阪 医 科 大 学

京 都 薬 科 大 学

文部科学省

—がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン—

次代を担うがん研究者・医療人養成プラン

外部評価報告(27年度)

京 都 大 学

三 重 大 学

滋 賀 医 科 大 学

大 阪 医 科 大 学

京 都 薬 科 大 学

平成27年度《次代を担う研究者・医療人養成プラン》外部評価について

1. 外部評価実施方針について

- ・ 27年度 外部評価は、評価委員による書面評価とする。
- ・ 評価委員については、3名の委員を選任する。
- ・ 外部評価項目については、事業評価ガイドライン（24.3.29 文科省 養成推進委員会）の評価項目を基本として、連携する各大学により設定された「個性や特色、得意分野に応じた各グループ固有の達成目標」及び、事業申請書に記載のあった達成目標とする。

2. 評価項目について

「外部評価項目」 (3頁～5頁) のとおり

3. 「次代を担う研究者・医療人養成プラン」概要について

「連携する大学」、「取組の概要」、「事業の目的・必要性」、「補助事業の実績」、「補助事業に係る具体的な成果」 (6頁～8頁) のとおり

4. 27年度取組状況

「27年度取組状況等」 (9頁～38頁) のとおり

(資料1)	募集・受入目標・入学者数一覧	(39頁) のとおり
(資料2)	入学人員(京大グループ・全国平均)	(40頁) のとおり
(資料3)	資格取得者数一覧(24～26年度)	(41頁) のとおり
(資料4)	がんプロ学生調査(要望・改善点)	(42頁～44頁) のとおり
(資料5)	がんの特化した講座の設置状況	(45頁) のとおり
(資料6)	事業推進委員会議事録(外部評価の実施)	(46頁～47頁) のとおり
(資料7)	24年度～26年度に導入された医療チーム 事業開始前から設置されていた医療チーム	(48頁～49頁) のとおり
(資料8)	キャンサーボードの体制	(50頁～51頁) のとおり
(資料9)	平成27年度インテンシブコース実施事業	(52頁) のとおり
(資料9-2)	シンポジウム等の開催実績 研修会・セミナー等の開催実績	(53頁～55頁) のとおり

- (資料 10) 国際学会、英文誌への発表一覧
(京都大学・滋賀医科大学・京都薬科大学) (56 頁～ 61 頁) のとおり
- (資料 10-2) 国内学会、雑誌等への発表一覧
(京都大学・滋賀医科大学・京都薬科大学) (62 頁～ 68 頁) のとおり
- (資料 11) 海外学会・シンポジウム等参加状況 (69 頁～ 71 頁) のとおり
- (資料 11-2) 国内学会・シンポジウム等参加状況 (72 頁～ 76 頁) のとおり
- (資料 12) プロトコル作成への関与一覧 (77 頁～ 79 頁) のとおり

5. 評価について

「評価結果表」(評価結果・講評) (80 頁～ 82 頁) のとおり

6. 外部評価委員について

がん感染症センター 都立駒込病院 放射線診療科部長 唐澤 克之
名古屋大学 附属病院化学療法部教授 安藤 雄一
岐阜大学大学院
腫瘍制御学講座腫瘍外科学分野教授・附属病院がんセンター長 吉田 和弘

7. 評価実施日程について

28. 3. 10～3. 18 評価委員による評価実施 (評価項目毎の採点および講評)

「外部評価項目」

共通達成目標 1

1. 各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組みはなされているか、
2. がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか
3. コース履修者の満足度を満たすための取組みがなされているか、
4. がんの特化した新講座の設置計画は計画どおり進められているか、講座の活動状況は、
5. 教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数、
6. 外部委員による外部評価を実施し、PDCA サイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか、

共通達成目標 2

7. 医療チーム（放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等）の整備数、新たな整備数、
8. 多職種が共同で参加できるカンサーボード等の整備数、新たな導入数、
9. 医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績、
10. コース履修者の医療チーム、カンサーボードへの参加人数、開催数、期間等、
11. 院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績
12. 地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者、
13. 社会への情報発信の取組実績（一般向け講演会の開催回数・参加者数）
14. 本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか、

達成目標 3 国際交流

15. コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数、
16. コース履修者の先進的な海外研究機関等への研修派遣数、国際学会等への参加者数、
17. 国際交流プログラムの実施数、
18. 海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数、
19. コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み、

達成目標 3 連携大学間・職種間連携

20. 連携5大学による「合同フォーラム」の開催、取組み参加状況、
21. 連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数、
22. 連携5大学 コース履修者の e-learning 受講登録率、
23. 新たな e-learning 講義科目の提供の取組みについて、
24. 医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績、

達成目標 3 教育改革

25. がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数、
26. 多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況、
27. がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況、
28. 各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進、

達成目標 3 地域貢献

29. 地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組件数、

30. 市民公開講座等一般向け講演会の開催数、
31. インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況、
32. 各本事業概要等の発行、ホームページの充実への取組み状況、
33. 県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて、
34. I Tを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み、
35. テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み、
36. がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み、

達成目標 3 研究者養成

37. コース履修者が関与したプロトコル（臨床研究実施計画書等）作成件数、
38. 国際学会、英文誌への研究論文発表数、
39. 学会への研究論文の発表推進への取組み、
40. 先進的な海外研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加数、
41. がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み状況、
42. がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況、
43. 新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況

「次代を担う研究者・医療人養成プラン」について

連携する大学

京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学

事業の概要

本事業は、平成24年度がんプロフェッショナル養成基盤推進プランで選定された京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学における次代を担うがん研究者・医療人養成プランに関する取組である。このプランにおいては先端のがん研究者の養成と地域がん医療に貢献するがん専門医療人の養成に重点を置く。前者では次代のがん研究、がん診療のイノベーションを担う人材、新規診断法や治療法、ケア法を開発できる人材を養成し、後者では地域のがん診療拠点と連携して、腫瘍内科医、腫瘍外科医、放射線治療医、乳腺専門医、婦人科腫瘍専門医、緩和医療医、がん専門薬剤師、がん専門看護師を養成する。先端研究施設、がんセンター等での分野横断的研究、集学的研究、腫瘍薬学研究等の基盤を整備、同時に集学的医療、全人的医療プログラムの充実、がん教育の推進、5大学間の人材交流を図り、人材養成とがん医療の発展を目指すものである。

事業の目的・必要性

(1) 全体

本補助事業の全体の目的は、各大学が蓄積するがん研究者およびがん専門医療人の養成基盤をさらに充実させながら、大学院コースにおける基礎研究能力、臨床研究能力の向上、がん専門医療人教育プログラムの多様化と拡充、地域がん診療拠点病院などとの連携強化ならびに問題点の改善を図り、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの目的である次代のがん研究、がん診療を担う人材の養成に資するため、中長期的視野に立って教育基盤の整備を行うことにある。今後のがん医療の発展には腫瘍学を深く理解し、斬新な発想で画期的な医療技術や診断治療法を開発できる人材が欠かせないが、そのためには高度な基礎研究能力、学際的研究能力を備えた先端研究者を養成することが求められている。具体的には、手術、放射線治療の領域では新しい治療機器や治療方法の開発、薬物療法、婦人科がんの領域では新規医薬品、バイオマーカーの開発、臨床腫瘍薬学分野ではトランスレーショナルリサーチの推進、がん専門薬剤師には国際試験、臨床研究の実施、医学物理学分野では高精度放射線治療の実施、推進と次世代型の放射線治療システムの開発、がんリハビリテーションの領域では臨床エビデンスの創生が必要とされており、これらを担う人材の養成が求められている。

地域がん医療貢献に関しては、集学的医療、全人的医療を実践する優れた腫瘍内科医、放射線治療医、緩和医療医の養成が急務であり、疾病頻度の急激な増加に伴い乳腺専門医や婦人科腫瘍専門医の養成は社会的な要請である。化学療法、支持療法、緩和療法、チーム医療を高度に展開できるがん専門薬剤師、がん専門看護師の養成も重要課題である。さらに、国際的視野をもったがん専門医療人が不足しており、その養成も強く望まれている。京都大学、京都薬科大学はがん研究者の養成に、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学は地域がん医療に貢献するがん専門医療人の養成により重きをおくが、

互いに連携協力して人材養成、がん医療の発展に努める。

また、平成19年度からのがんプロフェッショナル養成プランとして実施し、高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成プログラムにおける取組の充実・発展を図り、本取組を次代を担うがん研究者・医療人養成プランとして拡充することにより、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランの目的である次世代のがん研究、がん診療における人材養成基盤の強化を図ることが、本補助事業の目的である。

(2) 27年度

本補助事業の本年度の目的は、上記の次世代のがん研究者、がん診における人材養成基盤の強化を達成するため、がんセンター等での分野横断的、集学的、チーム医療の実践教育の推進、国際的視野を持ったがん研究者・がん専門医療人養成のためのグローバル教育の推進、地域のがん診療拠点と連携したがん教育の推進に重点を置き、必要な教員、事務補佐員の雇用、教育研究プログラムの充実・発展、教材、各種マニュアル等教育研究物品の購入、また、教育・研修プログラムの調査・実施、国際教育プログラムの実施、専用ホームページによる広報活動の充実、一般市民・地方医療機関・関連企業等を対象とした各種研修会、セミナーの実施、および、本事業全体を統括する事業推進協議会の定期的な開催により、基本計画を協議、決定、評価を行い、各事業の円滑な遂行を図ることである。

27年度事業内容

- ① 本事業の遂行に必要な教員及び事務職員を雇用し、次代を担う国際的がん研究者、医療人養成の体制を整備し、27年度がんプロ履修生を募集するとともに、各大学・各コースの養成指導を推進させた。
- ② 本事業全体を統括する運営委員会を開催し、事業の基本方針・基本計画等を協議・決定するとともに、必要に応じて、連携5大学のみならず、連携病院、学生の評価を取り入れ、また、外部有識者による外部評価を実施した。
- ③ 研究者養成では、新しい治療機器や治療方法の開発、新規医薬品・バイオマーカーの開発、トランスレーショナルリサーチの推進、国際試験、臨床研究の実施、高精度放射線治療の実施、放射線治療システムの開発、臨床エビデンスの創生などの指導、医療人養成では、地域医療機関とも連携した医療人養成プログラムを充実・発展させた。
- ④ 各大学において、教材、各種マニュアル等教育研究用物品等を購入し、教育・研究環境の整備充実を図った。
- ⑤ がん研究者、医療人養成のため、研究論文の発表、カンファレンスの参加、プロトコルの作成、学会への参加、専門医取得講習会への参加を推進させ、また、E-learning システムの活用を推進させた。
- ⑥ 海外の先端的がん研究施設や教育研修プロジェクトに人的派遣を行い、国際活動、国際貢献の出来る研究者、医療人養成を推進させた。
- ⑦ 専用ホームページを公開し、社会への積極的な情報公開を行った。
- ⑧ 一般市民、連携病院、地域医療機関、関連企業等を対象とした包括的ながん医療フォーラムや公開講座、セミナー等を開催するほか、各種研修会、研究会等を実施した。

なお、京都大学、京都薬科大学においては、がん研究者養成に重点を置き、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学においては、がん医療人養成に重点を置くが、互いに連携協力して人材養成、がん医療の発展に努めた。

補助事業に係る具体的な成果

- ① 本事業の遂行に必要な教員の雇用により、高度な臨床の現場で診療と同時に学生の教育に注力することができ、各大学が蓄積するがん研究者およびがん専門医療人の養成基盤の充実を図ることができた。さらに事務・事務補佐員の雇用により、多様で専門性が要求される本事業の運営を図ることができた。
- ② 連携大学による共同の「運営委員会」を設置することにより、本補助事業の運営方針についての責任の所在を明確し、連携大学に担当コーディネーターを置くことにより、より細やかな体制を構築することができた。また、外部有識者による外部評価の実施により、PDCAサイクルによる事業推進体制を構築することができた。
- ③ 本プログラムにより、新しい治療機器や治療方法の開発、新規医薬品・バイオマーカーの開発、トランスレーショナルリサーチの推進、国際試験、臨床研究の実施、高精度放射線治療の実施、放射線治療システムの開発、臨床エビデンスの創生に貢献できるがん研究者養成が図られ、また、地域医療機関とも連携して最適な治療を検討できる専門医療人養成が可能となった。
- ④ 各大学の個性や特色、得意分野に応じた教材、各種マニュアル等教育研究用物品の整備により、実習・研究情報の共有化を図るとともに、教育・研究環境の基盤整備の充実が図られ、新しいがん医療を遂行できる腫瘍外科医・内科医、放射線治療医、がん専門薬剤師、看護師の養成が可能となった。
- ⑤ 研究論文の発表、カンファレンスの参加、プロトコルの作成、学会への参加、専門医取得講習会への参加を推進させ、また、E-learningシステムの活用を推進させることにより、次世代のがん研究、がん診療における人材養成基盤の強化を図ることが可能となった。
- ⑥ 国際的視野を持ったがん専門医療人が不足し、その養成が強く望まれており、本プログラムでは、海外の先端のがん研究施設との交流、教育研修プロジェクトへの参加、海外腫瘍学会での論文発表を推進させ、海外最先端がん研究、最先端がん医療技術において国際貢献できるがん研究者、医療人への養成が可能となった。
- ⑦ ホームページの公開により本事業を広く国民に周知することができた。
- ⑧ 各種のフォーラム、公開講座、セミナー、研修会、研究会等を開催することにより、関連病院、地域医療機関及び関連企業等でのがん医療従事者等に対し本事業の取り組みに対する理解を深めることができるとともに、今後の本事業のプログラムの方向性についての認識を持つことができた。また、連携する5大学間での共同開催を推進させることにより連携を強化することができた。

「平成27年度 取組状況等」

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
1	<p>各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組み</p>	<p>事業期間中(5年間) 達成目標</p> <p>○5年間で「専門医療人・受入目標人数」 74名 「研究者養成・受入目標人数」 104名 合計 178名を受入目標とする。</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>○拠点全体における、入学目標数(5年間・178名)に対して、24・25・26年度の3年間で、合計入学者数150名を達成</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>○拠点全体における 27年度入学目標数 40名に対して、47名の入学者を達成、 これにより、入学目標数(5年間・178名)に対して、27年度までの4年間で、合計入学者数197名を達成、最終年度を待たずして、目標を上回る成果を達成 (「資料1」のとおり)</p> <p>○入学者達成率においても、27年度全国平均69%を上回る104%を達成した。(「資料2」のとおり)</p> <p>京都大学: 27年度においても、新入生オリエンテーションにおいて、がん教育の重要性を説明のうえ、履修生の獲得に努め、受入目標人数 20名を上回る入学者数 36名を達成した。 なお、京都大学では、24年度目標人数12名に対して入学者36名、25年度目標人数16名に対して入学者29名、26年度目標人数19名に対して入学者44名を達成している。(「資料1」のとおり)</p> <p>三重大学: 27年度においても、充足率を満たすために、大学院HPでの案内、近隣の大学へのパンフレット郵送、緩和医療関連学会でのPR、三重県内のがん関連の研修会、セミナー等で各コースについての紹介を行い、腫瘍内科専門医養成コースに1名、放射線腫瘍医養成コースに2名、婦人科がん治療専門医養成コースに1名、乳腺外科専門医養成コースに1名、看護コースには3名が入学した。 また、平成28年度には、腫瘍内科専門医養成コースに2名、放射線腫瘍医養成コースに2名、看護コースに2～3名の入学を予定している。</p> <p>滋賀医科大学: 各コースの受入れ目標数に関して、一部のコースについては受入れ目標人数を越す卒業生がいるが、滋賀医科大学のがんプロコース全体として充足率を満たしていないため、各講演会・セミナーにおいて本事業及びコースの説明を行い、学生の入学を促進している。 新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース:2名 新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース:5名 地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース:2名 地域の放射線治療を支える放射線専門医養成コース:1名</p> <p>大阪医科大学: 受け入れ目標人数を充足するためにホームページや大学院案内などでの広報活動を実施、この活動により、28年度には、放射線療法コースにおいて1名の入学者が予定されることとなった。</p> <p>京都薬科大学: 大学ホームページおよび大学院パンフレット等による広報活動をはじめ、本学5～6年次生に対して、学内で大学院説明会を実施している。説明会では大学院進学の意味、「臨床腫瘍薬学」の重要性、がん薬物療法を専門とする薬学研究者養成コース(がんプロコース)等の説明を行い、大学院進学を促進している。</p>	<p>(資料1) 「募集・受入目標・入学人数」</p> <p>(資料2) 「27年度 入学実績」 (京大グループ・全国平均比較)</p>
2	<p>がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか</p>	<p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>24年度・専門医資格取得者数 22名(うち旧がんプロ9名)、25年度・専門医資格取得者数 45名(うち旧がんプロ14名)、26年度・専門医資格取得者数 39名(うち旧がんプロ9名)、合計 106名(うち旧がんプロ32名)が専門医の資格を取得。 今後も、地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた取組みを行うとともに、がんプロ学生が希望する専門資格取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援し認定医取得を推進させる。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学: 27年度においても、引き続き地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた講習会を行うとともに、がんプロ学生が希望する専門資格取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援し認定医取得指導を行ったことにより、25名が専門医資格を取得することが出来た。(受験30名、合格27名)</p>	<p>(資料3) 「資格取得者数一覧」 (24年度～26年度)</p>

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
2	<p>がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか</p>	<p>(抗悪性腫瘍薬コース) がん薬物療法専門医取得または更新の単位となる臨床腫瘍学会の教育セミナーおよび学会参加・発表のサポートを行った。その他、Best of ASCOや癌治療学会など、がん薬物療法知識の取得に役立つセミナーなどに派遣した。がん薬物療法専門医(日本臨床腫瘍学会)の取得に必須となる造血器、呼吸器、消化管、乳房領域の薬物療法が学会認定の指導医のもとで研修出来るプログラムを継続して施行している。また受験のために必須となる病歴要約も専門医の指導教官が添削・指導している。</p> <p>(放射線治療医・医学物理コース) 早朝に各臓器の放射線治療に関する勉強会(放射線治療科モーニングレクチャー)を行い、専門医試験に向けて理解を深めるような取組みを行っている。 日本放射線腫瘍学会、日本医学放射線学会だけでなく、日本がん治療学会、日本がん分子標的学会、欧州放射線腫瘍学会、米国放射線腫瘍学会、など、がん治療の知識取得に役立つ国内外学会での発表の機会を設けた。 専門資格取得のための教育セミナー、研修会への参加を積極的に支援した。</p> <p>(婦人科コース) コース参加の大学院生には婦人科腫瘍専門医取得にむけて、大学病院において症例の経験を積ませている。さらに、学会発表や論文執筆の指導を行っている。平成27年度には大学院生1名が婦人科腫瘍専門医を取得した。さらに平成27年度末に大学院生1名が研修修了し、平成28年度に婦人科腫瘍専門医試験を受験予定である。</p> <p>(薬剤師コース)日本医療薬学会がん専門薬剤師・日本病院薬剤師会がん薬物療法認定薬剤師・日本臨床腫瘍学会外来がん治療認定薬剤師の認定講習会を行うなど、地域代表としての専門資格取得・更新へ向けた取組みを行っている。 また、セミナーや症例検討会を定期的に開催し、最新の文献紹介を通してがん専門薬剤師資格の取得に必要な専門知識を習得する機会を定期的に設けている。</p> <p>(手術療法コース)領域別、疾患別、診断治療法ごとの各種専門医資格の取得に向けて、必要な経験、特に症例経験の集積等に十分配慮し、研修プログラム・講演を実施した。</p> <p>三重大学 各医師コースでは、専門医資格試験に必要な症例の割り当てを行い、学会発表や論文執筆の指導を行っている。 放射線腫瘍医コースでは、日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会、北米放射線学会など、がん治療の知識取得に役立つ国内外学会での発表の機会を設けた。日本放射線腫瘍学会では、コース履修生の優秀演題賞の受賞があった。 薬剤師コースでは、がん医療に関する臨床経験を積むための業務配属を行っている。また、薬剤部にて、計20時間のがん専門領域における講義研修を実施し、研修生の他、当院薬剤部員も多く参加した。 看護コースでは、資格取得準備段階の看護師を対象に、三重がん看護専門看護師会とともに勉強会(1回/月平均)を行い、専門看護師取得に向けた支援を行っている。 平成27年度には、3名ががん看護専門看護師の資格を取得した。三重専門看護師会と共同した勉強会は、大学院生も参加し現役専門看護師とともに学ぶ機会となっている。</p> <p>滋賀医科大学 履修案内において、それぞれのコースにおいて取得が見込まれる学会資格等の概要、資格名・資格要件・取得にむけてのプロセス(入学前・在学中・修了後)を掲載しており、27年度においては、癌専門医療人の育成に向けたセミナーを11回開催した。</p> <p>大阪医科大学 専門的知識向上に向けて、がんセンター主催で外部講師による講演会(9/10・10/8)、研修会(5/19)を行った。</p> <p>京都薬科大学 「がん専門薬剤師」認定を受けるために、資格取得へ向けた指導を行っている。資格取得条件である「一般社団法人 日本医療薬学会」(5年間の入会が必要)への入会を促しており、在籍者5名全員が当該学会に入会している。</p>	
3	<p>コース履修者の満足度を満たすための取組みがなされているか</p>	<p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>京都大学では、毎年、がんプロ履修生全員に「がんプロ学生調査(要望・改善点)」アンケート調査を行っており、その調査結果については、毎年度「外部評価報告書」および「ホームページ」において公表している。 また、25年度外部評価より、調査により明らかになった要望や改善点については、要望等を行ったがんプロ履修生自身や他の履修生も理解できるよう、同じく、「外部評価報告書」および「ホームページ」において、要望、改善点に対する事業方針を回答し公表することとした。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学: 引き続き、京都大学では、コース履修者の満足度を満たす取組みとして、履修生へ「がんプロへの要望・改善点について」の調査を行い、調査結果をHPにおいて公表し、また、質問・改善要望についても、その回答を同じく公表した。 (履修生より「国内外研究発表旅費助成」、「5大学連携・海外合同教育セミナー」について、今後も、さらに拡大して続けてほしいとの回答を得ている。)</p>	<p>京都大学: (資料4) 「がんプロ学生調査(要望・改善点)」のとおりに</p>

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
3	<p>コース履修者の満足度を満たすための取り組みがなされているか</p>	<p>また、各コースにおいても、 (薬剤師コース) 問題点を把握するために、がんプロ大学院生と指導教員や病院薬剤師が常に情報交換できる環境を整備している。 (放射線治療コース) 希望に添った研究テーマ、研究発表機会の提供。講座内での定期的な進捗報告会の開催。 (リハビリコース) 毎月定期ミーティングを行い、情報交換、研究計画進行状況のチェック、アドバイス等を行っている。また国際誌に掲載されたがんリハビリテーション関連の論文を抄読し、知識をupdateするよう務めている。 (婦人科コース) 研究指導を行い、その成果報告のために、国内外の学会発表と論文作成の指導を行っている。さらに、婦人科腫瘍専門医取得のために、手術指導、症例カンファレンスを行っている。 (手術療法コース) 学会、研究会、海外研修等への参加を積極的に推進、最先端の研究を遂行できるように環境を整備、産学連携研究にも参加させている。 (物理コース) 医学物理カンファレンスを、毎週実施している。 (インテンシブ・臨床試験コース) がんプロ教育外来における診療実習終了時に、各履修生に対して日々のフィードバックを行っている。診療実習を通して、患者との医療コミュニケーションにおける指導を行っている。2～3ヶ月毎に受講者から自己評価シートを提出してもらい、その内容に応じて個人面談を行っている。 三重大学 他大学の講義を、e-learnigで受講可能とし、毎月、病院全体で開催されるtumor boardや、がん関連診療科で開催されるがん医療についての講演会をがんプロ推奨セミナーに認定し、臨床的なスキルを身につける教育を積極的に行っている。また、手術ビデオなどのe-learnig教材も作成し、いつでも受講できるよう満足度を満たすための取り組みを継続して行っている。 滋賀医科大学： ・コースのカリキュラムについて、研究者養成コースについては、様々な分野の科目を設定しており、幅広い分野の人材を育成できるよう設定している。 ・がんプロ主催のシンポジウム、国際ジョイントセミナーおよび国内学術集会での成果発表等を積極的に支援し、コース履修者の成果の第三者評価の機会を設け履修意欲の向上に努めている。 大阪医科大学： 化学療法専門医養成コースでは、カンファレンスや症例検討会において、履修生へのマンツーマン指導が行われている。 京都薬科大学 教育研究環境整備に努めるほか、学長をはじめ、指導教員とがんプロコース履修学生の意見交換会を定期的の実施している。月1回程度</p>	<p>京都大学： (資料4) 「がんプロ学生調査(要望・改善点)」のとおり</p>
4	<p>がんの特化した新講座の設置計画は計画どおり進められているか、講座の活動状況は</p>	<p>24年度～26年度 取組状況 申請時に計画された、京都大学、三重大学、滋賀医科大学における、がんの特化した3講座は、予定どおり設置(滋賀医科大学は、25年度設置予定を前倒しで、24年度10月に設置)され、活発な教育・研究が行われている。 27年度 取組状況 京都大学： 当初計画どおり、「腫瘍薬物治療学講座(分野)」を平成24年9月に設置、がんプロ経費にて平成24年12月より新規助教を採用、平成27年度には、教授1、助教1、兼任助教2の4名により、 1) 化学療法を中心とした高度ながん治療の展開を推進させた。 2) 化学療法を中心とした新しいがん医療の開発研究を推進させた。 3) 化学療法を中心とした優れたがん医療の専門医の養成を推進させた。 三重大学： 平成24年5月に「放射線腫瘍学講座」を設置し、放射線治療医の育成および診療・研究に取り組んでいる。放射線腫瘍学講座にはこれまで2名の入学があるが、平成27年度は新たに2名が入学した。北米放射線学会(RSNA)、および米国放射線腫瘍学会(ASTRO)においてコース履修生が研究発表を行い、英語論文を2編発表した。また、シンガポールで行われた5大学連携海外研修に参加し発表を行った。附属病院において放射線治療および先進医療開発に取り組むとともに、地域病院と連携して放射線治療の啓蒙をはかるためにセミナーや市民公開講座を開催した。 滋賀医科大学： ・平成24年度10月に大学の正規講座として「臨床腫瘍学講座」が設置されており、腫瘍学講義を学部・大学院で担当している。また、附属病院腫瘍内科及び腫瘍センターを運営して、がん診療活動と先進医療開発に従事している。さらに、地域病院と連携したセミナーや市民公開講座等を複数回実施している。また同講座より滋賀県がん対策推進協議会に委員を派遣し、「滋賀県がん対策推進計画」の改定や「滋賀県がん対策の推進に関する条例」の策定・推進に引き続き取り組んでいる。 ・教授1名、特任講師2名が配置されている。</p>	<p>(資料5) 「講座設置計画・講座設置状況」</p>

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等																																																										
5	教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数	<p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>教員の指導技術向上等のため、教育研究者、看護師等も含めた医療関係者、がんプロ履修生を参加対象者として、「最新医療技術について」、「最新医療研究データについて」、「がん患者症例と治療法について」などのフォーラム・シンポジウム、特別講演を実施している。また、インテンシブコースにおいては、自大学職員だけでなく、他大学職員も含めて、指導技術向上、医療技術向上のため、「がんチーム医療研修」、「高精度放射線治療研修」「専門薬剤師研修」を開催している。なお、上記FD開催数に入れていないものの、各コース毎に、週1程度、グループ・合同カンファレンスが行われ、教員の指導技術、医療技術の向上に取り組んでいる。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">取組内容</th> <th rowspan="2">大学名等</th> <th colspan="2">24年度</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> </tr> <tr> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">(2)教員の指導技術向上等のためのファカルティ・ディベロップメントの各年度における開催数・参加人数</td> <td>京都大学</td> <td>18</td> <td>1300</td> <td>20</td> <td>1259</td> <td>7</td> <td>574</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>5</td> <td>362</td> <td>17</td> <td>854</td> <td>14</td> <td>624</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>12</td> <td>600</td> <td>11</td> <td>340</td> <td>10</td> <td>620</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>1</td> <td>24</td> <td>1</td> <td>28</td> <td>1</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>5</td> <td>160</td> <td>5</td> <td>140</td> <td>3</td> <td>192</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>41</td> <td>2446</td> <td>54</td> <td>2621</td> <td>35</td> <td>2031</td> </tr> </tbody> </table> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： 引き続き、教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントへの取り組みとして、講演会、セミナー、研修会等を開催、また、各疾患別の症例カンファレンス、キャンサーボードの実施、さらに特定の病態に特化した疾患横断的な診療ボードを設置し積極的にFDに取り組んだ。</p> <p>各コースでは、 (薬剤師コース) 指導教員は指導能力向上のために講演会などに積極的に参加し、FDに取り組んでいる。また、がんプロ学生については、勉強会やセミナーへの参加を励行し、がん薬物療法における必要な専門知識やがん薬物療法についての研究最新知見の習得を行わせている。またそうした勉強会にて、指導教員、がんプロ学生およびがん専門薬剤師で月に1回ディスカッションする機会を設けている。</p> <p>(リハビリテーションコース) 「がんリハビリテーション特別講演会」を2回開催(平成27年7月25日、参加45人、および平成28年2月6日予定)</p> <p>(抗悪性腫瘍薬コース) 全国がんプロのFDのため合同フォーラムへがんプロ教員が参加した。がん薬物療法専門医更新・指導医申請予定者に、必須となる臨床腫瘍学会の教育セミナーおよび学会への参加・発表のサポートを行った。また、Best of ASCOや癌治療学会、がん薬物療法セミナーなどに派遣した。国際的視野をもつ教員を育成するため、国際交流プログラムにおいて大学院生とともに海外派遣(H27年度はシンガポール国立がんセンター、2016年1月7-8日)に同行し、シンポジウムでの発表ならびに専門領域のカンファレンスに参加した。</p> <p>(放射線治療医コース) スタッフ全員が指導医講習会に参加し、指導医の体制を整えている。また、日本放射線腫瘍学会、日本医学放射線学会にて開催される、研修指導者講習会に教員医師が全員参加している。定期的なミーティングを開催し、指導法の改善点を模索する。</p> <p>(医学物理コース) 医学物理士更新予定者に、必須となる学会主催の教育セミナーおよび学会への参加・発表のサポートを行った。</p> <p>(婦人科コース) ①病理カンファレンス(婦人科腫瘍医と病理医)、②画像カンファレンス(婦人科腫瘍医と放射線診断医)、③放射線治療カンファレンス(婦人科腫瘍医と放射線治療医)が毎週行なわれ、また症例に応じ、④外科カンファレンス⑤泌尿器科カンファレンスが2週に1回程度行われ、症例検討会とともにFDに取り組んでいる。</p> <p>三重大学： 医師コースでは、病院全体のtumor board(月1回)、骨転移合同カンファレンス(月1回)のほかに、がん関連診療科で開催される症例検討会、カンファレンスやがん医療に関するセミナーや講演会に積極的に参加し、教員の指導能力向上のためのFDに取り組んでいる。看護コースでは、大学院生が、専攻分野以外の教員の研究を知る機会とするために、2名の教員の研究活動を発表する機会を設け、それらの研究についての質疑を通して、大学院生と教員が歓談する「研究交流会」を開催した。 平成27年9月15日 教員26名(84%)、学生10名 大学院生の研究を指導教員だけでなく、他の専門分野の教員からも教育・研究的視点での意見を得る場として、「研究計画発表会」「研究中間発表会」を開催している。 研究計画発表会 4月9日(48名参加) 研究中間発表会 10月29日(45名参加)</p>	取組内容	大学名等	24年度		25年度		26年度		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	(2)教員の指導技術向上等のためのファカルティ・ディベロップメントの各年度における開催数・参加人数	京都大学	18	1300	20	1259	7	574	三重大学	5	362	17	854	14	624	滋賀医科大学	12	600	11	340	10	620	大阪医科大学	1	24	1	28	1	21	京都薬科大学	5	160	5	140	3	192	計		41	2446	54	2621	35	2031	<p>京都大学： (資料9) 「平成27年度 インテンシブコース実施事業」 (資料9-2) 「シンポジウム等の開催」 「研修会・セミナーの開催」</p>
取組内容	大学名等	24年度			25年度		26年度																																																						
		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数																																																						
(2)教員の指導技術向上等のためのファカルティ・ディベロップメントの各年度における開催数・参加人数	京都大学	18	1300	20	1259	7	574																																																						
	三重大学	5	362	17	854	14	624																																																						
	滋賀医科大学	12	600	11	340	10	620																																																						
	大阪医科大学	1	24	1	28	1	21																																																						
	京都薬科大学	5	160	5	140	3	192																																																						
計		41	2446	54	2621	35	2031																																																						

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
5	教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数	<p>滋賀医科大学： 各教員等に知識を身に付けるよう、病診連携フォーラムや勉強会を開催 ・第1回若年がんを考える会 滋賀生殖医療ネットワーク キックオフセミナー（5月30日/60名） ・第18回病診連携フォーラム（6月28日/49名） ・第19回病診連携フォーラム（11月8日/38名）</p> <p>大阪医科大学： 化学療法センターにおいて、三島圏域緩和ケア研修会を6月13・14日の二日間わたって実施した（参加者34名）。</p> <p>京都薬科大学： がんプロセス履修学生が受講する「特論講義」において、外部招へい講師による特別講義（特別講義終了後に「セミナー」も実施）を実施している。また、大学教員としての指導能力向上を目的とした大学全体としての「FD」については実施しているが、今後は「学部」と「大学院」を区別したFD活動体制について「大学院教育検討委員会（2014.4設置）」を中心に検討し、実施する予定である。 【腫瘍薬学特論】 ・6/26(金)15:15～16:45「がん疼痛緩和薬の臨床開発の実際」 ・7/3(金)13:30～15:00「がん治療およびがん化学療法の最近の事例」 ・7/10(金)13:30～15:00「がん治療およびがん化学療法におけるQOL 評価」</p>	
6	外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか	<p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>24年度評価において、「5大学間の交流や連携を生かさなければならぬ。」との講評結果を受け、翌25年度「5大学事業推進委員会」では、「5大学間の人材交流」、「多職種交流」を推進し、重点項目としている「国際的視野をもったがん研究者・がん医療人養成」を推進するため、5大学連携事業として「海外大学との合同教育セミナー」を決議し、「5大学連携ソウル大学合同教育セミナー」を実施。25年度評価では、「この取り組みを高く評価したい。」との講評を得ることが出来た。 引き続き、26年度では、「5大学連携国立台湾大学合同教育セミナー」を実施。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： プログラムの発展的な見直しが行えるよう、24年度、25年度、26年度に実施した外部評価に引き続き、27年度においても、事業推進委員会において外部評価の実施を決議した。</p> <p>三重大学： 27年度における「5大学事業推進運営委員会」において、外部評価を行い、この評価に基づいて、PDCAサイクルを活用したプログラムの内容の改善に努めることを決定</p> <p>滋賀医科大学： 5大学 事業推進運営委員会において、引き続き外部評価を行うことを確認</p> <p>大阪医科大学： 5大学事業推進運営委員会において、26年度外部評価を行うことを確認</p> <p>京都薬科大学： 27年度事業推進運営委員会において、外部評価を行うことを確認</p>	(資料6) 「27年度 がんプロ事業推進運営委員会議事録」のとおり
7	医療チーム(放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等)の整備数、新たな整備数	<p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>別紙資料「新たに導入したがんに関する医療チーム・事業開始前より設置されていた医療チーム一覧表」のとおり 平成24年度は、原発不明/希少癌ユニット、血液腫瘍ユニット等の5医療チームを新設、平成25年度は、小児がんユニット、家族性腫瘍外来ユニット、婦人科腫瘍ユニット等の5医療チームを新設。26年度は、神経内分泌腫瘍ユニット、緩和ケアチーム(三重大学)の2医療チームが新たに導入された。</p> <p>* ユニットは、癌種ごとに専門診療科(内科、外科、放射線治療科、腫瘍内科、放射線診断科)が、診療科の壁を越えて、カンファレンスはもちろん、同日に外来を行ったり、病棟での診療を行う新しい取組である。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： H27年度は、「クリニカルシーケンスユニット」および「メラノーマユニット」を新設し関連する診療科横断的なチーム医療を実践している。特にクリニカルシーケンスユニットは、京都大学がわが国で初めて導入した次世代シーケンスを用いた網羅的遺伝子解析に基づくゲノム医療の臨床実装であり、腫瘍内科医のみならず臨床遺伝専門医、遺伝カウンセラー、バイオインフォ、基礎研究者などが集うエビデンスのカンファレンスである。また、メラノーマユニットは、ここ数年で急速に進歩した免疫チェックポイント阻害剤を正しく使用するにあたり、皮膚科、腫瘍内科が連携するカンファレンスであり、質の向上に多大に貢献している。</p>	(資料7) 「24年度～26年度に導入された医療チーム」「事業開始前から設置されていた医療チーム」のとおり

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
7	医療チーム(放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等)の整備数、新たな整備数	<p>三重大学: 緩和ケアセンター内に緩和ケアチームが整備されており、センター長、常勤の身体症状に携わる医師を配置し、精神科医、麻酔科医、鍼灸師、薬剤師、看護師、作業療法士、臨床心理士等も緩和ケアチームに加わり、多角的な緩和ケア活動が可能な体制になっている。三重大学に入院して治療を行うがん患者に対して、歯科口腔外科医、歯科衛生士のチームによる治療前の口腔ケアの実施を行う体制を整備している。</p> <p>滋賀医科大学: 附属病院腫瘍内科、腫瘍センター化学療法室・緩和ケアチームを設置して運用している。</p> <p>大阪医科大学: 大阪医科大学では多職種により緩和ケアチームが整備されており、毎週月曜日に定例会を開催している。 また、三島圏域緩和ケア研修会を6月13・14日の二日間わたって実施した。</p>	(資料7) 「24年度～26年度に導入された医療チーム」「事業開始前から設置されていた医療チーム」のとおりに
8	多職種が共同で参加できるカンサーボード等の整備数、新たな導入数	<p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>京都大学: 25年12月より、家族性腫瘍外来が開始されたことに伴い、家族性腫瘍ワーキンググループを設立し、各ユニット長がメンバーとして参加。また、26年1月から、婦人科もがん診療部合同委員会に参加することになり、がんセンターと婦人科の連携を深め婦人科腫瘍のサポート体制が構築されるなど、多職種が参加できるカンサーボードの整備が進められた。 なお、24年度より立ち上げられた・原発不明癌および希少癌に対するカンサーボードは、症例発生から1週間以内のon demand開催で、関連する複数の診療科、放射線診療科、放射線治療科、病理科の参加により速やかに治療方針と担当診療科が決定され治療が導入されている。さらにfollow upボードも開催して関係者へのフィードバックも行っている。 また、小児癌ユニットについても、小児癌に関連する血液内科、整形外科、脳外科などが参加し、診療科横断的な診療が実践されている。</p> <p>三重大学: 多職種の参加が可能なチューマーボード、また、骨転移合同カンファレンスを開催している。</p> <p>滋賀医科大学: 多科の医師、看護師、薬剤師、診療情報管理担当者、臨床研修医、大学院・学部生などが多数参加する、原因不明癌、前立腺原発の横紋筋肉腫、平滑筋肉腫、進行神経芽腫症例と左下腿原発の胞巣型横紋筋肉腫症例が開催された。</p> <p>大阪医科大学: 大阪医科大学では多職種による緩和ケアチームが整備され、定例会が開催されている。また、がんセンターにおいて、研修会・先端医療開発部門(カンサーボード)を、放射線治療装置やPET検査の実際、陽子線治療、ホウ素中性子捕捉療法等に係る現状等を開催した。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学: 新しく「クリニカルシーケンスユニットカンファレンス」、「メラノーマユニットカンファレンス」が整備された。 資料8「カンサーボードの体制」のとおりに</p> <p>三重大学: 多職種が共同で参加できるカンサーボードとして、三重大学がんセンター主催のtumor board、三重骨軟部腫瘍研究会主催の骨転移合同カンファレンスのほかに、合同カンファレンスとして、乳腺外科カンファレンス、婦人科カンファレンス、耳鼻科カンファレンス、脳神経外科カンファレンス、呼吸器カンファレンス、乳腺MRI検討会、食道カンファレンス、乳腺合同検討会、産婦人科症例検討会、歯科口腔外科・放射線治療科合同カンファレンス、術後病理検討会、血液腫瘍内科症例検討会を整備している。</p>	京都大学: (資料8) 「カンサーボード一覧」のとおりに
9	医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績	<p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>新しい医療に対応できるよう、24年度には、原発不明がん／希少がんユニット、血液腫瘍ユニットの設置、25年度には、小児がんユニット、家族性腫瘍外来ユニット、婦人科腫瘍ユニットの設置、26年度には、神経内分泌腫瘍ユニットの設置へと繋がり、医療チーム、カンサーボード以外にも、各コースにおいて、多数のがんプロ履修生が参加する「合同カンファレンス・症例検討会・勉強会」が実施され、カンサーボードの質の向上へと繋がられ、順調に事業が進捗している。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学: (抗悪性腫瘍薬コース) H27年度は、「クリニカルシーケンスユニット」および「メラノーマユニット」を新設し関連する診療科横断的なチーム医療を実践している。特にクリニカルシーケンスユニットは、京都大学がわが国で初めて導入した次世代シーケンスを用いた網羅的遺伝子解析に基づくゲノム医療の臨床実装であり、腫瘍内科医のみならず臨床遺伝専門医、遺伝カウンセラー、バイオインフォ、基礎研究者などが集うエピソードのカンファレンスである。また、メラノーマユニットは、ここ数年で急速に進歩した免疫チェックポイント阻害剤を正しく使用するにあたり、皮膚科、腫瘍内科が連携するカンファレンスであり、質の向上に多大に貢献している。</p>	

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等																																	
9	医療チーム、 カンサーボードの質の向上のための取組実績	<p>(放射線治療医コース) 各ユニットの診療、カンファレンスを通じて、単科だけの診療方針でなく、multidisciplinaryな診療方針について検討する機会を提供している。がんプロセス生には積極的にカンファレンスにて発言するように指導し、主体的に放射線治療科の方針を決定する能力を養成する。</p> <p>(婦人科コース) 医療チーム：医師と看護師により、婦人科がん患者に関するカンファレンスを行っている。また緩和医療の方針について、メディカルソーシャルワーカーも含めたカンファレンスを行っている。 カンサーボード：婦人科医、病理医による病理カンファレンスを行っている。婦人科医、放射線診断医による画像カンファレンスを行っている。婦人科医、放射線治療医による放射線治療カンファレンスを行っている。</p> <p>(リハビリテーションコース)各履修者の研究分野に応じて「次世代の臨床試験を担う人材育成コース」会議や京大病院のがん診療カンファレンス等(がん患者ピアサポート「ともいき京都」、がん相談支援室「チャイルドピア」)に参加させ、情報収集、情報交換に当たらせている。(各履修者が週1回程度)</p> <p>三重大学： 毎月1回開催される、がんセンターの各部門のリーダーと三重県健康福祉部の担当で構成されるリーダー会議で、緩和ケアチーム、口腔ケアチームの活動状況やtumor board、骨転移合同カンファレンスの運営状況が報告され、質の向上に向けた協議を行っている。また、緩和ケアチームの定例会が毎月1回開催され、活動内容についての問題点を把握し、解決に向けての協議を行っている。</p> <p>滋賀医科大学： 複数科の医師、看護師、薬剤師、診療情報管理担当者、臨床研修医、大学院・学部生などが多数参加する全体ミーティングが心がけられ、平成27年度は整形外科症例につき腫瘍内科、消化器・血液内科、放射線科、消化器・乳腺一般外科、泌尿器科、小児科等が参加した全体ミーティングが行われ、臓器別カンサーボードは毎週もしくは隔週で開催された。</p> <p>大阪医科大学： 大阪医科大学では多職種により緩和ケアチームが整備されており、毎週月曜日に定例会を開催している。</p>																																		
10	コース履修者の 医療チーム・ カンサーボードの 参加人数、 開催数、期間等	<p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>「カンサーボードの実施数」(26年度は、10月31日まで)</p> <table border="1" data-bbox="360 1167 1163 1375"> <thead> <tr> <th>事項</th> <th>大学名</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">カンサーボードの実施数</td> <td>京都大学</td> <td>488</td> <td>520</td> <td>512</td> <td>602</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>33</td> <td>34</td> <td>33</td> <td>23</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>130</td> <td>158</td> <td>163</td> <td>137</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>651</td> <td>714</td> <td>711</td> <td>765</td> </tr> </tbody> </table> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： 27年度実施数 586件</p> <p>各コースにおいては、これ以外にも多くの合同カンファレンス等の取り組みが行なわれている。</p> <p>(抗悪性腫瘍薬コース) 胃癌・GISTユニット(腫瘍内科医、消化管外科、毎週1回)、大腸がんユニット(腫瘍内科医、消化管外科、毎週1回)、膵がんユニット((腫瘍内科医、肝胆膵外科、放射線診断科、毎週1回)、食道がんユニット((腫瘍内科医、消化管外科、放射線治療科、頭頸部外科、毎週1回)、原発不明がん・希少がんユニット(腫瘍内科、血液内科、病理診断科、放射線診断科など、随時)、クリニカルシークエンスユニット(腫瘍内科医、外科医、臨床遺伝専門医、遺伝カウンセラー、バイオインフォ、基礎研究者、週1回)、メラノーマユニット(皮膚科、腫瘍内科、月1回)</p> <p>(婦人科コース) 医師と看護師によるカンファレンス;毎週1回月曜日午後。緩和医療の方針についてのカンファレンス;適時(2週間に1回程度)。カンサーボード;病理カンファレンス毎週2回(月、水の朝)。画像カンファレンス毎週1回(水曜日の夕方)。放射線治療カンファレンス毎週1回(木曜日の夕方)。</p> <p>(リハビリテーションコース) 各履修者の研究分野に応じて「次世代の臨床試験を担う人材育成コース」会議や京大病院のがん診療カンファレンス等(がんサポートチームカンファレンス、がん診療部大腸がんユニットカンファレンス、がん相談支援室「チャイルドピア」)に参加させ、情報収集、情報交換に当たらせている。(各履修者が週1回程度)</p>	事項	大学名	23年度	24年度	25年度	26年度	カンサーボードの実施数	京都大学	488	520	512	602	三重大学	33	34	33	23	滋賀医科大学	0	2	3	3	大阪医科大学	130	158	163	137	計		651	714	711	765	(資料8) 「カンサーボード一覧」とお り
事項	大学名	23年度	24年度	25年度	26年度																															
カンサーボードの実施数	京都大学	488	520	512	602																															
	三重大学	33	34	33	23																															
	滋賀医科大学	0	2	3	3																															
	大阪医科大学	130	158	163	137																															
計		651	714	711	765																															

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等																																																												
10	コース履修者の医療チーム・カンサーボードの参加人数、開催数、期間等	<p>(放射線治療医コース・医学物理コース) 医療チーム：放射線治療医師・診療放射線技師・医学物理士・看護師定期的に会議を開き、診療の問題点、安全が確保されているか、などを討論する会議を設けている。病院主催の放射線品質管理委員会に参加しており、医学物理士が副議長を務めている。 カンサーボード：放射線治療科医師・診療放射線技師・医学物理士カンファレンス(毎週月曜日)、放射線治療科マンデーミーティング(毎週月曜日)、医学物理グループカンファレンス(毎週水曜日)、前立腺IMRTカンファレンス(毎週水曜日)、放射線治療症例検討会(毎週水曜日)</p> <p>(放射線治療医コース) 脳腫瘍/小児脳腫瘍ユニットカンファレンス、頭頸部癌ユニットカンファレンス、食道癌ユニットカンファレンス、胃がん/GISTユニットカンファレンス、肺癌・縦隔腫瘍ユニットカンファレンス、乳癌ユニットカンファレンス、膀胱癌ユニットカンファレンス、大腸癌ユニットカンファレンス、前立腺癌ユニットカンファレンス、小児癌ユニットカンファレンス、原発不明がん/希少がんユニットカンファレンス、血液腫瘍カンファレンス、骨転移カンサーボード等、各ユニットカンファレンス・カンサーボードへの参画</p> <p>具体的には、各疾患の初診の段階で放射線治療科医師が主科の先生方と共に診察を行い、当日に治療方針について検討し、適正な治療方針を決定する。この制度により症例の治療方針が速やかに適切に決定され、時間的なロスがなくなり、医療者、患者ともに大きなメリットがある。また、治療中、治療後においても主科の先生方とともに外来をすることで、治療方針の変更、再発のチェック、再発後の救済治療などの方針決定も速やかにされるため、京大病院のがん治療の質向上のために貢献している</p> <p>三重大学： 病院全体のtumor board(月1回)、骨転移合同カンファレンス(月1回)のほかに、乳腺外科カンファレンス(月2回)、婦人科カンファレンス(毎週1回)、耳鼻科カンファレンス(毎週1回)、脳神経外科カンファレンス(毎週1回)、呼吸器カンファレンス(月2回)、乳腺MRI検討会(毎週1回)、食道カンファレンス(月1回)、乳腺合同検討会(月1回)、産婦人科症例検討会(毎週1回) 歯科口腔外科・放射線治療科合同カンファレンス(毎週1回)、術後病理検討会(月2回)、血液腫瘍内科症例検討会(毎週1回)を開催している。</p> <p>滋賀医科大学： ・附属病院腫瘍センターに教育・研修部門を設置し、コース履修者の医療チーム、カンサーボードへの参加を許可している。 ・臓器別カンサーボードは毎週もしくは隔週で開催されている。</p> <p>大阪医科大学： 大阪医科大学では多職種により緩和ケアチームが整備されており、毎週月曜日に定例会を開催している。</p>	(資料8) 「カンサーボード一覧」とお り																																																												
11	院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績	<p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>「院内がん患者登録数」「地域がん患者登録数」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>事項</th> <th>大学名</th> <th>23年度</th> <th>24年度</th> <th>25年度</th> <th>26年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">院内がん患者登録数</td> <td>京都大学</td> <td>3563</td> <td>3669</td> <td>3516</td> <td>3511</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>1530</td> <td>2518</td> <td>2539</td> <td>2822</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>1371</td> <td>1186</td> <td>1506</td> <td>1255</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>2203</td> <td>2572</td> <td>2620</td> <td>2435</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>8,667</td> <td>9,945</td> <td>10,181</td> <td>10,023</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">地域がん患者登録数</td> <td>京都大学</td> <td>3563</td> <td>10569</td> <td>4557</td> <td>3719</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>1530</td> <td>2518</td> <td>2539</td> <td>2822</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>1371</td> <td>1186</td> <td>1506</td> <td>1255</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>2763</td> <td>2847</td> <td>3164</td> <td>2984</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>9,227</td> <td>17,120</td> <td>11,766</td> <td>10,780</td> </tr> </tbody> </table> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： 平成27年度登録件数 【院内がん登録】 国立がん研究センターへ 3,168件 【地域がん登録】 京都府医師会へ 3,328件</p> <p>三重大学： 三重大学がんセンター内で院内がん登録と三重県の地域がん登録業務を実施しており、27年度の院内がん登録件数は2912件で、これらの2912件のデータはすべて地域がん登録データと連携して活用されている。</p> <p>滋賀医科大学： 附属病院腫瘍センターにがん登録部門を設置している。 平成27年4月1日～10月31日「院内がん登録数」1033件 平成27年4月1日～10月31日「院内がん診断数」713件</p> <p>大阪医科大学： 院内がん登録件数： 2,884件、地域がん登録件数： 2,456件</p>	事項	大学名	23年度	24年度	25年度	26年度	院内がん患者登録数	京都大学	3563	3669	3516	3511	三重大学	1530	2518	2539	2822	滋賀医科大学	1371	1186	1506	1255	大阪医科大学	2203	2572	2620	2435	計		8,667	9,945	10,181	10,023	地域がん患者登録数	京都大学	3563	10569	4557	3719	三重大学	1530	2518	2539	2822	滋賀医科大学	1371	1186	1506	1255	大阪医科大学	2763	2847	3164	2984	計		9,227	17,120	11,766	10,780	
事項	大学名	23年度	24年度	25年度	26年度																																																										
院内がん患者登録数	京都大学	3563	3669	3516	3511																																																										
	三重大学	1530	2518	2539	2822																																																										
	滋賀医科大学	1371	1186	1506	1255																																																										
	大阪医科大学	2203	2572	2620	2435																																																										
計		8,667	9,945	10,181	10,023																																																										
地域がん患者登録数	京都大学	3563	10569	4557	3719																																																										
	三重大学	1530	2518	2539	2822																																																										
	滋賀医科大学	1371	1186	1506	1255																																																										
	大阪医科大学	2763	2847	3164	2984																																																										
計		9,227	17,120	11,766	10,780																																																										

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等																																																										
12	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数	<p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>資料「各種団体(地域医療機関、地域医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体)との連携事業」のとおり</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事項</th> <th rowspan="2">大学名</th> <th colspan="2">24年度</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> </tr> <tr> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">各年度中における各種団体(※)との連携事業</td> <td>京都大学</td> <td>18</td> <td>818</td> <td>13</td> <td>418</td> <td>5</td> <td>278</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>16</td> <td>593</td> <td>17</td> <td>573</td> <td>13</td> <td>438</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>13</td> <td>810</td> <td>19</td> <td>1003</td> <td>10</td> <td>620</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>4</td> <td>155</td> <td>4</td> <td>182</td> <td>6</td> <td>248</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>51</td> <td>2,376</td> <td>53</td> <td>2,176</td> <td>34</td> <td>1,584</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 各種団体は、地域医療機関、地域医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体とする。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： 京都大学では、地域貢献のためインテンシブコースを設置(外来がん化学療法チーム養成コース、高度放射線治療を担う人材養成コース、地域がん医療を担う薬剤師養成コース、次世代の臨床試験を担う人材養成コース)として、地域医療機関等と連携した取組みを行っている。</p> <p>(薬剤師養成コース) 毎年、京都府薬剤師会と共催で「地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース」を開催、京都府下の地域がん医療における病院-薬局-在宅の連携を強化するとともに、最新のがん化学療法・緩和ケア・支持療法に関する理解を深め、より質の高い薬学的介入を普及させることを目的としており、大学内外から専門家を招聘して行っている。今年度も平成27年2月6日に開催を行う。(H24年度実績：参加者144名、H25年度実績：120名、H26年度実績：118名)。</p> <p>(外来がん化学療法チーム養成) がん治療に係わる基幹病院の医師・看護師・薬剤師を対象に、最新かつ高度な専門的知識・技術の普及、およびチーム医療のがん専門医療職養成するために、「京大病院がんチーム医療研修」を定期的に開催している。 平成24年：1/24-25, 2/21-22, 3/10, 10/16-17, 11/6-7, 11/27-28, 12/18-19 24施設・72名参加 平成25年：1/22-23, 2/19-20, 3/16, 10/29-30, 11/12-13, 11/26-27, 12/10-11 20施設・60名参加 平成26年：1/21-22, 2/4-5, 3/15, 10/28-29 12施設・36名参加 平成27年度：10/20-21, 11/10-11, 12/8-9, 1/19-20, 2/2-3 14施設・42名参加</p> <p>4年間で全国より計70施設210名の医療者の参加があり、がん薬物療法を中心に基本的スキルの修得だけではなく、京大病院の最新システムの研修を行った。さらに、各施設の現状・問題点・解決法について意見交換を行い、その後の問題点解決に向けた取り組みをフィードバックした。</p> <p>(高度放射線治療を担う人材養成コース) 全国の放射線治療施設の高精度放射線治療技術導入を推進するため、2005年に第1回の高精度放射線治療ワークショップが開始され、毎年2~3回開催している。 2015/6/27-6/28 第27回 高精度放射線治療ワークショップ(4名) 2016/1/23-1/24 第28回 高精度放射線治療ワークショップ(2名) 2015/9/19 第40回京都放射線腫瘍研究会プログラム(91名) 2016/2/20 第41回京都放射線腫瘍研究会プログラム(120名)</p> <p>(医学物理コース) 医学物理教員が124回放射線治療かたろう会(2015/5)、2015年度医学物理士記述対策講習会(2015/9)、がんプロフェッショナル養成推進プラン東北大学医学物理セミナー(2015/10)、2015年度JASTRO教育委員会主催放射線治療・物理学セミナー(2016/3)の講師を担当した(参加者：100名超)</p> <p>(リハビリテーションコース) コース履修生1名が京自助具館自助具専門相談員として活動。またコース修了生が滋賀県立成人病センター「地域医療をチームで担う人材育成事業」で、地域のケアマネージャーや薬剤師、看護師等を対象に、がん患者ケーススタディ資料を作成、また講義を担当。 コース履修生1名が京都滋賀摂食嚥下を考える会福祉食器開発プロジェクトに参画し、第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会(6300名参加)において 展示試食会を実施(平成27年9月11-12日、6300名参加) 第12回京都のがん薬物療法を熱く語る会(京都がん薬物療法専門医会主催)において「5HT3受容体拮抗薬使用に伴う便秘のセルフマネジメント」について講演(平成27年10月1日 100名参加)</p>	事項	大学名	24年度		25年度		26年度		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	各年度中における各種団体(※)との連携事業	京都大学	18	818	13	418	5	278	三重大学	16	593	17	573	13	438	滋賀医科大学	13	810	19	1003	10	620	大阪医科大学	4	155	4	182	6	248	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	計		51	2,376	53	2,176	34	1,584	<p>京都大学： (資料9) 「平成27年度 インテンシブコース実施事業」</p> <p>(資料9-2) 「シンポジウム等の開催」 「研修会・セミナーの開催」</p>
事項	大学名	24年度			25年度		26年度																																																						
		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数																																																						
各年度中における各種団体(※)との連携事業	京都大学	18	818	13	418	5	278																																																						
	三重大学	16	593	17	573	13	438																																																						
	滋賀医科大学	13	810	19	1003	10	620																																																						
	大阪医科大学	4	155	4	182	6	248																																																						
	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0																																																						
計		51	2,376	53	2,176	34	1,584																																																						

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等																																																										
12	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組回数、参加者数	<p>三重大学： 医師コースは、緩和ケア研修会を三重県内の医療機関、医師会と連携し、28年1月10、11日に開催し、50名が参加した。 同様にして、緩和ケアセミナーを27年7月30日(129名参加)、10月15日(183名参加)、28年1月28日(184名参加)に開催し、緩和ケアフォローアップ研修会を2月11日に開催予定である。 三重県内のがん拠点病院、医師会、薬剤師会、看護協会と連携した、がんチーム医療研究会を9月11日(100名参加)に開催した。 看護コースは、三重県看護協会と連携した三重がん看護フォーラム(5月23日開催：100名参加)、日本緩和医療学会と連携した三重大ELNEC-J(10月31日～11月1日開催63名参加)、 三重がん看護専門看護師会との連携による共同勉強会(毎月開催：のべ240名参加)、 三重県がんにおける質の高い看護師育成研修(9～11月：9名)を開催した。</p> <p>滋賀医科大学 ・インテンシブコースを積極的に行っており、薬剤師会等と連携して定期的にセミナーやconference等を行っている。 地域医師会及び医療機関向けのがんの診断、化学療法、放射線療法、緩和ケア、がん診療連携クリニカルパスに関わる研修会を複数開催している。</p> <p>・地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース：3回、548名参加(4月18日/181名、8月29日/178名、平成28年1月30日/189名) ・滋賀県がん薬物療法conference：4回、101名参加(7月1日/44名、9月2日/28名、11月4日/29名、平成28年3月3日予定) ・処方監査における検査値活用のための勉強会：2回、304名参加(6月11日/211名、12月17日/93名) ・第1回若年がんを考える会(5月30日/60名) ・病診連携フォーラム：2回、87名参加(6月28日/49名、11月8日/38名) ・東近江医療圏がん診療市民公開講座：2回、238名参加(9月23日/104名、11月1日/134名)</p> <p>・市民公開講座「最新の外科治療」(9月25日/29名) ・第35回滋賀医科大学公開講座：3回、159名(11月4日/58名、11月11日/50名、11月18日/51名) ・第1回がん治療研修会(11月13日/109名) ・滋賀がん性疼痛セミナー(11月14日/69名) ・第1回緩和ケア講演会(2月17日開催予定) ・第2回緩和ケア講演会(3月23日開催予定)</p> <p>大阪医科大学： 三島圏域がん研究会(5/21・120名、9/17・128名)、三島圏域緩和ケア研修会(6月13～14日・34名)、がんセンター講演会(研修会)(5/19・80名、6/19・137名、9/10・80名、10/8・65名、11/13・19名)を実施。</p> <p>京都薬科大学： ①学内で「臨床薬剤業務セミナー」を定期的に開催している。セミナーでは、地域の現役病院・薬局薬剤師を講師として招き、多様な症例について討議を行っている。 ・4/16(木)循環器病における薬剤師業務(大阪赤十字病院薬剤部) ・6/25(木)「くすり」の歩みとともに―“創”薬そして“育”薬―(京都大学附属病院がんセンター) ・10/1(職)指先からの血液検査「検体測定室」～薬剤師の新たな職能を発揮できるステージとは？(ファルコファーマシーズ 薬局企画部) ・11/26(木)臨床現場におけるITの利活用術(大津市民病院薬剤部)</p> <p>②市民公開講座「大腸がん治療を知ろう」2016年2月20日開催予定。</p>	<p>京都大学： (資料9) 「平成27年度 インテンシブコース実施事業」</p> <p>(資料9-2) 「シンポジウム等の開催」 「研修会・セミナーの開催」</p>																																																										
13	社会への情報発信の取組実績(一般向け講演会の開催回数・参加者数)	<p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>「各年度における市民向けの公開講座・セミナー等一覧表」</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事項</th> <th rowspan="2">大学名</th> <th colspan="2">24年度</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> </tr> <tr> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">各年度中における市民向けの公開講演会・セミナー等</td> <td>京都大学</td> <td>5</td> <td>739</td> <td>5</td> <td>714</td> <td>2</td> <td>122</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>2</td> <td>585</td> <td>3</td> <td>989</td> <td>2</td> <td>380</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>6</td> <td>373</td> <td>14</td> <td>936</td> <td>5</td> <td>213</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>2</td> <td>320</td> <td>3</td> <td>430</td> <td>1</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>15</td> <td>2,017</td> <td>25</td> <td>3,069</td> <td>10</td> <td>795</td> </tr> </tbody> </table> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： 京都大学においては、社会への情報発信として市民公開講座に積極的に取り組んでおり、毎年度、他拠点大学(京都府立医科大学)との連携で、府民公開講座を実施(27年度は、28年3月5日に実施)</p>	事項	大学名	24年度		25年度		26年度		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	各年度中における市民向けの公開講演会・セミナー等	京都大学	5	739	5	714	2	122	三重大学	2	585	3	989	2	380	滋賀医科大学	6	373	14	936	5	213	大阪医科大学	2	320	3	430	1	80	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	計		15	2,017	25	3,069	10	795	<p>(資料9-2) 「シンポジウム等の開催」 「研修会・セミナーの開催」</p>
事項	大学名	24年度			25年度		26年度																																																						
		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数																																																						
各年度中における市民向けの公開講演会・セミナー等	京都大学	5	739	5	714	2	122																																																						
	三重大学	2	585	3	989	2	380																																																						
	滋賀医科大学	6	373	14	936	5	213																																																						
	大阪医科大学	2	320	3	430	1	80																																																						
	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0																																																						
計		15	2,017	25	3,069	10	795																																																						

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
13	<p>社会への情報発信の取組実績(一般向け講演会の開催回数・参加者数)</p>	<p>また、各コースにおいて、 (手術療法・機器開発コース) 平成27年8月28日に「乳癌克服のために～未来を見据えて～」を開催 平成27年10月10日(祝)に「第12回乳がん市民公開講座～がんの治療と就労～」を開催 平成28年3月21日(祝)に「第13回乳がん市民公開講座～乳癌のホルモン治療とその影響～」 (リハビリコース) 「がんリハビリテーション特別講演会」を2回開催(平成27年7月25日:参加人数45名、および平成28年2月6日:参加人数26名) コース履修生1名が、「アクティビティを通じたセルフマネジメント」についてワークショップを主催(平成27年10月1日、10名参加)</p> <p>(抗悪性腫瘍薬コース) 京都大学医学部附属病院臨床研究総合センターが企画する臨床研究教育プログラム(CLIP)に協力し、がんに関する臨床研究の講演を実施、(28年1月28日、参加者30名)</p> <p>三重大学: 市民公開講座を5回開催。「がん検診と救急と」、4月24日、130名。「生命の駅伝ジョイント市民公開講座」、5月16日、165名。「パープルリボン・隣臓がんについて学ぶ」、9月13日、254名。「知ってほしい放射線治療のこと」、11月21日、111名。「がん向き合う栄養とリハビリ」、3月5日予定。「女性のための健康講座」、3月6日開催予定。 また、がん県民運動のがん啓発イベントが9月26日にイオンショッピングセンターで開催され、がんセンターの医師が参加協力した。</p> <p>滋賀医科大学: ・東近江医療圏がん診療市民公開講座:2回、238名参加(9月23日/104名、11月1日/134名) ・市民公開講座「最新の外科治療」(9月25日/29名) ・第35回滋賀医科大学公開講座:3回、159名(11月4日/58名、11月11日/50名、11月18日/51名) ・第1回がん治療研修会(11月13日/109名) ・第1回緩和ケア講演会(2月17日開催予定) ・第2回緩和ケア講演会(3月23日開催予定) ・滋賀がん性疼痛セミナー(平成27年5月10日/69名) ・滋賀癌免疫療法講演会(平成28年3月9日/予定) ・滋賀医科大学腫瘍センター・がん教室(滋賀県NPO法人かいつぶりセンターとの共催)10回実施 大阪医科大学: 市民公開講座「皮膚がん」(27.4.18)、市民公開講座「PET検査・放射線治療」(27.11.21)がんセンター市民公開セミナー「みんなで学ぼう がん医療 胃がん」(28.2.20)を実施。</p> <p>京都薬科大学: 市民公開講座「大腸がん治療を知ろう」2016年2月20日開催予定。</p>	<p>(資料9-2) 「シンポジウム等の開催」 「研修会・セミナーの開催」</p>
14	<p>本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか</p>	<p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>京都大学「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」ホームページを開設し、連携する5大学(京都大学・三重大学・滋賀医科大学・大阪医科大学・京都薬科大学)の市民講座、フォーラム、シンポジウムの開催案内を始めとして、地域医療機関への研修案内等、社会へ向けた積極的な情報発信を行っている。 また、毎年度実施する「外部評価」を、HPにて公開している。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学: 24年度～26年度に引き続き、「がんプロ」ホームページを開設し、連携する5大学(京都大学・三重大学・滋賀医科大学・大阪医科大学・京都薬科大学)の市民講座、フォーラム、シンポジウムの開催案内を始めとして、地域医療機関への研修案内等、社会へ向けた積極的な情報発信を行っている。また、毎年度実施する「外部評価」を、HPにて公開している。</p> <p>三重大学: 三重大学大学院と三重大学がんセンターのホームページでそれぞれ本事業の情報公開を行い、大学院のホームページで入学案内を行い、がんセンターのホームページでがんプロ推奨セミナーの案内をリアルタイムで行っている。</p> <p>滋賀医科大学: 京都大学がんプロのホームページにリンクさせており、また、本学のホームページにおいて、受入人数・授業科目・養成像や実施したセミナー等を掲載している。 平成27年度更新回数17回</p> <p>大阪医科大学: 本学のホームページから本事業ホームページへとリンクさせており、積極的に情報公開を行っている。</p> <p>京都薬科大学: 京都大学で開設されているがんプロホームページを本学ホームページにリンクさせている。本学でがんプロ関連の取り組みを行った場合は、京都大学に情報を提供し、ホームページでの公開を行っている。 本学リンクページ: http://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/graduate/</p>	<p>京都大学: HP http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/</p>

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
15	コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数	<p>達成目標指標</p> <p>○5年間で国際学会、英文誌への研究論文発表 100件を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>国際的視野を持った医療人・研究者育成を目指し、教育研究成果の発表を重点目標として、英文による教育研究発表を推進しており、24年度における国際学会・英文誌等への発表数23件、25年度78件、26年度50件を達成し、当初目標件数 100件を上回る効果・成果が出ている。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： 27年度の英文研究論文発表件数は、82件（資料10 国際学会、英文誌発表）のとおり なお、24年度は、23件、25年度78件、26年度46件を達成しており、京都大学のみで、5大学の5年間の達成目標100件を超える英文による発表を行なっている。</p> <p>三重大学： 医師コースでは、北米放射線学会（27年12月、アメリカ、シカゴ）と米国放射線腫瘍学会（ASTRO）（27年11月、アメリカ、サンジエゴ）に1名ずつ参加し、それぞれ研究発表を行っている。 看護コースでは、アジアがん看護学会（11月20日、韓国ソウル）で、研究発表を行っている</p> <p>滋賀医科大学： 平成27年度 国際学会、英文誌への論文発表 3件</p> <p>京都薬科大学： 各大学院生を直接指導している教授が熱意をもって研究指導にあたり、国際学会・英文誌への成果発表を促している。平成27年度 英文研究論文発表件数 6件</p>	<p>（資料10） 「国際学会・英文誌への論文発表一覧」のとおり （京都大学、滋賀医科大学、京都薬科大学）</p>
16	コース履修者の先進的な海外研究機関等への研修派遣数、国際学会等への参加者数	<p>達成目標指標</p> <p>○5年間で海外の先進的な研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加 60人を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>国際的視野を持った医療人・研究者育成のため、国際学会・シンポジウム等への研究発表参加を推進しており、24年度における海外派遣26件、25年度海外派遣43件、26年度海外派遣23件を達成した。</p> <p>25年度には、連携大学との人材交流、多職種交流の強化、国際的視野をもったがん研究者・がん専門医療人養成を推進させるため、「5大学連携 ソウル大学合同教育セミナー」を実施し、26年度には、27年1月9日より、国立台湾大学と「5大学連携 国立台湾大学合同教育セミナー」を実施し、当初目標を上回る効果・成果が出ている。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： がんプロ学生の海外派遣 55件 （資料10）「海外派遣一覧」のとおり</p> <p>なお、27年度は、5大学連携事業で、「シンガポール国立がんセンター合同教育セミナー」（28.1.6～1.9）を実施</p> <p>三重大学： 医師コースでは、アメリカ血液学会（H27.12月、アメリカ、オーランド）とヨーロッパ血液学会（H27.6月、オーストリア、ウィーン）に各一名、 北米放射線学会（27年12月、アメリカ、シカゴ）と米国放射線腫瘍学会（ASTRO）（27年11月、アメリカ、サンジエゴ）にも1名ずつ参加。 看護コースでは、アジアがん看護学会（11月20日、韓国ソウル）に1名参加している。 5大学連携「シンガポール大学合同教育セミナー」に1名が参加した。</p> <p>滋賀医科大学： 5大学連携「シンガポール大学合同教育セミナー」に大学院生1名が参加した。</p> <p>大阪医科大学： 5大学連携「シンガポール大学合同教育セミナー」に大学院生1名が参加した。</p> <p>京都薬科大学： ・2015年12月4日～12月10日 「57th ASH Annual Meeting & Exposition」（開催地：アメリカ）で、1名の大学院生（がんプロコース履修者）が発表参加した。 ・2016年1月6日～1月9日5大学連携「シンガポール国立がんセンター合同教育セミナー」に、1名の大学院生（がんプロコース履修者）を派遣した。</p>	<p>京都大学： （資料11） 「海外学会・シンポジウム等参加状況」のとおり</p>

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
17	国際交流プログラムの実施数	<p>達成目標指標</p> <p>○5年間での国際交流プログラムの実施 5件を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>1)MDアンダーソンとの交流プログラムにより、「GAP conference MDACC—Kyoto University Symposium」を実施、2)韓国ソウル大学との交流プログラムにより、「Kyoto University Education Seminar conjoint with Seoul National University」、「5大学連携ソウル大合同教育セミナー」を実施、3)インド Christian medical collageとの交流プログラムにより、特別講演を実施、がんプロ履修生の派遣。4)ベルギー自由大学との交流プログラムにより、がんプロ履修生を派遣、当初目標を上回る効果・成果が出ている。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： 27年度においては 1)MDアンダーソンとの交流事業を推進させるため、GAPミーティングにがんプロ指導教員、がんプロ履修生を参加させた。</p> <p>2)MDアンダーソンとの交流プログラムにより、28年3月に、放射線コース指導教員を、頭頸部がん・肺がんに対する強度変調放射線治療の応用研修受講のため米国へ派遣。</p> <p>3)韓国ソウル大学との交流プログラムにより、28年3月6日に、京都大学・ソウル大学合同教育セミナーを実施、</p> <p>4)シンガポール国立がんセンターとの交流プログラムにより、「シンガポール国立がんセンター合同教育セミナー」(28.1.6～1.9)(指導教員6名、履修生12名参加)を実施</p> <p>5)インド Christian medical collage(CMC)との交流プログラムにより、10月15日～22日インド人研究者を受け入れ、共同研究についての会合を行った。</p> <p>6)中国からの留学生を対象に放射線腫瘍学・医学物理教育を行っている。27年度2名(放射線治療医・医学物理コース)</p> <p>7)タイおよびインドネシアからの留学生を対象に放射線腫瘍学・医学物理教育を行った。</p> <p>三重大学： シンガポール国立がんセンターとの合同シンポジウム(28年1月6～9日、シンガポール)に2名(指導教官1名、コース履修者1名)が参加し、それぞれ教育講演と研究発表を行った。 第4回がんプロ国際シンポジウム(28年2月27～28日、大阪)に3名(指導教官2名、コース履修者1名)が参加。</p> <p>滋賀医科大学： ・SUMSプロジェクトとしてアジアの提携大学から継続的に大学院生1名を継続的に受け入れて入る。(平成27年度 1名/1回) ・平成27年度：5大学連携「シンガポール国立がんセンター合同教育セミナー」に大学院生1名、教職員2名(内1名は元がんプロ学生)が参加した。</p> <p>大阪医科大学： 5大学連携「国立台湾大学合同教育セミナー」に、がんプロ履修者1名が参加</p> <p>京都薬科大学： ・Singapore Immunology Network (SiGN), Agency for Science, Technology and Research (A★STAR)との継続的交流を今後さらに発展させるために、2015年11月9日 がんプロ主催のシンポジウム「A★STAR-KPU Joint Symposium」を開催。 ・2016年1月6日～1月9日5大学連携「シンガポール国立がんセンター合同教育セミナー」に、1名の大学院生(がんプロコース履修者)を派遣。</p>	
18	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数	<p>達成目標指標</p> <p>○5年間での海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催10件を目標</p>	

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
18	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数	<p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>1) 海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催では、25年度および26年度に、「GAP conference MDACC-Kyoto University Symposium」を実施、2) 25年度および26年度に、「Kyoto University Education Seminar conjoint with Seoul National University」を開催、3) Christian medical collageとの交流プログラムによる特別講演、4) 三重大学においても、米国インディアナ大学より骨転移の専門家を招いての特別講演が行われるなど、当初目標を大きく上回る効果・成果が出ている。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学: 27年度においては 1) 2015年5月26日 チューリッヒ大学 教授 Roger Stupp, MD “State of the Art and Innovative Therapies in Malignant Glioma” 2) 2015年10月20日 カロリンスカ研究所(スエーデン) Prof. Yihai Cao “Tumor angiogenesis and antiangiogenic therapy” 3) 2016. 3. 6 Kyoto University Education Seminar conjoint with Seoul National University (京都大学・ソウル大学合同セミナー)において、Dr. Eun-Shin Lee、Dr. Han-Byoel Leeの特別講演を実施 4) 平成28年2月29日(月) トロント大学・カナダ Dr. Scott V. Bratman 「Biomarkers for personalized treatment of head and neck cancer」</p> <p>また、がんプロ後援で 5) 2015/10/6-10/7 The 2nd IFOM-Kyoto University Joint Symposium Perspective in Cancer Biology、(176)</p> <p>6) 28.2.19 ハーバード・アメリカ Dr. Rakesh K. Jain 「Reengineering the Tumor Microenvironment Improve Cancer Treatment: Bench to Bedside」(高松宮妃癌研究基金第35回国際講演会を後援)</p> <p>コース協力において 2016/10/21 宋坤医師「中国での婦人科癌手術について」 30名。(婦人科コース)</p> <p>平成27年4月7日、UCSDで臨床ゲノム医療に関わっているSadakatsu Ikeda先生に「アメリカでの Personalized Cancer Medicine の現状と展望」講演会を開催(抗悪性腫瘍薬コース) 平成28年1月26日、米国ワシントン大学で臨床シークエンスに携わっているJunko Oshima先生に「米国における臨床シークエンスの現状」講演会を開催(抗悪性腫瘍薬コース)</p> <p>三重大学: 28年3月10日にアフリカ・ルワンダ外務省医務官の長井俊治医師を講師として、「アフリカのがん医療について」の講演会を開催予定、 また、3月22日には、米国ダートマス腫瘍内科部門 associate professorの白井敬祐医師を講師として、「米国でのチーム医療について」の講演会を開催予定</p> <p>滋賀医科大学: ・平成27年度: 新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース: 埼玉県立がんセンター科長を招き、最新のがん緩和医療の講演会を行った(平成27年5月10日、余宮きのみ、滋賀がん性疼痛セミナー)。 ・新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース: がん研究会有明病院長を招き、最新のがん免疫・抗体療法の講演会を行った(平成28年3月9日、西尾誠人、滋賀癌免疫療法講演会)。</p> <p>京都薬科大学: Singapore Immunology Network (SIgN), Agency for Science, Technology and Research (A★STAR)との継続的交流を今後さらに発展させるために、2015年11月9日 がんプロ主催のシンポジウム「A★STAR-KPU Joint Symposium」を開催。 Dr. Florent Ginhoux, Dr. Andreas Schlitzer, 梶島健治先生の3名による講演が行われた。</p>	(資料9-2) 「シンポジウム等の開催」 「研修会・セミナーの開催」
19	コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み	<p>達成目標指標</p> <p>○がんプロ大学院生が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制を整備することを目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>がんプロ履修生養成にあたって、がんプロ履修生自身による「教育研究成果の発表」は、最も重要なものと考えられ、国内外の学会・シンポジウムでの履修生による研究発表を推進させるため、指導教員の推薦のもと、発表論文名、参加学会名、得られる成果等を記載させ、がんプロ養成委員会において審査のうえ、学会等への発表参加推進のため旅費支援を実施、これにより、履修生による教育研究意欲が大きく向上し、発表論文数の増加に繋がることとなり、当初目標を上回る効果・成果が出ている。</p>	

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
19	<p>コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み</p>	<p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： 27年度においても、「がんプロ養成管理委員会」において、国際的視野を有した研究者への養成のため、国際学会での発表に積極的に参加させることが確認され、がんプロ履修生への海外・国内学会等での研究成果発表者を募集、この募集により、海外19件、国内28件の研究成果発表を「がんプロ」で実施。</p> <p>また、5大学間の人材交流、多職種交流を図るとともに、国際的視野をもったがん研究者・がん専門医療人養成を推進させることを目的として、世界でも有数のがん最先端施設・がん研究者を有する「シンガポール国立がんセンター」との、合同ディスカッション・セミナーを実施、参加履修生全員に、英語による研究成果発表を行わせた。（京都大学11名、三重大学2名、滋賀医科大学3名、大阪医科大学1名、京都薬科大学1名の18名が参加）</p> <p>三重大学： コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等への研修に対しては、各コースのコーディネーターがサポートし、旅費等の経済的な支援を行っている。</p> <p>滋賀医科大学： がんプロコースに在籍する大学院生が、養成のため教育研究上必要と認められ学会等に参加させる場合、旅費等の負担がかからないようにしている。</p> <p>大阪医科大学： コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修を希望し、教育研究上必要と認められた場合、旅費等の一部支給等の助成を行うことができることとしている。</p> <p>京都薬科大学： サポート体制は整備されている。コース履修者が希望すれば学内規程（科学振興基金規程）により、留学に必要な資金に充当できる助成金を支給する。 2016年1月6日～1月9日5大学連携「シンガポール国立がんセンター合同教育セミナー」に、1名の大学院生（がんプロコース履修者）を派遣した。</p>	
20	<p>連携5大学による「合同フォーラム」の開催、取組み参加状況</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○年1回 連携5大学による「合同フォーラム」の開催を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>毎年度「5大学連携・医療フォーラム」を実施、24年度は、北海道大学 白土先生、国立がん研究センター 大津先生、聖隷三方原病院 森田先生による特別講演および文部科学省 渡辺企画官による講演、および、連携する5大学における重点区分と特色を紹介。25年度は、三重大学が当番校として三重県津市において開催され、特別講演のほか各大学の重点区分、履修生による成果発表を紹介。26年度は、京都大学 婦人科学産科学 小西郁生教授による特別講演「卵巣がん治療のゲノム個別化を展望する」、および、各大学における重点区分の取り組み状況の発表、さらに、がんプロ履修生による教育研究成果発表が行なわれ、順調に事業は進捗しており、当初目標どおり効果・成果が出ている。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： 27年度は、28年1月19日 京都大学・芝蘭会館において、「5大学連携・医療フォーラム」を実施、同フォーラムでは、滋賀医科大学 森 毅 講師による特別講演、および、5大学を代表するがんプロ履修生11各による教育研究成果の発表を行なわせた。</p> <p>三重大学： 平成27年度の5大学連携「医療フォーラム」が平成28年1月19日に京都大学で開催され、三重大学から7名（教官3名、コース修了生1名、事務3名）参加し、教官1名が座長、コース修了生1名が研究発表を行った。</p> <p>滋賀医科大学： 平成28年1月19日に京都大学において開催された5大学連携医療フォーラムに参加し、がんプロ特任教員が特別講演として滋賀医科大学の取組みについて発表し、また履修学生が研究内容について発表した。</p> <p>大阪医科大学： 平成28年1月19日に連携5大学による「医療フォーラム」において、がんプロ履修生による、教育研究の成果発表を行った。</p> <p>京都薬科大学： ・2016年1月19日 平成27年度「5大学連携 医療フォーラム」に参加 ・がんプロコース履修者2名が、教育研究成果発表を行なった。</p>	

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
21	連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数	<p>達成目標指標</p> <p>○5年間での連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数30件を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>「5大学事業推進運営委員会」(年2回)を、26年度までに6回開催、「5大学連携医療フォーラム」(年1回)を3回開催、また、25年度より、5大学間の人材交流、多職種交流を目的として「5大学連携 海外大学合同教育セミナー」(年1回)を2回実施、さらに、インテンシブ事業として、連携大学間での情報共有を目的に、毎年、がん専門薬剤師養成連携合同コース会議(年1回)、チーム医療研修(年6回)を開催、さらに、各コースにおいて拠点内大学との研修会が実施され、当初目標を上回る効果・成果が出ている。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学: 27年度においては、5大学連携による「5大学事業推進委員会」を2回開催、また、28年1月19日 京都大学・芝蘭会館において、「5大学連携・医療フォーラム」を実施、さらに、5大学間の人材交流、多職種交流を図るとともに、国際的視野をもったがん研究者・がん専門医療人養成を推進させることを目的として「5大学連携 シンガポール国立がんセンター合同教育セミナー」を実施 (25年度は、「ソウル大学病院」、26年度は、「国立台湾大学」との合同教育セミナーを実施) 各コースにおいては、 (薬剤師コース) 連携大学間での情報共有を目的に、第4回がん専門薬学研究者・がん専門薬剤師養成4大学連携合同コース会議を開催する(平成28年2月13日)</p> <p>(リハビリテーションコース) 大阪医科大学関連のがんリハビリテーションを専門とする医師を、修士課程講義非常勤講師として招請 「第13回関西がんのリハビリテーション研究会」を神戸大学グループと共催(平成27年10月5日)</p> <p>三重大学: 医科歯科連携推進人材養成研修会を平成27年9月19日に、京都大学より講師を招いて、三重県の津市で開催し、102名が参加した。 連携5大学とシンガポール国立がんセンターとの合同シンポジウムが、シンガポールで28年1月6-9日に開催され、2名(医師1名、コース履修者1名)が参加し、それぞれ教育講演と研究発表を行った。 7大学連携先端のがん教育基盤創造プラン第4回国際シンポジウム(28年2月27-28日、大阪)に3名(指導教官2名、コース履修者1名)参加予定。</p> <p>滋賀医科大学: ・がん専門薬剤師・薬学研究者養成コース会議(研究発表会)を本学主催で開催し、京都大学、三重大学、京都薬科大学・本学より33名が参加した。(平成28年2月13日) ・大阪医科大学附属病院・化学療法センターとの合同研修に、大学院生1名、教職員(内1名は元がんプロ学生)が参加予定(平成28年2月25日)。 ・平成27年度化学療法室にて、京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、武庫川女子大学、摂南大学、近畿大学、大阪薬科大学から計40名が研修。合計指導時間 420時間。 ・緩和ケアについては、京都薬科大学、同志社女子大学、神戸薬科大学、大阪大谷大学、立命館大学、武庫川女子大学、摂南大学、近畿大学、大阪薬科大学から計40名が研修。合計指導時間 33時間。</p>	
22	連携5大学 コース履修者の e-learning 受講登録率	<p>達成目標指標</p> <p>○連携5大学がんプロ大学院生の e-learning 受講登録100%を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>25年度より、従来の京都大学版 e-learning に加え、全国版(筑波大学版) e-learning に参加、京都大学版 e-learning については、ホームページにおいて受講者募集案内を行っており、各大学の受講登録率は90%を超えるものであるが、全国版 e-learning の受講登録については、各大学ともに参加後まもないことあって受講登録率は40%となっており、今後、目標に向けて、さらに受講率アップへ向けた取り組みを強化したい。</p>	

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
22	連携5大学コース履修者のe-learning受講登録率	<p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学: 25年度より、従来の京都大学版e-learningに加え、全国版(筑波大学版)e-learning講義の受講を可能とするため連携校5大学が参加した。 なお、京都大学版e-learningについては、京都大学ががんプロホームページにおいて受講募集案内を行っており、京都大学履修生のうち68%が受講登録を行っており、他大学では、滋賀医科大学 100%、三重大学 58%、大阪医科大学100%、京都薬科大学 100%となっている。 全国版e-learningの受講についても、京都大学ががんプロホームページにおいて受講募集案内を行うこととしたが、各大学の受講登録率は、京都大学 56%、滋賀医科大学 40%、三重大学10%、大阪医科大学 38%、京都薬科大学 100%となっており、目標に向けて、さらに受講率アップへ向けた取り組みを強化したい。</p> <p>三重大学: コース履修者のe-learningの講義受講を単位修得の対象科目として認定している。</p> <p>滋賀医科大学: 連携5大学のe-learningおよび全国のe-learningに受講登録させ、受講を積極的に勧めている。</p> <p>大阪医科大学: 連携5大学のe-learningに登録させ、受講を積極的に勧めている(学生登録率100%)。また、全国版e-learning講義についても受講を積極的に勧めている。</p> <p>京都薬科大学: 京都大学版 e-learning講義学生受講登録率 100% 全国版e-learning講義学生受講登録率 100%</p>	
23	新たなe-learning講義科目の提供の取組みについて	<p>達成目標指標</p> <p>○新たなe-learning講義科目の提供を推進させることを目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>京都大学版e-learningに加えて、25年度から全国e-learningに参加し、25年度には、5大学より11本の講義を、26年度は8本の講義を収録し提供を行った。また、全国のEラーニング授業の受講により、当初目標どおり、分野横断的、先進的教育が推進されるものと期待されているところであり、順調に事業が進捗している。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学: 引き続き27年度においても、京都大学版e-learning講義を、がんプロ履修生が受講できるよう提供を行なっている。 27年度においても、全国e-learning講義6本を撮影・収録し、合計収録数を、25本とした。</p> <p>三重大学: 看護学専攻で開講している「看護コンサルテーション論」をe-learningとして2コマ分の収録を行い提供した。</p> <p>滋賀医科大学: e-learningにおいては、今年度は撮影していないが、24年度、25年度と1科目を撮影し、提供している。</p> <p>大阪医科大学: 大阪医科大学として、がん薬物療法に係る収録を行うべく準備を進めている。</p> <p>京都薬科大学: 平成27年度は、2本の講義を撮影・収録</p>	
24	医療チームカンサーボードの質の向上のための取組実績	<p>達成目標指標</p> <p>○医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組推進を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>医療チーム、カンサーボードの質の向上、新しい医療に対応できるよう、24年度には、原発不明がん/希少がんユニット、血液腫瘍ユニットの設置、25年度には、小児がんユニットユニット、家族性腫瘍外来ユニット、婦人科腫瘍ユニットの設置、26年度には、神経内分泌腫瘍ユニットの設置へと繋がり、医療チーム、カンサーボード以外にも、各コースにおいて、多数のがんプロ履修生が参加する「合同カンファレンス・症例検討会・勉強会」が実施され、カンサーボードの質の向上へと繋がられ、順調に事業が進捗している。</p>	(資料8) 「カンサーボード一覧」のとおり

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等																																																										
24	医療チームキャンサーボードの質の向上のための取組実績	<p>27年度 取組状況</p> <p>医療チーム、キャンサーボードの質の向上のための取組として、診療科横断的なキャンサーボードを開催し、診療の質の向上を図り、診療科および職種横断的な合同カンファレンスを定期的に開催し、診療の質の向上と情報の共有を図っている。</p> <p>(抗悪性腫瘍薬コース) 入院患者のがん薬物治療に関する症例検討会を週1回開催、診療科・職種横断的な外来科学療法に関する検討会を月1回、診療科・職種横断的な京大がんセンターの運営に関する会議を緩和ケア、外科等も交えて隔月に開催している。</p> <p>(リハビリコース) 各履修者の研究分野に応じて「次世代の臨床試験を担う人材育成コース」会議や京大病院のがん診療カンファレンス等(がん患者ピアサポート「ともいき京都」、がん相談支援室「チャイルドピア」)に参加させ、情報収集、情報交換に当たらせている。(各履修者が週1回程度)またがん相談支援室「チャイルドピア」では履修生がレクチャーを行った。</p> <p>(婦人科コース) 婦人科腫瘍を担当する医師は、全員緩和ケア講習会を受講するようにしている。病理カンファレンスをより充実させるために、婦人科腫瘍を担当する医師は、平成26-27年度にかけて、病理の教科書(Blaustein's pathology of the female genital tract)を通読した。</p> <p>(手術機器開発コース)専門の異なる各種の専門家が一同に会するように設定するとともに、国内外の他大学、がん診療専門施設の医療チームを訪問、ボードの見学、意見交換を実施、また、雑誌、学会等のキャンサーボードへの参加を推進している。</p> <p>(放射線治療医コース) 各ユニットの診療、カンファレンスを通じて、単科だけの診療方針でなく、multidisciplinaryな診療方針について検討する機会を提供している。がんプロセス生には積極的にカンファレンスにて発言するように指導し、主体的に放射線治療科の方針を決定する能力を養成する。</p> <p>三重大学: 毎月1回開催される、がんセンターの各部門のリーダーと三重県健康福祉部の担当で構成されるリーダー会議で、緩和ケアチーム、口腔ケアチームの活動状況やtumor board、骨転移合同カンファレンスの運営状況が報告され、質の向上に向けた協議を行っている。また、緩和ケアチームの定例会が毎月1回開催され、活動内容についての問題点を把握し、解決に向けての協議を行っている。</p> <p>滋賀医科大学: ・全科キャンサーボードを行う際には、できるだけ多くの関連科・部門の医療関係者に出席の依頼を行い、十分に多方面から質の高い検討ができるように心がけている。 ・平成27年度実施:全体ミーティング1回(各診療科の医師が27名参加した)、臓器別ミーティング(隔週～毎週)が行われた。</p> <p>大阪医科大学: 緩和ケア委員会、緩和ケア研究会、化学療法センター症例検討会等々の多職種での取組みを行っている。</p>																																																											
25	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数	<p>達成目標指標</p> <p>○5年間でがん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績150件を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <table border="1" data-bbox="365 1603 1158 1827"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事項</th> <th rowspan="2">大学名</th> <th colspan="2">24年度</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> </tr> <tr> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">各年度中における各種団体(※)との連携事業</td> <td>京都大学</td> <td>18</td> <td>818</td> <td>13</td> <td>418</td> <td>5</td> <td>278</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>16</td> <td>593</td> <td>17</td> <td>573</td> <td>13</td> <td>438</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>13</td> <td>810</td> <td>19</td> <td>1003</td> <td>10</td> <td>620</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>4</td> <td>155</td> <td>4</td> <td>182</td> <td>6</td> <td>248</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>51</td> <td>2,376</td> <td>53</td> <td>2,176</td> <td>34</td> <td>1,584</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 各種団体は、地域医療機関、地域医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体とする。</p> <p>24年度より、三重大学においては、がんチーム医療研究会(年2回)、滋賀医科大学では、地域医療バス研修会、地域医療機関との合同カンファレンス、地域医師への緩和ケア研修会、がん早期診断研修、薬物療法研修、京都大学においても、高精度放射線ワークショップ(年3回)、チーム医療研修会(年6回)、大阪医科大学では、三島圏域がん研究会(年2回)が毎年度継続的に開催され、地域医療機関と連携した教育が、24年度51件、25年度53件、26年度34件開催され、順調に事業が進捗している。</p>	事項	大学名	24年度		25年度		26年度		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	各年度中における各種団体(※)との連携事業	京都大学	18	818	13	418	5	278	三重大学	16	593	17	573	13	438	滋賀医科大学	13	810	19	1003	10	620	大阪医科大学	4	155	4	182	6	248	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	計		51	2,376	53	2,176	34	1,584	
事項	大学名	24年度			25年度		26年度																																																						
		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数																																																						
各年度中における各種団体(※)との連携事業	京都大学	18	818	13	418	5	278																																																						
	三重大学	16	593	17	573	13	438																																																						
	滋賀医科大学	13	810	19	1003	10	620																																																						
	大阪医科大学	4	155	4	182	6	248																																																						
	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0																																																						
計		51	2,376	53	2,176	34	1,584																																																						

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
25	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数	<p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： がんチーム医療研修(5回)、がんチーム医療研修フォローアップミーティング(1回)、京都放射線腫瘍研究会プログラム(2回、第40回～第41回)、高精度放射線治療ワークショップ(2回、第27回～第28回)、第4回地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース(1回)を実施した。 また、各コースにおいて、(臨床試験を担う人材養成コース)では、京都のがん薬物療法を熱く語る会(2回、第11回～第12回)を実施した。</p> <p>三重大学： 医師コースは、緩和ケア研修会を三重県内の医療機関、医師会と連携し、27年8月29、30日(33名参加)と28年1月10、11日(50名参加)に開催した。同様にして、緩和ケアセミナーを27年7月30日(129名参加)、10月15日(183名参加)、28年1月28日(150名参加)に開催し、早期からの緩和ケアを考える会を4月23日(80名参加)に開催、さらに緩和ケアフォローアップ研修会を2月11日に開催予定である。三重県内のがん拠点病院、医師会、薬剤師会、看護協会と連携した、がんチーム医療研究会を9月11日(100名参加)に、骨軟部疾患集学的治療研究会を28年1月15日(41名参加)に開催した。 看護コースは、三重県看護協会と連携した三重がん看護フォーラム(5月23日開催：100名参加)、日本緩和医療学会と連携した三重大ELNEC-J(10月31日～11月1日開催63名参加、三重がん看護専門看護師会との連携による共同勉強会(毎月開催：のべ240名参加)、三重県がんにおける質の高い看護師育成研修(9～11月：9名)を開催した。</p> <p>滋賀医科大学： ・第1回若年がんを考える会 滋賀生殖医療ネットワーク キックオフセミナー (5月30日/60人) ・平成27年度滋賀がん性疼痛セミナー(平成27年5月10日/69名)。 ・「緩和ケア講演会」を2回(1回目：3/23(1/20開催分の振替)、2回目：2/17開催予定)開催。</p> <p>大阪医科大学： 三島圏域がん研究会(5/21・9/17)、三島圏域緩和ケア研修会(6月13・14日実施)、がんセンター講演会(研修会)(5/19・6/19・9/10・10/8・11/13)を実施。</p>	<p>京都大学： (資料9) 「平成27年度 インテンシブコース実施事業」</p> <p>(資料9-2) 「シンポジウム等の開催」 「研修会・セミナーの開催」</p>
26	多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況	<p>達成目標指標</p> <p>○5年間での多職種連携教育(がんチーム医療研究会(10回・450名)を目標 ○多職種連携教育の取組推進を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>毎年度、京都大学では、高精度放射線ワークショップ(年3回・6名)、チーム医療研修会(年6回・72名)を開催、三重大学では、チーム医療研修会(年2回・200名)、滋賀医科大学においては、緩和ケア研修会(年1回・30名)、大阪医科大学では、緩和ケア事例検討会(年1回)及びOMC緩和ケアセミナー(年1回)が開催され、順調に事業が進捗している。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： 京都大学では、がんチーム医療研修(5回)(薬剤師・看護師・医師42名参加)、がんチーム医療研修フォローアップ研修会(1回・30名参加)、高精度放射線治療ワークショップ(第27回)(医師・技師・医学物理士4名参加)、高精度放射線治療ワークショップ(第28回)(医師・技師・医学物理士2名参加)、第40回京都放射線腫瘍研究会プログラム(医師・技師・医学物理士91名参加)、第41回京都放射線腫瘍研究会プログラム(医師・技師・医学物理士120名参加)を実施。 また、27年度では、5大学間の人材交流、多職種交流を図るため、「5大学連携 シンガポール国立がんセンター合同教育セミナー」を実施(手術療法コース、抗悪性腫瘍コース等各専門コースより12名が参加し、教育研究成果の発表を行った。) また、(次世代の臨床試験を担う人材育成コース)においては、医師(外科、内科)、看護師、薬剤師、CRC、作業療法士などが集う多職種チーム会議を月1回開催し、特にコメディカルが主体となる臨床試験の計画・遂行を支援してきた。ランダム化比較試験(責任者：作業療法士)の結果は英文雑誌に掲載された。別の臨床試験(責任者：作業療法士、CRC)はデータ固定が終了し海外学会にて発表予定である。その他にも進行中の試験3件(責任者：看護師、乳腺外科医、腫瘍内科医)、計画中試験が1件(責任者：腫瘍内科医)となっている。</p> <p>(放射線治療医・医学物理コース) 年に数回、病棟看護師、外来看護師向けの放射線治療に関する勉強会を開催。平成27年度は、病棟看護師向け勉強会3回、外来看護師向け勉強会1回開催した。各参加者は、10名～20名程度である。</p> <p>三重大学： 医師、薬剤師、看護師等の多職種連携による教育推進を目的として、緩和ケア研修会(50名参加)、緩和ケアセミナー(496名参加)、がんチーム医療研究会(100名参加)、骨軟部疾患集学的治療研究会(41名参加)を開催した。</p> <p>滋賀医科大学： 平成27年度地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コースを実施 (第9回：181名、第10回178名、第11回189名が参加)</p> <p>大阪医科大学： 大阪医科大学では多職種により緩和ケアチームが整備されており、毎週月曜日に定例会を開催している。</p>	<p>京都大学： (資料9) 「平成27年度 インテンシブコース実施事業」</p> <p>(資料9-2) 「シンポジウム等の開催」 「研修会・セミナーの開催」</p>

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
27	がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況	<p>達成目標指標</p> <p>○5年間でのがん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会 50名を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>毎年度、三重大学において、緩和ケア修了者に対する「フォローアップ研修会」(年1回・25名)を開催し、がん診療連携拠点病院での緩和ケア教育が実施されている。また、京都大学においても、京都府健康福祉部とも連携した「緩和ケア研修会」、「ELNEG研修会(エンドオブライフケア研修)」を開催するなど、緩和ケア教育の充実に努め、順調に事業を進捗させている。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学: 27年度においても、京都府健康福祉部とも連携して、 ・「第1回緩和ケア(PEACE)研修会」2015/10/3-4 67名参加 ・「第2回緩和ケア(PEACE)研修会(予定)」2016/2/27-28 50名参加予定 ・「ELNEC-J研修会」(エンドオブライフケアについて)2015/9/12-13 54名参加 ・「ELNEC-J研修会」(エンドオブライフケアについて)2015/11/7-8 53名参加を実施、 また、「がん看護研究会(ミニレクチャー)」(6/25, 7/9, 7/23, 8/13, 9/10, 10/8, 10/22, 11/26, 12/10, 12/24, 1/14, 1/28, 2/25)合計90名参加、「レベルアップ研修」(1/12-1/14)10名参加を実施</p> <p>(緩和医療学講座) 京都大学緩和医療研究会を発足して、定期的に研究会を開催している。平成27年度は5回開催した(第5回:2015/4/17に30名参加、第6回:2015/4/23に28名参加、第7回:2015/5/21に34名参加、第8回:2015/10/22に49名参加、第9回:2015/11/19に44名参加)。</p> <p>三重大学: 緩和ケア研修会の修了者に対する、緩和ケアセミナーを27年7月30日、10月15日、28年1月28日に開催、 早期からの緩和ケアを考える会を4月23日に開催、さらに緩和ケアフォローアップ研修会を28年2月11日に開催予定、 早期からの緩和ケアを考える会と緩和ケアフォローアップ研修会の参加者に対して、がんプロの緩和ケアインテンシブコースの修了証を授与</p> <p>滋賀医科大学: 緩和ケアに関わる医療従事者向けの緩和ケア講演会を開催している。 ・第1回がん治療研修会(11月13日/109名) ・第1回緩和ケア講演会(2月17日開催予定) ・第2回緩和ケア講演会(3月23日開催予定)</p>	
28	各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進	<p>達成目標指標</p> <p>○各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>京都大学では、「がんチーム医療研修」(年6回)、高精度放射線治療ワークショップ(年2回)、「放射線腫瘍研究会プログラム」(年1回)を実施、また、三重大学においては、三重県内のがん診療連携拠点病院の医療チームが参加する「がんチーム医療ワークショップ」(年1回)を実施、滋賀医科大学においては、滋賀放射線治療連絡協会と連携した「滋賀放射線治療勉強会」を実施するなど、各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修が推進され、順調に事業が進捗している。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学: 京都大学では、がんチーム医療研修(5回・薬剤師・看護婦・医師42名参加)、がんチーム医療研修フォローアップ研修会(1回・薬剤師・看護婦・医師30名参加)、高精度放射線治療ワークショップ(第27回 2015.6.27-28)(医師・技師・医学物理士4名参加)、(第28回 2016.1.24-25)(医師・医学物理士2名参加)、京都放射線腫瘍研究会プログラム(第40回 2015.9.19)(医師・技師・医学物理士91名参加)、(第41回 2016.2.20)(医師・技師・医学物理士120名参加)を実施。</p> <p>また、リハビリテーションコースでは、 神戸大学と共催し、大阪医科大学、滋賀県立成人病センター、大阪府立成人病センター、兵庫県立がんセンター、神戸低侵襲がん医療センター、淀川キリスト教病院などが参加する「関西がんのリハビリテーション研究会」に履修生を派遣</p> <p>三重大学: 現在、兵庫県立粒子線医療センターと連携して、コース履修者の研修を行っている。</p>	

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等																																																										
28	各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進	<p>滋賀医科大学： ・帝京大学がんセンター・病理学講座・内科学講座で、がんプロ大学院講義1回、がん関係学部講義を4回実施し多職種による先進医療推進の方策に関して啓蒙した。 ・東京大学大学院（TR看護学）での大学院講義を1回実施し、がんTR研究推進の方策に関して啓蒙した。</p> <p>大阪医科大学： 滋賀医科大学との連携交流において、化学療法システムに関する研修（28.2.25）を実施。</p>																																																											
29	地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組件数	<p>達成目標指標</p> <p>○5年間での地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組230件を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事項</th> <th rowspan="2">大学名</th> <th colspan="2">24年度</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> </tr> <tr> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">各年度中における各種団体（※）との連携事業</td> <td>京都大学</td> <td>18</td> <td>818</td> <td>13</td> <td>418</td> <td>5</td> <td>278</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>16</td> <td>593</td> <td>17</td> <td>573</td> <td>13</td> <td>438</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>13</td> <td>810</td> <td>19</td> <td>1003</td> <td>10</td> <td>620</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>4</td> <td>155</td> <td>4</td> <td>182</td> <td>6</td> <td>248</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>51</td> <td>2,376</td> <td>53</td> <td>2,176</td> <td>34</td> <td>1,584</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ 各種団体は、地域医療機関、地域医師会、調剤薬局、薬剤師会、看護団体、患者団体とする。</p> <p>毎年度、京都大学では、高精度放射線ワークショップ（年3回）、チーム医療研修会（年6回）、がん専門薬剤師養成研修（年2回）などを開催、三重大学では、チーム医療研修会（年2回）、がん患者の医科歯科連携講習（年3回）などを開催、滋賀医科大学では、地域連携バス研修会、地域医療機関との合同カンファレンス（年5回）、地域医師への緩和ケア研修会（年2回）などを開催、大阪医科大学では、三島圏緩和ケア研修会（年1回）を開催、地域医療貢献の取り組みを推進させ、順調に事業を進捗させている。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： 京都大学では、がん専門薬剤師養成研修を年2回実施、（2015.4.16、2016.2.6）、がんチーム医療研修を5回実施、（10.20-10.21、11.10-11.11、12.8-12.9、1.19-1.20、2.2-23）、がんチーム医療研修フォローアップ研修会を1回実施（2016.3.5）、高精度放射線治療ワークショップを2回実施、（第27回 2015.6.27-28）、（第28回 2016.1.23-24）、京都放射線腫瘍研究会プログラムを2回実施（第40回 2015.9.19）（第41回 2016.2.20）</p> <p>また、緩和医療研究会を5回開催（第5回：2015/4/17に30名参加、第6回：2015/4/23に28名参加、第7回：2015/5/21に34名参加、第8回：2015/10/22に49名参加、第9回：2015/11/19に44名参加）。緩和ケア研修会を2回開催（2015/10/3-4に64名、2016/2/27-2/28は52名参加予定）。</p> <p>また、京都府健康福祉部とも連携して、 ・「ELNEC-J研修会」（エンドオブライフケアについて）2015/9/12-13 54名参加 ・「ELNEC-J研修会」（エンドオブライフケアについて）2015/11/7-8 53名参加を実施、 また、「がん看護研究会（ミニレクチャー）」（6/25、7/9、7/23、8/13、9/10、10/8、10/22、11/26、12/10、12/24、1/14、1/28、2/25）合計90名参加、「レベルアップ研修」（1/12-1/14）10名参加を実施、</p> <p>三重大学： 県内各医療機関にて放射線治療を行っている医師・技師・看護師を対象に、平成28年2月21日 第1回三重がん放射線治療研究会を開催予定である。 三重県産婦人科医会の協力のもと、コース履修生が中心となり、がん検診受診率の調査を行った。 また、地域医療機関と連携し、がん薬物療法における薬物連携研修会～化学療法レジメン情報を患者指導に活かすために～を27年12月6日（91名参加）開催、引き続き、28年1月21日、3月10日に開催を予定している。</p> <p>滋賀医科大学： ・平成27年度2回：6月28日、11月8日に滋賀県医師会に所属する診療所および医院と滋賀医科大学外科学講座の医師の目に見える連携をめざす「病診連携フォーラム」を開催。 ・「緩和ケア講演会」（2/17、3/23開催予定）を開催し、滋賀県内の医療機関等と情報交換・知識共有を行う予定。 ・平成27年度滋賀がん性疼痛セミナー（平成27年5月10日/69名）。 ・滋賀癌免疫療法講演会（平成28年3月9日/予定） ・第1回若年がんを考える会（平成27年5月30日/60名）</p> <p>大阪医科大学： 大阪医科大学：三島圏域がん研究会（5/21・9/17）、三島圏域緩和ケア研修会（6月13・14日実施）、がんセンター講演会（研修会）（5/19・6/19・9/10・10/8・11/13）を実施。</p>	事項	大学名	24年度		25年度		26年度		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	各年度中における各種団体（※）との連携事業	京都大学	18	818	13	418	5	278	三重大学	16	593	17	573	13	438	滋賀医科大学	13	810	19	1003	10	620	大阪医科大学	4	155	4	182	6	248	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	計		51	2,376	53	2,176	34	1,584	<p>京都大学： （資料9） 「平成27年度 インテンシブコース実施事業」</p>
事項	大学名	24年度			25年度		26年度																																																						
		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数																																																						
各年度中における各種団体（※）との連携事業	京都大学	18	818	13	418	5	278																																																						
	三重大学	16	593	17	573	13	438																																																						
	滋賀医科大学	13	810	19	1003	10	620																																																						
	大阪医科大学	4	155	4	182	6	248																																																						
	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0																																																						
計		51	2,376	53	2,176	34	1,584																																																						

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等																																																										
30	市民公開講座等一般向け講演会の開催数	<p>達成目標指標</p> <p>○5年間で市民公開講座等一般向け講演会の開催15件を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <table border="1" data-bbox="363 344 1158 580"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事項</th> <th rowspan="2">大学名</th> <th colspan="2">24年度</th> <th colspan="2">25年度</th> <th colspan="2">26年度</th> </tr> <tr> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> <th>開催数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">各年度中における市民向けの公開講演会・セミナー等</td> <td>京都大学</td> <td>5</td> <td>739</td> <td>5</td> <td>714</td> <td>2</td> <td>122</td> </tr> <tr> <td>三重大学</td> <td>2</td> <td>585</td> <td>3</td> <td>989</td> <td>2</td> <td>380</td> </tr> <tr> <td>滋賀医科大学</td> <td>6</td> <td>373</td> <td>14</td> <td>936</td> <td>5</td> <td>213</td> </tr> <tr> <td>大阪医科大学</td> <td>2</td> <td>320</td> <td>3</td> <td>430</td> <td>1</td> <td>80</td> </tr> <tr> <td>京都薬科大学</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>15</td> <td>2,017</td> <td>25</td> <td>3,069</td> <td>10</td> <td>795</td> </tr> </tbody> </table> <p>京都大学では、京都府立大学との他拠点大学との連携による「府民公開講座」を毎年度、また、乳がんにかかる「市民公開講座」を年2回程度開催、また、三重大学では、がん患者の医科歯科連携協議を進め、三重県庁で、県知事も交えた医科歯科連携の協定調印式後に、がん患者の医科歯科連携の三重県民への啓発のための市民公開講座を開催するなど、目標を上回る成果があり順調に事業が進捗している。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： 京都大学においては、社会への情報発信として市民公開講座に積極的に取り組んでおり、27年度においも、他拠点大学(京都府立医科大学)との連携で、府民公開講座を開催(28.3.5)</p> <p>また、各コースにおいても、 (リハビリテーションコース)「がんリハビリテーション特別講演会」を2回開催(平成27年7月25日、参加45人、および平成28年2月6日40人)</p> <p>(手術療法コース) 平成27年8月28日に「乳癌克服のために～未来を見据えて～」を開催 平成27年10月10日(祝)に「第12回乳がん市民公開講座～がんの治療と就労～」を開催 平成28年3月21日(祝)に「第13回乳がん市民公開講座～乳癌のホルモン治療とその影響～」を開催</p> <p>(婦人科コース) がんプロ教員が協力し、8月9日 日本癌治療学会キッズセミナー 20名。10月2日 キャンサーマンス京都2015「オープニングイベント」200名。10月10日 キャンサーマンス京都2015「特別企画シンポジウム「がん向き合う」」130名。10月17日 キャンサーマンス京都2015「第11回京都府民公開講座シリーズ[がん生きる]」100名。10月17日 キャンサーマンス京都2015「患者さん、家族のための、がん治療と暮らしフォーラム」100名。10月24日 キャンサーマンス京都2015「ピンクリボンフェスティバル2015京都シンポジウム乳がんのためにひとりぼっちで泣かないで」100名。10月30日 キャンサーマンス京都2015「市民・患者参加プログラム「がん生きる」をサポート」100名。10月31日 キャンサーマンス京都2015「市民・患者参加プログラム「がん生きる」をサポート2」100名。11月1日 キャンサーマンス京都2015「京都府子宮頸がん検診啓発イベント」100名を実施した。</p> <p>三重大学： 市民公開講座を5回開催。 「がん検診と救急と」、27年4月24日、130名参加。「生命の駅伝ジョイント市民公開講座」、5月16日開催、165名参加。「パープルリボン・膵臓がんについて学ぶ」、9月13日開催、254名参加。「知ってほしい放射線治療のこと」、11月21日開催、111名参加。「がん向き合う栄養とリハビリ」、28年3月5日開催予定。</p> <p>滋賀医科大学： ・東近江医療圏がん診療市民公開講座：2回、238名参加(9月23日/104名、11月1日/134名) ・市民公開講座「最新の外科治療」(9月25日/29名) ・第35回滋賀医科大学公開講座：3回、159名(11月4日/58名、11月11日/50名、11月18日/51名) ・滋賀医科大学腫瘍センター・がん教室：全10回(第1回 6月9日/18名、第2回 7月14日/12名、第3回 8月11日/10名、第4回 9月8日/6名、第5回 10月20日/5名、第6回 11月10日/3名、第7回 12月8日/5名、第8回 1月12日/4名、第9回 2月9日/6名、第10回 3月8日予定)</p> <p>大阪医科大学： 市民公開講座「皮膚がん」(27.4.18)、市民公開講座「PET検査・放射線治療」(27.11.21)がんセンター市民公開セミナー「みんなで学ぼうがん医療 胃がん」(28.2.20)を開催</p> <p>京都薬科大学： 市民公開講座「大腸がん治療を知ろう」2016年2月20日開催予定。</p>	事項	大学名	24年度		25年度		26年度		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数	各年度中における市民向けの公開講演会・セミナー等	京都大学	5	739	5	714	2	122	三重大学	2	585	3	989	2	380	滋賀医科大学	6	373	14	936	5	213	大阪医科大学	2	320	3	430	1	80	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0	計		15	2,017	25	3,069	10	795	<p>(資料9-2) 「シンポジウム等の開催」 「研修会・セミナーの開催」</p>
事項	大学名	24年度			25年度		26年度																																																						
		開催数	参加人数	開催数	参加人数	開催数	参加人数																																																						
各年度中における市民向けの公開講演会・セミナー等	京都大学	5	739	5	714	2	122																																																						
	三重大学	2	585	3	989	2	380																																																						
	滋賀医科大学	6	373	14	936	5	213																																																						
	大阪医科大学	2	320	3	430	1	80																																																						
	京都薬科大学	0	0	0	0	0	0																																																						
計		15	2,017	25	3,069	10	795																																																						

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
31	インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況	<p>達成目標指標</p> <p>○インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>京都大学においては、「地域がん医療を担う薬剤師研修会」(年2回)、「がんチーム医療研修」(年6回)、「高精度放射線治療ワークショップ」(年2回)、京都放射線腫瘍研究会プログラム(年1回)を実施、三重大学においては、「がんチーム医療研究会」(年2回)、「治療早期からの集学的緩和ケアを考える会」(年1回)、滋賀医科大学においては、「薬剤師セミナー」(年3回)、「滋賀県がん薬物療法conference」(年3回)を、継続して地域医療への貢献を毎年度行うことにより、順調に事業を進捗させている。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： 27年度においても引き続きインテンシブ事業を活用し、がん専門薬剤師養成研修を年2回実施、(2015.4.16、2016.2.6)、がんチーム医療研修を5回実施、(10.20-10.21、11.10-11.11、12.8-12.9、1.19-1.20、2.2-23)、がんチーム医療研修フォローアップ研修会を1回実施(2016.3.5)、高精度放射線治療ワークショップを2回実施、(第27回 2015.6.27-28)、(第28回 2016.1.23-24)、京都放射線腫瘍研究会プログラムを2回実施(第40回 2015.9.19)(第41回 2016.2.20)、順調に地域医療の貢献を進捗させた。</p> <p>三重大学： インテンシブコースとして、がんチーム医療研究会(27年9月11日、100名参加)、早期からの緩和ケアを考える会(27年4月23日、80名参加)、三重骨軟部疾患集学的治療研究会(28年1月15日、41名参加)、三重肺癌研究会(27年6月20日と12月19日、計91名参加)、緩和ケアフォローアップ研修会(28年2月11日開催予定)を開催し、地域の医療機関でがん診療に従事する多職種に広く参加を呼び掛けて開催している。</p> <p>滋賀医科大学： 薬剤師・放射線コースのインテンシブセミナーの一環として、薬剤師を集めてのセミナーを開催し、地域医療連携を強めている。</p>	<p>京都大学： (資料9) 「平成27年度 インテンシブコース実施事業」</p>
32	本事業概要等の発行、ホームページの充実への取組み状況	<p>達成目標指標</p> <p>○本事業概要等の発行、ホームページの充実を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>拠点としての「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」の概要を作成し、がんプロの目的、必要性、各大学の役割分担などの紹介に努めている。また、ホームページにおいて、特別講演、フォーラム、シンポジウムなどの開催情報を掲載することにより、広く市民、地域への医療関係者、学生への参加案内を行っており、さらに、ホームページでは、毎年度実施している外部評価結果についても掲載し、広く社会に実施事業の理解をいただけるよう発信・充実を努め、当初目標どおり効果・成果が出ている。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： 引き続き、「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン ホームページ」を開設し、トピックスコーナーでは、5大学のシンポジウム、フォーラム等の開催を案内、また、外部評価結果を掲載するなど、広く社会への情報提供に努めている。</p> <p>三重大学： 三重大学大学院で作成したパンフレットとホームページで本事業の案内を行い、パンフレットはインテンシブコースの講演会で積極的に配布している。 また、三重大学がんセンターのホームページでも、本事業の案内を行い、がんプロ推奨セミナーの案内をリアルタイムで行い、県内の医療機関の多職種に参加を積極的に呼び掛けている。</p> <p>滋賀医科大学： 附属病院腫瘍センターのホームページでがんプロなど本事業についての情報を組み込んでおり、定期的に情報をアップデートしている。 ・平成27年度更新回数17回</p>	<p>http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/ 京都大学「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」</p>

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
32	本事業概要等の発行、ホームページの充実への取組み状況	<p>大阪医科大学: 本事業全体の概要等については、主管校の京都大学に情報を集約し発信している。 (http://ganpro.med.kyoto-u.ac.jp/)</p> <p>京都薬科大学: 大学ホームページでの紹介を行っている。平成27年度に「Topics&News」を追加し、開催案内を掲載するなど情報提供に努めている。 本学ホームページ掲載箇所 http://www.kyoto-phu.ac.jp/education_research/project/cancer.html</p>	
33	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて	<p>達成目標指標</p> <p>○県内でのがん対策の企画、立案への貢献を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>三重大学では、がん検診制度管理検討委員会、がん患者医療連携会議などに参加、滋賀医科大学では、滋賀県がん診療連携協議会のすべての部会に参加、大阪医科大学では、大阪府がん診療連携協議会・緩和ケア部会に参加、また、京都大学では、京都府がん医療戦略推進会議の各部会、各WGに参加し、各大学ともに、それぞれの府・県内におけるがん対策の企画立案に大きく貢献しており、順調に事業を進捗させている。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学: 引き続き、京都府がん医療戦略推進会議の各部会活動(院内がん登録部会、相談支援部会、研修部会、緩和ケア部会、看護師研修に関する会議、外来化学療法部会、地域連携部会) また、各WG(胃がん地域連携パスWG、肺がん地域連携パスWG、大腸がん地域連携パスWG、乳がん地域連携パスWG、肝がん地域連携パスWG、前立腺がん地域連携パスWG)に協力して府内におけるがん対策の企画立案に貢献している。</p> <p>各コースにおいては (抗悪性腫瘍薬コース) 地域がん拠点病院を中心に高齢者に対する外来化学療法に関する情報交換会を開催している。 (リハビリコース) コース履修生1名が京自助具館自助具専門相談員として活動。またコース修了生が滋賀県立成人病センター「地域医療をチームで担う人材育成事業」で、地域のケアマネージャーや薬剤師、看護師等を対象に、がん患者ケーススタディ資料を作成、また講義を担当。 コース履修生1名が京都滋賀摂食嚥下を考える会福祉食器開発プロジェクトに参画し、第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会(6300名参加)において 展示試食会を実施(平成27年9月11-12日、6300名参加)</p> <p>(婦人科コース) ①京都府医師会の子宮がん検診委員となっている。②近畿産婦人科学会の腫瘍研究部会の学術委員長および委員を選出している。</p> <p>三重大学: 三重県のがん対策推進プランに盛り込まれている、がん医療における医科歯科連携を推進するために、医科歯科連携人材養成研修会を開催した(27年9月19日、102名参加)。 県内のショッピングセンターで開催した、県健康福祉部主催の「がん県民運動」(27年9月26日)に参加して、がん組織の顕微鏡写真を公開し、がんの啓発活動を行った。 県教育委員会が主催するがんの出前授業にがんセンターの医師が参加した(小学校は27年10月8日、10月17日、12月8日、28年1月22日の計4回、中学校は27年12月4日、11月21日の計2回)し、小学生、中学生との活発な質疑応答があり好評であった。</p> <p>滋賀医科大学: 滋賀県がん診療連携協議会のすべての部会に職員を委員として派遣しており、県内のがん対策の実行を支援している。また滋賀県がん対策推進協議会に委員を派遣し、「滋賀県がん対策推進計画」や「がん対策加速化プラン」の推進に取り組んだ。</p> <p>大阪医科大学: 大阪府がん診療連携協議会・緩和ケア部会等において、各種研修会等の企画・立案等を行い貢献している。</p>	
34	ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み	<p>達成目標指標</p> <p>○ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>三重大学では、三重県内のがん診療連携拠点病院を中核とした周辺地域の医療機関とIDリンクによるITを活用した地域連携ネットワーク網の拡大を進め、ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築を推進、滋賀医科大学では、東近江医療圏メーリングリスト、ならびに診療支援部会機関病院メーリングリストを運用し、医療研修情報が発信され、京都大学では、インターネットアクセスを利用した関連病院からの京大放射線治療プロトコルを閲覧可能としているなど、ITを用いた効率的な連携を推進させ、順調に事業を進捗させている。</p>	

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
34	ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み	<p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： (抗悪性腫瘍薬コース) 電子カルテ情報を共有できるP-リトリーバシステムをがん薬物療法専門医のいる地域医療機関である三菱京都病院、京都民医連中央病院に導入し、新しい緩和ケアの指標作成を進めている。 (放射線コース) 引き続き、インターネットでアクセス可能なサーバーを構築・運用して、関連病院が京大放射線治療プロトコルを閲覧可能としている。 (手術療法コース) 関連施設と共同で共通のフォーマットでの院内診療データベースを運営しており、定期的にこれらのデータを集約し、web上での利用を推進している。</p> <p>三重大学： 三重大学のがんセンターが事務局となり、周辺地域の医療機関とIDリンクによるITを活用した地域医療連携ネットワークを構築し、地域完結型医療を推進している。 現在、医療情報の開示病院は、地域がん診療連携拠点病院、がん診療連携推進病院を中心にして計16施設で、閲覧施設は計219施設になっており、連携する登録患者数は計8427件となっている。</p> <p>滋賀医科大学： ・東近江医療圏メーリングリスト、ならびに滋賀県がん診療連携協議会・診療支援部会機関病院メーリングリストを運用し、医療研修に関わる情報を発信した。 ・がん関係の研修・講演会をTV会議システムでリアルタイムに東近江医療圏病院へ配信している。</p>	
35	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み	<p>達成目標指標</p> <p>○テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>三重大学では、三重県内6カ所の病院が参加した他職種緩和ケアカンファレンス(テレビカンファレンス)を年・12回行っている。(1th Asia Pasific Oncology Nursing Society (Bangkok)にて学会発表)、 また、滋賀医科大学においても、東近江医療圏の滋賀県がん診療連携支援病院とTV会議システム等を用いた合同カンファレンスの体制を構築し、京都大学においても、テレビカンファレンスシステムを用いた症例検討会を定期的に開催しており、多職種カンファレンスによる府県内の医療の質向上を進め、順調に事業を進捗させている。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： テレビカンファレンスシステムを用いた症例検討会を定期的に開催している。(手術療法コース)</p> <p>三重大学： 三重大学を中継拠点として、三重県内7カ所の病院が参加して、毎月1回、多職種による緩和ケアカンファレンスを行っている。 解決困難な事例について、互いの専門性を活かしたタイムリーな検討を行い、施設の垣根を超えた緩和医療の質の向上に貢献している。</p> <p>滋賀医科大学： ・東近江医療圏の滋賀県がん診療連携支援病院とTV会議システム等を用いた合同カンファレンスの体制を構築している。 ・がん関係のCPCをTV会議システムでリアルタイムに東近江医療圏病院へ配信している。 ・滋賀県の運営する遠隔病理診断システムの運用を附属病院で支援している。</p>	
36	がん医療に関する企業等との共催・連携推進の取組み	<p>達成目標指標</p> <p>○がん医療に関する企業等との共催・連携推進を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>がん医療に関する企業等との共催・連携によるセミナー・講演会の開催を推進し、広く医療関係者への技術、知識の普及、一般市民へ正しい知識の普及が行われるよう努めており、京都大学、滋賀医科大学、三重大学の各大学ともに毎年8件程度の共催・連携によるセミナー・講演会を実施、順調に事業を進捗させている。</p>	

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
36	がん医療に関する企業等との共催・連携推進の取組み	<p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： 第30回京都がん研究会(27.9.11)を、第一三共株式会社との共催で実施。 『高齢者と臓器障害をもつ患者のがん治療』、『慢性維持透析患者のがん診療実態調査 Japan CAnceR and hemoDialYsis Cohort (J-CANDY-C)の解析結果報告』、『腎機能低下時の抗がん薬適正使用』の講演が行われた。 第31回京都がん研究会(28.3.18)を、プリストル・マイヤーズ株式会社との共催で実施予定。 『がん患者からサバイバーまでの緩和ケア』、『診断時からの緩和ケアと言われても』、『AYA世代へのケア』の講演が行われる。 第11回・第12回京都のがん薬物療法を熱く語る会(27.4.16、27.10.1)田辺三菱製薬、中外製薬、第一三共共催で実施 CSLベーリングセミナー「新しい展開を迎えた腫瘍免疫」(27.4.23)CSLベーリング社共催で実施 第40回・第41回京都放射線腫瘍研究会セミナー(27.9.19、28.2.20)第一三共共催で実施 市民公開講座「乳癌克服のために～未来を見据えて～」(27.8.28)武田薬品工業共催で実施 第12回乳がん市民公開講座(27.10.10)エーザイ共催で実施、 第29回京滋臨床血液研究会(28.2.5)帝人ファーマ共催で実施 第13回乳がん市民公開講座(28.3.21)を、中外製薬共催で実施予定 また、各コースでの取り組みとして、 (抗悪性腫瘍薬コース) 医師主導試験の成果をMeiji Seika ファルマ社、パナソニックヘルスケア社が薬事承認申請し、平成27年5月末に承認され、その後、学会でのセミナー、講習会を開催し普及に努めている。 平成28年1月26日、米国ワシントン大学でクリニカルシーケンスに携わっているJunko Oshima先生の講演会「米国におけるクリニカルシーケンスの現状」をIT企業の三井情報株式会社と共催した。 平成28年1月30日、日本写真印刷株式会社および株式会社FISと「アルデヒド呼吸試験研究会」を立ち上げた。 (放射線治療医コース) 放射線増感作用を持つ新規分子標的薬の開発を目的とした共同研究を製薬会社2社と行っており、がんプロコース生が実験を担当している。</p> <p>(医学物理コース) 医学物理教員がブレインラボアカデミー(2015/6)の講師を担当した</p> <p>三重大学： がん医療関連企業との共催で、乳癌学術講演会2015 in 三重(27年4月17日、23名参加)、早期からの緩和ケアを考える会(27年4月23日、80名参加)、 三重乳腺診断フォーラム(27年5月16日、101名参加)、 三重骨転移セミナー(27年5月25日、55名参加)、 Mie Gynecologic Oncology Abend 2015(27年7月2日、29名参加)、三重県産婦人科腫瘍研究会(27年7月9日、48名参加)、 三重リンパ腫フォーラム(27年9月1日、56名参加)、 がんチーム医療研究会(27年9月11日、100名参加)、 骨髄腫セミナー in MIE(27年9月18日、33名参加)、 三重骨軟部疾患集学的治療研究会(28年1月15日、41名参加)、 三重肺癌研究会(27年6月20日と12月19日、計91名参加)を開催した。</p> <p>滋賀医科大学： 平成27年度：製薬会社と共催して、9回のセミナー等を実施した。</p>	
37	コース履修者が関与したプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成件数	<p>達成目標指標</p> <p>○5年間でプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成 50件を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成 50件の目標に対して、24年度 32件、25年度 33件、26年度 38件、3年間ですでに103件の、がんプロ履修生によるプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与が達成され、がんプロ履修生の研究者養成に向けた取り組みを、順調に進捗させ、当初目標を上回る効果・成果が出ている。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： 27年度は、52件のがんプロ履修生によるプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与が達成され、当初目標を上回る効果・成果が出ている。 (24年度32件、25年度33件、26年度38件、27年度52件)</p> <p>三重大学： 放射線腫瘍医コースの履修者が1件作成している。</p> <p>滋賀医科大学： 新しいがん診断・治療法開発を担う研究者養成コース履修生が、研究テーマのみプロトコルに関与</p>	京都大学： (資料12) 「プロトコル作成への関与一覧」のとおり

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
38	国際学会、英文誌への研究論文発表数	<p>達成目標指標</p> <p>○5年間で国際学会、英文誌への研究論文発表100件を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>国際的視野を持った医療人・研究者育成を重点目標として目指し、国際学会、英文誌へのがんプロ履修生による教育研究論文発表を推進しており、24年度における国際学会・英文誌等への発表数25件、25年度78件、26年度39件、3年間で合計142件を達成し、5年間で国際学会、英文誌への研究論文発表 100件の目標を大きく上回る効果・成果が達成されている。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： 27年度 82件（24年度 23件、25年度 34件、26年度 46件） 資料10（国際学会・英文誌への論文発表一覧のとおり）</p> <p>三重大学： 医師コースでは、北米放射線学会（27年12月、アメリカ、シカゴ）と米国放射線腫瘍学会（ASTRO）（27年11月、アメリカ、サンジエゴ）に1名ずつ参加し、それぞれ研究発表を行っている。看護コースでは、アジアがん看護学会（11月20日、韓国ソウル）で、研究発表を行っている。</p> <p>滋賀医科大学： 英語で研究成果をまとめ、研究論文を、定期的に提出させている。 平成27年度 3件</p> <p>京都薬科大学： 国際学会、英文誌へ、6件の発表が行なわれた。</p>	<p>（資料10） 「国際学会・英文誌への論文発表一覧」のとおり （京都大学、滋賀医科大学、京都薬科大学）</p>
39	学会への研究論文の発表推進への取組み	<p>達成目標指標</p> <p>○学会への研究論文の発表推進を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>がんプロ履修生養成にあたって、がんプロ履修生自身による「教育研究成果の発表」は、最も重要なものと考えられ、国内外の学会・シンポジウムでの履修生による研究発表を推進させるため、指導教員の推薦の基、発表論文名、参加学会名、得られる成果等を記載させ、がんプロ養成委員会において審査のうえ、学会等への発表参加を推し進めている。これにより、履修生による教育研究意欲が大きく向上し、発表論文数は増加しており、事業を順調に進捗させ、当初目標を上回る効果・成果が出ている。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： 引き続き、「27年度 がんプロ養成管理委員会」においても、国際的視野を有した研究者養成のため、国際学会での研究成果発表に積極的に参加させるとともに、国内においても研究成果を発表させるため国内学会への積極的な参加を推進するための旅費を予算化し発表推進への体制を構築させている。</p> <p>三重大学： 放射線腫瘍医コースで、日本医学放射線学会、日本放射線腫瘍学会、北米放射線学会など、がん治療の知識取得に役立つ国内外学会での発表の機会を設けた。 日本放射線腫瘍学会では、コース履修生の優秀演題賞の受賞があった。</p> <p>滋賀医科大学： 国内学会、和文雑誌への論文発表 平成27年度 7件</p> <p>大阪医科大学： 養成上、コース履修者を海外の先進的医療・研究機関等への研修に参加させる必要が生じた場合、旅費等の一部助成を行うことができることとしている。</p> <p>京都薬科大学： 各大学院生を直接指導している教授が熱意をもって研究指導にあたり、学会での成果発表を促している。 論文掲載許可1報・学会発表12件</p>	<p>（資料10） 「国際学会、英文誌への発表一覧」のとおり</p> <p>（資料10-2） 「国内学会、雑誌等への発表一覧」のとおり</p>

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
40	<p>先進的な海外研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加数</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○5年間の海外の先進的な研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加 60人を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>国際的視野を持った医療人・研究者育成を重点目標として目指し、海外の先進的な研究機関等への研修派遣、国際学会等へのがんプロ履修生の参加 60人を目標として、24年度 26人、25年度 43人、26年度 23人と、3年間で既に合計92件を達成し、5年間の目標60人を大きく上回る効果・成果を達成している。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学: 27年度 55件 (24年度 26件、25年度 34件、26年度 23件) (資料11のとおり)</p> <p>三重大学: コース履修者の国際学会への参加として、アメリカ血液学会(27年12月、アメリカ、オランダ)とヨーロッパ血液学会(27年6月、オーストリア、ウィーン)に各一名が参加し、北米放射線学会(27年12月、アメリカ、シカゴ)と米国放射線腫瘍学会(ASTRO)(27年11月、アメリカ、サンジエゴ)にも1名ずつ参加し、研究発表を行っている。また、アジアがん看護学会(27年11月20日、韓国ソウル)においても研究発表を行っている。</p> <p>滋賀医科大学: 平成27年度:5大学連携「シンガポール大学合同教育セミナー」に大学院生1名が参加した。</p> <p>京都薬科大学: ・「57th ASH Annual Meeting & Exposition」27.12.4～12.10(アメリカ)で1名が発表参加した。</p> <p>・5大学連携「シンガポール国立がんセンター合同教育セミナー」に1名が発表参加した。</p> <p>大阪医科大学: 2016 Gastrointestinal Cancers Symposium(ASCO-GI)に1名が参加</p> <p>5大学連携「シンガポール国立がんセンター合同教育セミナー」に1名が発表参加した。</p>	<p>京都大学: (資料11) 「海外学会・シンポジウム等参加状況」のとおり</p>
41	<p>がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み状況</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制の整備を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>がんプロ履修生養成にあたって、がんプロ履修生が国内外学会に参加し、先進的研究機関において研修に参加させることは養成上必要不可欠であり、上記による国際学会への発表推進を行うとともに、連携大学間交流、多職種交流、先進的がん研究機関との交流を推進させるため、「事業推進運営委員会」決議に基づき、国際交流事業「5大学連携 ソウル大合同教育セミナー」(25年度)、「5大学連携 国立台湾大学合同教育セミナー」(26年度)を実施。「サポート体制」は構築され事業は順調に進捗しており、当初目標を上回る効果・成果が出ている。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学: 引き続き、27年度においても、「がんプロ養成管理委員会」において、研究成果を発表させるため国内外学会への積極的な参加を推進するとともに、横断的・専門的教育の実施知識を得るための旅費を予算化し発表推進の体制を継続させた。</p> <p>また、5大学間の人材交流、多職種交流を図るとともに、国際的視野をもったがん研究者・がん専門医療人養成を推進させることを目的として「シンガポール国立がんセンター」との合同教育セミナーを実施。京都大学11名、三重大学2名、滋賀医科大学3名、大阪医科大学1名、京都薬科大学1名の18名が参加した。</p> <p>三重大学: コース履修者の海外の先進的医療・研究機関等への研修に対しては、各コースのコーディネーターがサポートし、旅費等の経済的な支援を行っている。</p> <p>滋賀医科大学: がんプロコースに在籍する大学院生が、養成のため教育研究上必要と認められ学会等に参加させる場合、旅費等の負担がかからないようにしている。</p> <p>大阪医科大学: 養成上、コース履修者を海外の先進的医療・研究機関等への研修に参加させる必要が生じた場合、旅費等の一部助成を行うことができることとしている。</p> <p>京都薬科大学: 第19回日本がん分子標的治療学会、第74回日本癌学会学術総会等での研修については、各大学院生を直接指導している教授が熱意をもって研究指導にあたり、学会での成果発表を促し、原則として指導教授が同行して行っている。</p>	<p>京都大学: (資料11) 「海外学会・シンポジウム等参加状況」のとおり</p> <p>(資料11-2) 「国内学会、シンポジウム等参加状況」のとおり</p>

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
42	<p>がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○がん研究基盤の発展構築を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>24年度、基盤構築に向け「京都大学腫瘍薬物治療学講座分野」「三重大学放射線腫瘍学講座」「滋賀医科大学総合臨床腫瘍学講座」を設置し、25年度においては、大阪医科大学がんセンター設置、京都大学附属病院がん薬物治療科設置、26年度においては、京都大学「臨床システム腫瘍学寄附講座」設置、京都大学附属病院緩和医療科設置。また、毎年度、新たな医療チームを導入し、研究基盤・医療基盤の発展構築へ向けた取組みを推進させ、事業を順調に進捗させている。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学： (抗悪性腫瘍薬コース) H27年度は、「クリニカルシークエンスユニット」および「メラノーマユニット」を新設し関連する診療科横断的なチーム医療を実践している。特にクリニカルシークエンスユニットは、京都大学がわが国で初めて導入した次世代シークエンサーを用いた網羅的遺伝子解析に基づくゲノム医療の臨床実装であり、腫瘍内科医のみならず臨床遺伝専門医、遺伝カウンセラー、バイオインフォ、基礎研究者などが集うエビソートのカンファレンスである。また、メラノーマユニットは、ここ数年で急速に進歩した免疫チェックポイント阻害剤を正しく使用するにあたり、皮膚科、腫瘍内科が連携するカンファレンスであり、質の向上、研究基盤・医療基盤の発展構築へ向けた取組みを推進させた。</p> (薬剤師コース) がん化学療法に用いる薬物の血中濃度測定に必要な分析機器の導入を進め、測定法の確立に向け取り組んでいる。また、各診療科と連携して抗がん剤の血中濃度測定を実施し、効果や有害事象発現との関連も検討している。 (放射線治療医・医学物理コース) 臨床放射線治療グループ、医学物理グループ、放射線生物学グループに分かれ、新たながん治療法開拓に向けて、研究を推進している。各グループで定期的にミーティングを開催し、さらにグループ間での密接な連携も行う。年に数回、3グループが一堂に会する会議も開催する。 (婦人科コース) 再発卵巣がんに対し、抗PD-1抗体による免疫療法の医師主導治験を行い、その結果を論文発表した。 (次世代の臨床試験を担う人材育成コース) 医師(外科、内科)、看護師、薬剤師、CRC、作業療法士などが集う多職種チーム会議を月1回開催し、特にコメディカルが主体となって行う臨床試験の計画・遂行を支援してきた。ランダム化比較試験(責任者:作業療法士)の結果は英文雑誌に掲載された。別の臨床試験(責任者:作業療法士、CRC)はデータ固定が終了し海外学会にて発表予定である。その他にも進行中の試験3件(責任者:看護師、乳腺外科医、腫瘍内科医)、計画中の試験1件(責任者:腫瘍内科医)となっている。 (リハビリテーションコース) コース履修生1名が、「5FU+シスプラチン療法施行患者の静脈炎に対するステロイド軟膏を用いた予防効果に関する無作為二重盲検並行群間比較試験」のプロトコル作成を支援 三重大学： がんに対するラジオ波治療、凍結療法後に出現する治療標的以外の腫瘍縮小効果のメカニズムを解明するために、臨床・基礎が連携した研究基盤の構築を進めている。臨床検体を用いた研究とマウスを用いたラジオ波焼灼治療後の免疫学的変化についての解析が進行中である。 滋賀医科大学： ・次世代シークエンサー、マイクロアレイ、バイオマーカー解析装置などの機器を用いて、がんプロコース在籍の大学院生にトレーニングを行い、各自の研究に活用している。 ・年々高度化するがん研究の解析装置の研修体制をさらに充実させるとともに、国内連携大学にも大学院生を派遣して研鑽を積ませている。 大阪医科大学： 三島圏域のがん診療連携拠点病院(5病院)が中心となって運営している三島圏域がん研究会に参加し、がん研究基盤の発展構築へ向けて取り組んでいる。 in vivo 2D/3D 発光・蛍光イメージング IVIS Lumina XR-BFMを設置してがんプロコース履修生にも開放し、がん性疼痛モデル動物を用いてのがんの増殖・転移などの可視化による研究を行うなど、がん研究基盤の発展構築に向けて取り組んでいる。 京都薬科大学： 関連する企業との共同研究は「1件」。 ・新規ペプチド型抗がん剤の設計・合成:株式会社ペプチド研究所	

番号	達成目標	取組状況等	取組実績・参考資料等
43	<p>新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況</p>	<p>達成目標指標</p> <p>○新たながん医療分野の開拓推進を目標</p> <p>24年度～26年度 取組状況</p> <p>京都大学においては、キャンサーバイオバンクを運用開始、遺伝子多型解析やバイオマーカー探索・開発、ゲノムワイドな遺伝子発現データ、三重大学においては、がんワクチン、がん遺伝子治療の臨床試験、遺伝子診断研究、滋賀医科大学においては、新たな創薬に向けたがんペプチドワクチン療法の臨床試験研究、大阪医科大学においては、がんに対する標準治療の確立、京都薬科大学においては、創薬・育薬を中心とした新たな治療法開発など、新たながん医療分野の開拓推進に取り組み、事業を順調に進捗させている。</p> <p>27年度 取組状況</p> <p>京都大学:</p> <p>(抗悪性腫瘍薬コース) がん遺伝子検査による適合薬の情報サービス 飲酒の発がんリスク測定器の開発 光線力学療法による再発食道がん治療</p> <p>(婦人科コース) ①ゲノムワイドな遺伝子発現データをもとに、がん医療の個別化をはかることを目指している。 ②がん免疫を賦活させる、免疫療法の臨床試験を行っている。</p> <p>(手術療法コース) 国際共同研究、産学連携研究、多施設共同研究を行い、新規性の高い機器開発、治療標的の探索に関する研究、新しいがんのバイオマーカー開発を行っている。</p> <p>(薬剤師コース) がん化学療法の個別化を目的とした遺伝子多型解析やバイオマーカー探索を進めている。また、バイオ後続品の製剤的な性質についても検討している。</p> <p>(放射線治療医・医学物理コース) 放射線治療科では2011年9月より世界に先駆けてVero4DRTを用いた動物体追尾照射を開始している。肺癌・肝癌・膵癌に対する動物体追尾照射の安全性および有効性を評価することを目的とし、厚生労働科学研究費がん対策推進研究事業の革新的がん医療実用化研究事業より平成26-28年度の研究資金提供を受けて多施設共同試験を実施している。 また、Vero4DRTを用いた革新的新規照射法であるDynamic WaveArc照射法のfirst in humanを目指して、革新的がん医療実用化研究事業より平成27-29年度の研究資金提供を受け研究を推進させている。</p> <p>(放射線治療医コース) 製薬企業との共同研究として、放射線増感効果をもつ分子標的薬の検索、機能解析を行っている。 低酸素などの腫瘍内の微小環境が放射線治療効果に及ぼす影響・機能解明のための研究を推進している。</p> <p>三重大学: がんワクチン、がん遺伝子治療の臨床試験を行っている。 肝臓癌をはじめとして、肺癌、腎臓癌に対するラジオ波治療、凍結療法を行っており、全国的にトップクラスの件数を集めている。 乳癌を中心とした遺伝子診断を進め、カウンセリングを行っている。また、妊娠中に発生する悪性腫瘍につき全国調査を行い、新規臨床研究の基盤を構築中である。 処方せんにがん化学療法のレジメンを印字することにより、保険薬局薬剤師が抗がん剤治療の内容を把握できるようにすることにより、薬業連携、病診薬連携の強化を図っている。抗がん剤調製ロボットの医療現場での普及を図るべく改修を継続的に行っている。</p> <p>滋賀医科大学: ・附属病院での新たな創薬に向けて、腫瘍内科においてがんペプチドワクチン療法の医師主導型臨床試験を実施している。 ・腫瘍内科を中心に国内外の先端的がん免疫療法の医療・研究機関と共同研究体制を構築している。</p> <p>大阪医科大学: がんセンター先端医療開発部門を中心に、BNCT(ホウ素中性子捕捉療法)講演会の実施に取り組んでいる。</p> <p>京都薬科大学: ①一般病院の薬剤師・医師と広く交流し、現場の問題点を解決し、創薬・育薬を中心とした新たな治療法開発に取り組んでいる。②新規の多発性骨髄腫患者に投与しているレナリドマイドの血中濃度を測定し(本学「臨床薬学分野」で実施)、市中病院の薬剤師・医師とレナリドマイドの治療効果および副作用発現率と血中濃度の相関について臨床研究を開始した。</p>	

募集・受入目標・入学人数

	コースを開設している 大学・研究科・専攻名	コース名	修業 年限	養成する専門分野	募集人数					受入目標人数					入学人数						
					H24	H25	H26	H27	H28	H24	H25	H26	H27	H28	H24	H25	H26	H27			
					計					計					計						
①がん教育 改革・がん専門医 療人重点 コース	計				20	4	4	4	4	4	15	3	3	3	3	3	12	4	4	2	3
	三重大学医学系研究科 生命医学専攻	放射線腫瘍医養成 コース	4年	放射線治療医	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	4	1	1	0	2
	三重大学医学系研究科 生命医学専攻	乳腺外科専門医養成 コース	4年	外科系乳腺専門医	10	2	2	2	2	2	5	1	1	1	1	1	6	2	2	1	1
	三重大学医学系研究科 生命医学専攻	がん専門薬剤師養成 コース	4年	がん専門薬剤師	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	2	1	1	0	0
②地域がん医療・がん専門医 療人重点 コース	計				62	10	13	13	13	13	59	9	12	12	13	13	29	9	4	8	8
	三重大学医学系研究科 生命医学専攻	腫瘍内科専門医養成コース	4年	腫瘍内科医	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	4	1	0	2	1
	三重大学医学系研究科 生命医学専攻	婦人科がん治療専門 医養成コース	4年	婦人科腫瘍専門医	10	2	2	2	2	2	7	1	1	1	2	2	3	1	0	1	1
	滋賀医科大学医学系研究科 再生・腫瘍解析系 専攻	地域の放射線治療を 支える専門医養成コース	4年	放射線治療医	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0
	大阪医科大学医学研究科 医学専攻	化学療法専門医養成コース	4年	がん薬物療法	9	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	4	0	1	1	2
	大阪医科大学医学研究科 医学専攻	放射線療法専門医養成コース	4年	放射線治療	9	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	0	0	0	0	0
	大阪医科大学医学研究科 医学専攻	がん手術療法専門医養成コース	4年	がん治療	9	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	4	2	1	1	0
	三重大学医学系研究科 看護学専攻	チーム医療を促進する がん看護を専門とする 看護師養成コース	2年	がん看護	10	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	11	3	2	3	3
滋賀医科大学医学系研究科 再生・腫瘍解析系 専攻	地域のがん薬物療法を 支える薬剤師養成 コース	4年	薬剤師	5	1	1	1	1	1	5	1	1	1	1	1	2	1	0	0	1	
③がん研究 者養成 重点コース	計				128	20	27	27	28	26	104	16	20	23	24	21	156	44	31	45	36
	京都大学医学研究科医 学専攻	次世代の抗悪性腫瘍 薬臨床開発を担う研究者 養成コース	4年	がん薬物療法学	20	3	4	4	5	4	15	2	3	3	4	3	52	12	12	19	9
	京都大学医学研究科医 学専攻	先端的放射線治療開 発を担う研究者養成 コース	4年	放射線治療医	23	3	5	5	5	5	22	3	4	5	5	5	15	3	6	4	2
	京都大学医学研究科医 学専攻	次世代の手術療法・機 器開発を担う研究者養 成コース	4年	外科医、泌尿器科医	18	3	4	4	4	3	15	2	3	4	4	2	53	13	5	16	19
	京都大学医学研究科医 学専攻	新しい婦人科がん治 療の開発を担う研究者 養成コース	4年	婦人科腫瘍専門医	10	2	2	2	2	2	8	1	1	2	2	2	5	2	1	1	1
	京都大学医学研究科医 学専攻	高度ながん研究・がん チーム医療を実践でき るがん専門薬剤師(研 究者)養成コース	4年	薬剤師	10	2	2	2	2	2	5	1	1	1	1	1	7	2	1	2	2
	京都大学薬学研究科薬 学専攻		4年																		
	京都大学医学研究科医 学専攻	先端医学物理研究者養成コース	4年	医学物理	9	1	2	2	2	2	9	1	2	2	2	2	5	1	2	0	2
	京都大学工学研究科原 子核工学専攻		3~5年																		
	京都大学医学研究科人 間健康科学専攻	新しいがんリハビリ テーション法の開発を 担う研究者養成コース	2年 3年	がんリハビリテー ションを専門とする 理学療法士・作業 療法士、医師	10	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	8	3	2	2	1
	滋賀医科大学医学系研究科 再生・腫瘍解析系 専攻	新しいがん診断・治療 法開発を担う研究者養 成コース	4年																		
	滋賀医科大学医学系研究科 再生・腫瘍解析系 専攻	新しい外科医療開発・ 応用を担う研究者養成 コース	4年	外科医療研究医・ 外科専門医	9	1	2	2	2	2	5	1	1	1	1	1	5	3	1	1	0
京都薬科大学大学院薬 学研究科薬学専攻	がん薬物療法を専門と する薬学研究者養成 コース	4年	臨床腫瘍薬学	10	2	2	2	2	2	10	2	2	2	2	2	4	3	1	0	0	
合 計				210	34	44	44	45	43	178	28	35	38	40	37	197	57	39	55	47	

資料 2

27年度入学実績（京大グループ・全国平均）

京大グループ			
	募集人員	入学実績数	達成率
① がん教育改革・がん専門医療人養成	4	3	75%
② 地域がん医療・がん専門医療人養成	13	8	62%
③ がん研究者養成	28	36	129%
合 計	45	47	104%
全 国 平 均			
	募集人員	入学実績数	達成率
① がん教育改革・がん専門医療人養成	413	309	75%
② 地域がん医療・がん専門医療人養成	212	122	58%
③ がん研究者養成	227	155	68%
合 計	852	586	69%

24～27年度入学実績（京大グループ・全国平均）

京大グループ			
	募集人員	入学実績数	達成率
① がん教育改革・がん専門医療人養成	16	12	75%
② 地域がん医療・がん専門医療人養成	49	29	59%
③ がん研究者養成	102	156	153%
合 計	167	197	118%
全 国 平 均			
	募集人員	入学実績数	達成率
① がん教育改革・がん専門医療人養成	1,476	1,258	85%
② 地域がん医療・がん専門医療人養成	693	397	57%
③ がん研究者養成	800	664	83%
合 計	2,969	2,319	78%

資料3

「資格取得者数一覧」(24年度～26年度)

コースを開設している 大学・研究科・専攻名	コース名	修業年限	養成する専門分野	④受験・合格・資格取得者数									
				学会等認定資格名	H24			H25			H26		
					受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数	受験者数	合格者数	資格取得者数
計				28	28	22	42	42	45	35	35	39	
三重大学医学系研究科生命医科学専攻	乳腺外科専門医養成コース	4年	外科系乳腺専門医	乳腺専門医 (日本乳癌学会)	0	0	0	0	0	0	1	1	1
滋賀医科大学医学系研究科医学専攻	地域の放射線治療を支える専門医養成コース	4年	放射線治療医	放射線科専門医 (日本医学放射線学会)	0	0	0	1	1	1	0	0	0
大阪医科大学医学研究科医学専攻	化学療法専門医養成コース	4年	がん薬物療法	がん薬物療法専門医 (日本臨床腫瘍学会)	1	1	0	1	1	1	0	0	1
大阪医科大学医学研究科医学専攻	がん手術療法専門医養成コース	4年	がん治療	がん治療認定医 (日本がん治療認定医機構)	0	0	0	1	1	1	0	0	0
三重大学医学系研究科看護学専攻	チーム医療を促進するがん看護専門看護師養成コース	2年	がん看護	がん看護専門看護師 (日本看護系大学協議会)	0	0	0	1	1	1	4	4	4
滋賀医科大学医学系研究科医学専攻	地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成コース	4年	薬剤師	がん専門薬剤師 (医療薬学会)	0	0	0	1	1	1	0	0	0
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	がん治療認定医 (日本がん治療認定医機構)	2	2	1	4	4	2	0	0	2
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	外科専門医 (日本外科学会)	1	1	1	0	0	0	0	0	0
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	消化器病学会専門医 (日本消化器病学会)	2	2	2	2	2	2	5	5	5
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	日本血液学会認定血液専門医 (日本血液学会)	2	2	1	0	0	2	1	1	1
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	日本消化器内視鏡学会専門医 (日本消化器内視鏡学会)	0	0	0	1	1	1	5	5	5
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	肝臓学会専門医 (肝臓学会)	0	0	0	1	1	0	1	1	1
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	総合内科専門医 (日本内科学会)	1	1	1	1	1	1	0	0	0
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	がん薬物療法専門医 (日本臨床腫瘍学会)	0	0	0	1	1	0	3	3	1
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	感染症専門医 (日本感染症学会)	0	0	0	1	1	1	0	0	0
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	小児科専門医 (日本小児科学会)	0	0	0	0	0	0	1	1	1
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	頭頸部がん専門医 (日本頭頸部外科学会)	0	0	0	0	0	0	1	1	1
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の抗悪性腫瘍薬臨床開発研究者養成コース	4年	がん薬物療法	食道科認定医 (日本食道学会)	1	1	1	0	0	0	0	0	0
京都大学医学研究科医学専攻	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	4年	放射線治療医	放射線治療専門医 (日本放射線腫瘍学会)	4	4	4	2	2	2	0	0	0
京都大学医学研究科医学専攻	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	4年	放射線治療医	がん治療認定医 (日本がん治療認定医機構)	1	1	0	2	2	3	0	0	2
京都大学医学研究科医学専攻	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	4年	放射線治療医	放射線科認定医 (日本医学放射線学会)	0	0	0	1	1	1	1	1	1
京都大学医学研究科医学専攻	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	4年	放射線治療医	日本放射線腫瘍学会認定医 (日本放射線腫瘍学会)	0	0	0	1	1	1	0	0	0
京都大学医学研究科医学専攻	先端的放射線治療開発を担う研究者養成コース	4年	放射線治療医	放射線科専門医 (日本医学放射線学会)	0	0	0	5	5	5	1	1	1
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	外科専門医 (日本外科学会)	4	4	4	1	1	1	1	1	1
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	乳腺専門医 (日本乳癌学会)	1	1	1	3	3	3	0	0	0
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	乳腺認定医 (日本乳癌学会)	2	2	3	0	0	1	0	0	0
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	消化器病学会専門医 (日本消化器病学会)	0	0	0	2	2	2	0	0	0
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	検診マンモグラフィ認定医 (日本乳がん検診精度管理中央機構)	0	0	0	1	1	1	0	0	0
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	肝臓専門医 (日本肝臓学会)	0	0	0	0	0	0	1	1	0
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	消化器内視鏡専門医 (日本消化器内視鏡学会)	0	0	0	0	0	0	1	1	1
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	消化器外科専門医 (日本消化器外科学会)	0	0	0	1	1	1	1	1	1
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	消化器がん外科治療認定医 (日本消化器外科学会)	0	0	0	2	2	2	0	0	0
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	食道科認定医 (日本食道学会)	0	0	0	0	0	0	1	1	1
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	がん治療認定医 (日本がん治療認定医機構)	1	1	1	0	0	1	1	1	0
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	脳神経外科学会専門医 (日本脳神経外科学会)	0	0	0	0	0	0	1	1	1
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	移植認定医 (日本移植学会)	0	0	0	1	1	1	1	1	1
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	放射線科専門医 (日本医学放射線学会)	0	0	0	0	0	0	1	1	1
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	再生医療認定医 (日本再生医療学会)	0	0	0	0	0	0	1	1	1
京都大学医学研究科医学専攻	次世代の手術療法・機器開発を担う研究者養成コース	4年	外科医、泌尿器科医	呼吸器外科専門医 (日本呼吸器外科学会)	0	0	1	0	0	0	0	0	0
京都大学医学研究科医学専攻	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	4年	婦人科腫瘍専門医	がん治療認定医 (日本がん治療認定医機構)	3	3	0	0	0	2	0	0	0
京都大学医学研究科医学専攻	新しい婦人科がん治療の開発を担う研究者養成コース	4年	婦人科腫瘍専門医	婦人科腫瘍専門医 (日本婦人科腫瘍学会)	0	0	0	1	1	0	0	0	2
京都大学医学研究科医学専攻	先端医学物理研究者養成コース	4年	医学物理	医学物理士 (医学物理士認定機構)	1	1	0	0	0	1	1	1	2
滋賀医科大学医学系研究科医学専攻	新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース	4年	外科医療研究医、外科専門医	外科専門医 (日本外科学会)	1	1	1	0	0	0	0	0	0
滋賀医科大学医学系研究科医学専攻	新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース	4年	外科医療研究医、外科専門医	消化器病学会専門医 (日本消化器病学会)	0	0	0	1	1	1	0	0	0
滋賀医科大学医学系研究科医学専攻	新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース	4年	外科医療研究医、外科専門医	がん治療認定医 (日本がん治療認定医機構)	0	0	0	1	1	1	0	0	0
滋賀医科大学医学系研究科医学専攻	新しい外科医療開発・応用を担う研究者養成コース	4年	外科医療研究医、外科専門医	乳腺専門医 (日本乳癌学会)	0	0	0	1	1	1	0	0	0

がんプロ学生調査(要望・改善点)

※回答中、「特になし」については掲載を省略

NO.	項 目	要望、改善点、要望等に対する回答	コース名
1	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	4年間、海外研究発表並びに論文投稿を継続的に行う事が出来たのも、がんプロの研究発表支援並びに様々なセミナー・シンポジウム開催のお陰で有り、深く感謝しております。	手術療法・機器開発
2	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表旅費助成は助かりました。次年度も継続をお願いいたします。	婦人科がん治療開発
3	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	いつも大変お世話になりありがとうございます。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
4	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	国内外の学会発表に際し助成をいただき、大変感謝しております。専門医取得、論文発表、学会発表に努め、少しでも貢献できますよう努めていく所存です。今後ともよろしくをお願いいたします。	手術療法・機器開発
5	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	今年度は研究発表旅費助成の第3次募集がなかったのが残念でした。 【 27年度より、年2回の募集とさせていただきます。アブストラクトの受理状況が不明で申請できない場合等にあつては、事務へ相談していただくことになっております。】	手術療法・機器開発
6	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	27年4月18日～27年4月22日に米国フィラデルフィアにて開催されましたAACR学会(AACR Annual Meeting 2015)に参加し研究発表を行なうことができました。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
7	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表旅費助成の拡充をお願いします。	婦人科がん治療開発
8	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表旅費助成が研究・研修を行う上で非常に大きな助けになっている。英文校正費など他の用途にも活用できるようになると一層助かると思います。 【 限られた予算の中で実施しており、1名でも多くの履修生の指導を行なうため、ご理解くださるようお願いいたします。】	抗悪性腫瘍薬臨床開発
9	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	ほぼ満足していますが、せっかく大学院にいますのでより教育的な講義(たとえば、統計処理・臨床試験・論文作成の作法のようなことに関する講義など)が定期的であれば良いと思います。 【 がんプロでは、大学院教育コース「腫瘍学コース」、「医工情報学連携コース」の受講およびE-ラーニング講義の聴講を推奨しております。】	放射線治療開発
10	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	毎年1月頃に開催されている海外施設との合同教育セミナーへの参加を、がんプロ学生に周知して公募制にして欲しい。 【 大学間交流、多職種交流、国際交流の観点をもって、全てのコースからの履修生参加が重要であると養成管理委員会で決められ、公募でなく、コース推薦としています。】	手術療法・機器開発
11	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	国内外での教育セミナーへの参加は非常に有用と思います。他施設の視察や研究会形式での成果発表の場を与えていただくなど、なかなか得難い経験ができたことにとっても満足しており、参加する意義があると感じました。E-ラーニングなど、一方向性の講義も大事だと思いますが、こうした相互作用性の学ぶ場を増やしてもらえたらありがたいです。 【 研究会方式の成果発表の場については、今後も「医療フォーラム」、「海外合同教育セミナー」を開催いたしますので、よろしくご参加願います。】	手術療法・機器開発
12	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表のための学会・研究会への参加に関わる経費を補助していただけるのは大変ありがたいです。今後ともよろしくをお願いいたします。	放射線治療開発
13	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	非常に満足しております	先端医学物理研究者
14	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	昨年は、研究の日々で、がんプロ事業の利用や参加が難しい状態でしたが、本年度は、研究の集大成の年なので、学会発表や論文文化も含め、がんプロを最大限に利用させていただこうかと思います。	抗悪性腫瘍薬臨床開発

15	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表旅費助成によりさまざまな国際・国内学会に参加でき、研鑽を積むことができるので満足している。	先端医学物理研究者
16	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	先日開催された「がんプロ医療フォーラム」は直接自分の研究とはあまり関係がないお話しが多かったですが、さまざまな角度からがん診療が検討されていて、新しい視点を獲得することが出来たような感覚があり勉強になりました。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
17	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	がんプロ学生同士が研究としてどのようなことをしているのかをアブストラクトのような自己紹介の形で可視化し、お互いの研究内容を知り自分の研究にかせるような場や情報提供を、さらに行っていただければ、今後の研究にも役立つような知識・経験・人脈が得られるのではないかと思います。	放射線治療開発
18	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	大変満足	抗悪性腫瘍薬臨床開発
19	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	がんプロ事業からの研究発表旅費助成には大変感謝しております。御陰様で国内遠方や海外での学会発表にも心置きなく行くことができ、婦人科癌研究に役立てております。	婦人科がん治療開発
20	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表のための旅費を助成いただき感謝しております。また医療フォーラム等の学習・研鑽の機会もあり幸いです。	放射線治療開発
21	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	出欠について欠席の場合必ず連絡しろというくせに、連絡してもそちらが一切返信してこないのが非常識と思う	放射線治療開発
22	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表旅費助成について、海外学会参加の場合助成額のみでは大幅な赤字になる場合があり、渡航先と渡航期間に応じて、相応な助成が受けられるようにお願いしたいです。 【限られた予算のなかで執行しており、ご理解願います。】	抗悪性腫瘍薬臨床開発
23	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	専門医受験費用や登録費についても、助成があると大変ありがたいです。 【がんプロ経費は、養成するための経費で、専門医等の資格を取得できる能力を授ける教育経費であり、残念ながら、受験等の資格取得のための経費は、個人に還元するものであり、費用は出せないことになっています。】	手術療法・機器開発
24	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	がんプロ在学中に「がん患者リハビリテーションに関する適切な研修」が受けられればと思います。 【養成上必要な研修であると指導教員が認め、予算が確保できれば研修に参加させています。指導教員とご相談ください。】	がんリハビリテーション法開発
25	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	現在の支援体制に不満等はありません。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
26	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	2016年1月7-8日にシンガポールで開催された合同教育セミナーでは、充実した研究発表、情報交換や施設視察をすることができ、大変有意義なものとなりました。今ともこのような海外セミナーを継続していただけたら幸いです。	放射線治療開発
27	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	専門性の高い京大ならではの教育プログラムが用意されており、大変満足しております。	手術療法・機器開発
28	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	海外の学会にも発表参加させていただき、非常に刺激となっております。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
29	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	国内外研究発表旅費助成、医療フォーラム等の事業を、自身ももっと利用できるように努力します。	手術療法・機器開発
30	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	満足	手術療法・機器開発
31	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	国内外研究発表旅費助成制度や定期的なフォーラムがあり満足しています。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
32	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	がんプロ主催の研究会で最前線で研究をされている先生のレクチャーを受けられて大変勉強になっています。	手術療法・機器開発
33	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	シンガポールでのプログラムに参加でき非常に満足しています	抗悪性腫瘍薬臨床開発

34	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	満足しています。	手術療法・機器開発
35	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	国内研究旅費助成のおかげで癌学会での報告ができ、さらに癌学会においての最新の研究成果を学ぶことができた。これらのことは今後の研究の発展にとって大いに有意義に思われ、がんプロ事業には大変感謝している。	がん専門薬剤師養成
36	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	年間を通して、様々な講演会等が企画され、それに参加する機会があることがとてもいいと思います。	手術療法・機器開発
37	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	国内外研究発表旅費助成、医療フォーラム等に参加し、研修も含め幅広く癌治療につき、学ぶ機会を頂き、大変感謝しています。それぞれの専門分野での国内・海外の症例の多い施設への研修を支援してくれる制度があればぜひ活用したいと思います	放射線治療開発
38	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	国内外研究発表旅費助成、国内は無制限は難しいでしょうか。 【限られた予算のなかで執行しており、ご理解願います。】	婦人科がん治療の開発
39	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	国内外旅費助成に関しては、研究成果発表の意欲や機会が増大することとなり、大変ありがたい制度だと思っている。他、経費などとの併用が可能ならさらに幅が広がると思う。 また大学院生対象の英文校正の助成などができるとさらによいと考える。期待しております。	手術療法・機器開発
40	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	満足しています。	手術療法・機器開発
41	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	現時点では特にございません。次年度以降の研究助成などについてアナウンスいただけますと幸いです。	手術療法・機器開発
42	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	がんに特化した講義が開催され、他の研究者の発表も聞く機会があり、研究に対して刺激を受けることが出来る。	がん専門薬剤師養成
43	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	満足していますが、医療フォーラムは土日に開催頂けると幸いです。	放射線治療開発
44	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	本年度、研究発表のための旅費助成をいただき大変ありがとうございました。経済的な余裕がなく、研究発表の機会が与えられ大変助かっています。	手術療法・機器開発
45	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	がんプロ受講生同士の交流機会の増多を希望	抗悪性腫瘍薬臨床開発
46	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	現時点では要望など特に思い当たりません。研究が始まったばかりですので、これからお世話になることも増えるかと思えます。	抗悪性腫瘍薬臨床開発
47	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究旅費助成により国際学会へも参加することができました。来年度以降も積極的にシンポジウム等にも出席したい所存です。	手術療法・機器開発
48	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表旅費助成をしていただき、大変助かります。学会発表参加への意欲がさらに高まりました。	手術療法・機器開発
49	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	医療フォーラムの発表に刺激を受けた。	手術療法・機器開発
50	がんプロ事業への満足度 (要望、改善点など)	研究発表旅費助成を積極的にお願ひしたいと思っております。 具体的には、発表のある学会に限らずその他学会等にも助成いただけたら幸いです。何卒よろしくお願ひいたします。 【がん研究者の養成において、研究成果の発表は重要であるため、研究者の立場で研究成果を発表し、がん医療の発展に努めさせており、研究発表に限らせています。】	先端医学物理研究者

がんに特化した講座の設置状況

大学名	名称	分類	目的	体制	総計	専任					兼任					設置年月		
						計	教授	准教授	講師	助教	その他	計	教授	准教授	講師		助教	その他
京都大学	京都大学大学院医学研究科医学専攻腫瘍薬物治療学分野	化学療法	1) 化学療法を中心とした高度ながん治療を展開する	[計画] 教授1(専任)、 准教授1(専任)、 助教1(専任)	3	3	1	1		1		0						H24.09
			2) 化学療法を中心とした新しいがん医療の開発研究を推進する化学療法を中心とした優れたがん医療の専門医を養成する	[実施] 教授1(専任)、 助教1(専任)、 助教2(兼任)	4	2	1			1		2				2		
三重大学	三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻放射線腫瘍学講座	放射線療法	医学部、大学院での放射線治療の教育を充実させることにより、放射線治療医の育成を強化し、三重県の放射線治療レベルの向上に貢献することを目的とする。	[計画] 教授1名(専任)、 助教1名(専任)	2	2	1			1		0						H24.04
				[実施] 教授1名(専任)、 助教1名(専任)	2	2	1			1		0						
滋賀医科大学	滋賀医科大学医学部臨床腫瘍学講座	化学療法 その他	最新のがん薬物療法を促進するとともに、がんの予防、診断、治療の面から高度先進がん医療の研究・臨床展開と教育を通じたがん専門医・医療スタッフの育成を推進し、社会に貢献する。	[計画] 教授(専任)1名、 講師(専任)2名、 助教(専任)1名	4	4	1		2	1		0						H24.10
				[実施] 教授(専任)1名、 講師(専任・兼任)各1名、 助教(兼任)1名	5	3	1		2		2			1	1			

資料 6

平成 27 年度 第一回 事業推進運営委員会 議事録

日 時 : 平成 27 年 6 月 16 日 (火) 15 時 00 分～

場 所 : 京都大学 芝蘭会館 2F 会議室

開会の挨拶 戸井新事業推進責任者より、新任の挨拶および開会の挨拶が行なわれ、前回議事録(案)の確認が行なわれた。

議 題

1) 平成 27 年度 5 大学連携「医療フォーラム」の開催について

資料 1 「平成 27 年度 5 大学連携 医療フォーラムについて」により、開催日時を、28 年 1 月 19 日 (火) 午後 2 時からとすることが報告された。

なお、今年度の特別講演および閉会の挨拶は、滋賀医科大学が担当し、履修生による教育研究発表は、各大学より履修生 2 名 (1 人・10 分) に教育研究発表を行なわせることとなった。

また、28 年度の「医療フォーラム」については、特別講演を大阪医科大学・京都薬科大学が担当し、会場は京都大学芝蘭会館とする方向で調整することが確認された。

2) 5 大学連携「海外合同教育セミナー」の実施について

資料 2 「平成 27 年度 5 大学連携海外合同教育セミナーの実施について」により、27 年度においても、25 年度のソウル大学、26 年度の台湾大学に引き続いて、海外の大学との合同教育セミナーを実施することが確認され、各大学からの参加者を 2 名とし、履修生には英語による教育研究成果発表を行わせることが確認された。

3) 平成 27 年度 外部評価の実施について

資料 3 「外部評価の実施について」により、外部評価については毎年度実施することが確認されており、27 年度の実施について、評価の継続性から、例年のとおり、「評価項目 43 項目」で評価を受け、「外部有識者 3 名による評価」とすることが確認された。

4) 平成 28 年度 分担金配分方針について

全国がんプロ協議会において、28 年度は、例年あるいはそれ以上に厳しい予算配分が予想されているとの連絡がされているところであり、減額のあった場合には、全大学同率で減額配分とすることが確認された。

5) 第 2 回 事業推進運営委員会 (1 月 19 日) の開催について

1 月 19 日 (火) 午後 2 時より開催される「5 大学連携 医療フォーラム」に先立ち、同日の午後 1 時より、「第 2 回 事業推進運営委員会」を、開催することが確認された。

6) その他

三重大学から、「5大学テレビ会議システム」の回線数を、地域病院との連携、地域貢献のため増加すること、また、その費用負担についての申し出があり、回線数増加となった場合には、拠点として費用を負担して地域貢献する方針とすることが確認された。

報 告

1) 中間評価結果について

資料 4「がんプロ 中間評価結果について」により、文部科学省において実施された中間評価結果において、京大拠点が「S」の評価を得たことが報告された。

しかしながら、入学者0人のコースがあること、市民公開講座が実施されなかった大学があるとの指摘を受けており、改善に向けて、さらに、今後の取り組みを強化するよう事業推進委員長より協力が求められた。

2) 全国がんプロ協議会報告

資料 5「全国がんプロ協議会総会式次第」により、5月18日の総会に、京大より武藤先生、恒藤先生、滋賀医科大より醍醐先生が出席されたことが報告され、総会の中で、「全国版 Eラーニング講義 登録・聴講の促進について」、「27年度・全国がんプロFD（外科手術の教育法）フォーラム（28.1.20）の開催」、「28年度 全国がんプロ市民公開シンポジウム〈28.6~7 開催予定〉担当校東大・阪大予定で、メディアも加えてがんプロ活動状況の認知度アップ」、「28年度 がんプロ事業成果調査の実施」について連絡のあったことが報告された。

3) 26年度 外部評価報告書について

別冊「26年度 外部評価報告書」が配布され、冊子として完成されたことが報告された。

4) その他

- ・ IFOM(イタリア分子腫瘍学研究財団研究所)との合同シンポジウムが、2015年10月6日~7日 京都大学芝蘭会館 稲盛ホール・山内ホールにおいて、がんプロとの共催で開催されることが連絡された。
- ・ 「がんプロ養成実績調査」について、協力いただきたいとの連絡が事務より行われた。
- ・ 予算の早期執行と備品購入の注意点についての連絡が事務より行われた。
- ・ がんプロ事業のHPへの掲載について、積極的に掲載するよう協力依頼が行われた。

24年度～26年度に導入された医療チーム

新たに導入したがんに関する医療チーム	大学名	名称	分類	活動内容	24年度	25年度	26年度
	京都大学	原発不明がん／希少がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	診療科横断的かつ迅速な治療方針の決定と治療の実践	○	○	○
	京都大学	血液腫瘍ユニット	「化学療法」	血液腫瘍に関するチーム医療	○	○	○
	京都大学	小児がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	小児腫瘍に関する横断的ながん診療		○	○
	京都大学	家族性腫瘍外来ユニット	「その他」	遺伝相談も含めたチーム医療		○	○
	京都大学	婦人科腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「その他」	婦人科腫瘍に関する診療科横断的チーム医療		○	○
	京都大学	神経内分泌腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	非がん領域の診療科も含めたチーム医療			○
	三重大学	緩和ケアチーム	「緩和ケア」	麻酔科医、鍼灸師も加わった多職種による緩和医療			○
	三重大学	口腔ケアチーム	「その他」	がん治療前の口腔ケア		○	○
	滋賀医科大学	化学療法チーム	「化学療法」	医師6名、看護師・薬剤師がチーム回診と定例カンファレンスを行っている。	○	○	○
	滋賀医科大学	緩和ケアチーム	「緩和ケア」	医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーがチーム回診と定例カンファレンスを行っている。	○	○	○
	大阪医科大学	化学療法センター	「化学療法」	主に消化器がん、腎がん、原発不明がんに関するチーム医療	○	○	○
	大阪医科大学	緩和ケア室	「放射線療法」	がん患者の痛みや心のケアに関するチーム医療		○	○

事業開始前から設置されていた医療チーム

事業開始前から設置の医療チーム	大学名	名称	分類	活動内容
	京都大学	放射線治療医療チーム	「放射線療法」 「緩和ケア」	臓器横断的な放射線治療の教育と実践
	京都大学	薬物治療チーム	「化学療法」 「緩和ケア」	がん薬物療法専門医の育成、がん薬物療法のレジメン管理
	京都大学	癌緩和ケアチーム	「緩和ケア」	診療科横断的かつ職種横断的診療と教育
京都大学	脳腫瘍／小児脳腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	脳外科・放射線治療科・小児科合同による集学的がん診療	

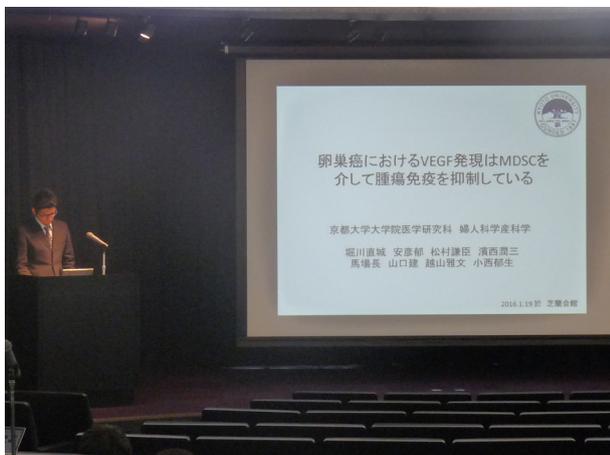
	大学名	名称	分類	活動内容
事業開始前 から設置の 医療チーム	京都大学	頭頸部がんユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	耳鼻咽喉科・頭頸部外科・放射線治療科合同のカンファレンス
	京都大学	食道癌ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	外科・消化器内科・腫瘍内科・放射線治療科・頭頸部外科からなる集学的診療体制
	京都大学	胃がん/ GISTユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	外科・消化器内科・腫瘍内科による集学的がん診療
	京都大学	肺癌/ 縦隔腫瘍ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	呼吸器内科・呼吸器外科・腫瘍内科による集学的がん診療
	京都大学	乳癌ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	乳腺外科、腫瘍内科、放射線治療科、放射線診断科、遺伝子診療部等からなる集学的診療体制を構築
	京都大学	膵癌ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	外科・消化器内科・腫瘍内科による集学的がん診療
	京都大学	大腸癌ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	外科・消化器内科・腫瘍内科による集学的がん診療
	京都大学	前立腺癌ユニット	「放射線療法」 「化学療法」 「緩和ケア」 「その他」	泌尿器科・放射線治療科による集学的がん診療
	三重大学	緩和ケアチーム	「緩和ケア」	がん患者のトータルな緩和医療
	三重大学	栄養サポートチーム	「その他」	がん患者の栄養管理
	三重大学	褥瘡チーム	「その他」	がん患者の褥瘡管理
	三重大学	乳癌治療検討会	「放射線療法」 「化学療法」	1回/2週、放射線科、腫瘍内科、乳腺外科で乳癌患者の治療方針を検討
	三重大学	乳腺疾患術後 検討会	「その他」	1回/2週、乳腺疾患術後の病理結果を病理、乳腺外科で検討
	三重大学	乳房MRI検討会	「その他」	1回/週、乳房MRIの画像診断を放射線科、乳腺外科で検討
	三重大学	乳腺疾患検討会	「その他」	1回/月、放射線科、病理、乳腺外科で術後症例の画像・病理について勉強
	三重大学	膵がん教室	「化学療法」	医師、薬剤師、管理栄養士、看護師、ソーシャルワーカー、臨床心理士による膵がん教室を月2回実施
	三重大学	内科小児科合同 移植カンファレンス	「化学療法」	血液内科医、小児科医、輸血部医、薬剤師、看護師による、治療、移植等ミーティング1回/月実施
	大阪医科大学	化学療法センター	「化学療法」	主に消化器がん、腎がん、原発不明がんに関するチーム医療

がんセンターの体制

京都大学

	がんセンター名	がん種	メンバーの診療科名	メンバー職名・職種(◎:リーダー)	内容	新規治療開始患者のうち検討症例の割合
1	前立腺がんユニットカンファレンス	前立腺がん	放射線科 泌尿器科	◎泌尿器科医、放射線治療医、看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
2	脳腫瘍・小児脳腫瘍ユニットカンファレンス	脳腫瘍 脊髄腫瘍	脳神経外科 放射線治療科 小児科	◎脳神経外科医 放射線治療医 小児科医 看護師	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
3	乳がんユニットカンファレンス	乳がん	乳腺外科 腫瘍内科 放射線診断科 放射線治療科	◎乳腺外科医 腫瘍内科医 放射線診断医 放射線治療医	新規、継続治療患者のの治療並びに診断の標準化を行う。	全例実施
4	食道がんユニットカンファレンス	食道がん	消化管外科 放射線治療科 消化器内科 耳鼻咽喉科 がん薬物治療科	◎がん薬物治療科医、消化器内科医、消化管外科医、放射線治療医、耳鼻科医、理学療法士	新規治療開始患者および再発患者の治療方針の検討および経過報告をする。	全例実施
5	肺がんユニットカンファレンス	肺がん(一部 良性疾患)	呼吸器内科 呼吸器外科 放射線治療科	◎呼吸器内科助教、呼吸器内科医、呼吸器外科医、放射線治療科医、放射線診断医	集学的治療を要する患者の治療方針検討、他科への治療依頼、治療難渋例についてのディスカッション	25%未満実施
6	膵がんユニットカンファレンス	膵がん	放射線治療科 放射線診断科 肝胆膵・移植外科 消化器内科 がん薬物治療科 緩和医療科 遺伝診療科	◎腫瘍外科医、腫瘍内科医、放射線治療医、放射線診断医、消化器内科医、精神科医、看護師、薬剤師、遺伝カウンセラー、ソーシャルワーカー	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
7	頭頸部がんユニットカンファレンス	頭頸部がん	耳鼻咽喉科 放射線治療科	◎耳鼻咽喉科副部長、耳鼻咽喉科医、放射線治療医	新規患者の検討をする。	全例実施
8	胃がん・GIST	胃がん GIST	消化管外科 消化器内科 血液・腫瘍内科 放射線治療科 がん薬物治療科	◎がん薬物治療科医、腫瘍内科医、消化管外科医、消化器内科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満
9	大腸がん	大腸がん	消化管外科 肝胆膵外科 消化器内科 血液・腫瘍内科 放射線治療科 がん薬物治療科	◎がん薬物治療科医、腫瘍内科医、消化管外科医、肝胆膵外科医、消化器内科医、放射線治療医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満
10	小児がんユニットカンファレンス	各種小児がん、骨・軟部腫瘍	小児科 整形外科 小児外科 放射線治療科 病理診断科 呼吸器外科 泌尿器科 耳鼻科 眼科 精神科	◎小児科医、整形外科医、小児外科医、放射線治療医、病理診断科医、呼吸器外科医、泌尿器科医、耳鼻科医、眼科医	新規治療開始患者、治療中患者の治療方針決定および経過報告をする。	全例実施
11	原発不明がんユニットカンファレンス	原発不明癌 希少癌	血液・腫瘍内科 小児科 肝胆膵移植外科 呼吸器内科 消化管外科 がん薬物治療科 乳腺外科 消化器内科 腫瘍内科 整形外科 婦人科 放射線治療科 放射線診断科 病理診断科	◎がん薬物治療科医、腫瘍内科医、血液内科医、小児科医、肝胆膵移植外科医、呼吸器内科医、消化管外科医、乳腺外科医、消化器内科医、整形外科医、婦人科医、放射線治療医、放射線診断医、病理医	新規治療開始患者の治療方針の決定および経過報告をする。	75%以上100%未満
12	骨転移ユニットカンファレンス	転移性骨腫瘍	乳腺外科 泌尿器科 放射線治療科 整形外科	◎乳腺外科医、整形外科医、放射線治療医、泌尿器科医	新規対象患者の診断、治療方針の決定、治療中患者の方針の検討および経過報告をする。	50%以上75%未満

13	がんサポートチームユニットカンファレンス	全種	精神科 血液・腫瘍内科 がん薬物治療科	◎緩和ケア医、精神科医、腫瘍内科医、がん薬物治療科医、看護師、薬剤師、医療ソーシャルワーカー、理学療法士	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針の検討および経過報告をする。	全例実施
14	NETユニットカンファレンス	内分泌細胞癌	肝胆膵移植外科 呼吸器内科 呼吸器外科医 消化管外科 がん薬物治療科 消化器内科 腫瘍内科 放射線治療科 放射線診断科	◎肝胆膵移植外科医、がん薬物治療科医、腫瘍内科医、呼吸器内科医、呼吸器外科医、消化管外科医、消化器内科医、放射線治療医、放射線診断医、病理医、内分泌代謝内科医	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針の検討および経過報告をする。	全例実施
15	クリニカルシーケンスユニットカンファレンス	原発不明癌 希少癌 標準治療に抵抗性となった固形癌	肝胆膵移植外科 呼吸器内科 消化管外科 がん薬物治療科 乳腺外科 消化器内科 整形外科 婦人科 放射線治療科 放射線診断科 病理診断科 遺伝子診療部	◎がん薬物治療科医、病理医、臨床遺伝専門医、肝胆膵移植外科医、消化器内科医、呼吸器内科医、消化管外科医、乳腺外科医、放射線診断医	クリニカルシーケンス(OncoPrime)を受けた患者の治療方針の決定および経過報告をする。	全例実施
16	メラノーマユニットカンファレンス	悪性黒色腫	皮膚科 がん薬物治療科	◎皮膚科医、がん薬物治療科医、薬剤師	新規依頼患者および継続診察患者の支援方針の検討および経過報告をする。	全例実施



5 大学連携 医療フォーラム

平成27年度 インテンシブコース実施事業	
京 都 大 学	
外来がん化学療法チーム養成コース(インテンシブ)	
()の数字は参加人数	
15/10/20	がんチーム医療研修会(6)
15/10/21	がんチーム医療研修会(6)
15/11/10	がんチーム医療研修会(6)
15/11/11	がんチーム医療研修会(6)
15/12/08	がんチーム医療研修会(12)
15/12/09	がんチーム医療研修会(12)
16/01/19	がんチーム医療研修会(12)
16/01/20	がんチーム医療研修会(12)
16/02/02	がんチーム医療研修会(6)
16/02/03	がんチーム医療研修会(6)
16/03/05	がんチーム医療研修 フォローアップミーティング
高精度放射線治療を担う人材養成コース(インテンシブ)	
15/06/27	第27回 高精度放射線治療ワークショップ(4)
15/06/28	第27回 高精度放射線治療ワークショップ(4)
15/09/19	第40回京都放射線腫瘍研究会プログラム(91)
16/01/23	第28回 高精度放射線治療ワークショップ(2)
16/01/24	第28回 高精度放射線治療ワークショップ(2)
16/02/20	第41回京都放射線腫瘍研究会プログラム(120)学内40 学外80
地域がん医療を担う薬剤師養成コース(インテンシブ)	
15/04/23	第1回インテンシブコース「新しい展開を迎えた腫瘍免疫」セミナー(169)学内71 学外98
16/02/06	第4回地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブコース(109)学内17 学外92
次世代の臨床試験を担う人材養成コース(インテンシブ)	
15/04/16	第11回京都のがん薬物療法を熱く語る会(65)
15/10/01	第12回京都のがん薬物療法を熱く語る会(61)

資料 9 - 2

シンポジウム等の開催実績			
開催年月日	シンポジウム等の名称	学内参加者数(人)	学外参加者数(人)
H27.4.4	(京都大学)「大規模放送映像アーカイブの解析による社会分析」特別講演	50	0
H27.4.8	(京都大学)「分光解析にもとづく実世界理解」特別講演	52	0
H27.7.25	(京都大学)「がんリハビリテーション」特別講演会	22	23
H27.8.28	(京都大学)『乳癌克服のために』～未来を見据えて～	5	40
H27.9.11	(京都大学)第30回 京都がん研究会	50	25
H27.10.6	(京都大学)The 2nd IFOM-Kyoto University Joint Symposium Perspective in Cancer Biology	157	19
H27.10.10	(京都大学)第12回乳がん市民公開講座 ～がんの治療と就労～	7	38
H28.1.19	(京都大学)5大学連携 「医療フォーラム」	120	2
H28.2.6	(京都大学)「がんリハビリテーション」特別講演会	8	18
H28.2.29	(京都大学) Biomarkers for personalized treatment of head and neck cancer		
H28.3.5	(京都大学) 京都府立医科大学・京都大学連携 「府民公開講座」		
H27.4.17	(三重大学) 乳癌学術講演会2015 in 三重	10	13
H27.4.23	(三重大学) 早期からの緩和ケアを考える会	44	36
H27.4.24	(三重大学) 市民公開講座 ～がんと検診と救急と～	12	118
H27.5.16	(三重大学) 生命の駅伝ジョイント市民公開講座	10	155
H27.5.16	(三重大学) 第23回 三重乳腺診断フォーラム	33	68
H27.5.23	(三重大学) 第9回 三重がん看護フォーラム	25	85
H27.6.20	(三重大学) 第20回 三重肺癌研究会	22	41
H27.7.2	(三重大学) Mie Gynecologic Oncology Abend 2015	16	8
H27.7.17	(三重大学) 骨髄腫セミナー in MIE	14	16
H27.9.1	(三重大学) 第18回 三重リンパ腫フォーラム	8	48
H27.9.13	(三重大学) パープルリボンウォーク&セミナー 2015	14	240
H27.9.19	(三重大学) 第1回 病院内で行う周(手)術期の口腔ケア	6	96
H27.10.30	(三重大学) 血液疾患フォーラム in 三重	26	6
H27.11.7	(三重大学) 第5回 膝がん教室ワークショップ 2015 in 津	12	108
H27.11.21	(三重大学) 市民公開講座 in 尾鷲	8	103
H28.2.12	(三重大学) 三重MDS治療学術講演会 2016		
H28.2.13	(三重大学) 第24回 三重乳腺診断フォーラム		
H28.3.18	(三重大学) 第15回 血液腫瘍フォーラム		
H27.9.23	(滋賀医科大学) 第1回東近江医療圏がん診療市民公開講座「がん治療と相談支援」	5	99
H27.9.25	(滋賀医科大学) 市民公開講座～最新の外科治療～	5	24
H27.11.1	(滋賀医科大学) 第2回東近江医療圏がん診療市民公開講座「通院でできるがん治療」	8	126
H27.11.4	(滋賀医科大学) 第35回滋賀医科大学公開講座「がんのお話～がんの先進的医療～」	3	55
H27.11.11	(滋賀医科大学) 第35回滋賀医科大学公開講座「食生活とがん」	3	47
H27.11.18	(滋賀医科大学) 第35回滋賀医科大学公開講座「見てわかる 皮膚癌」	5	46
H27.4.18	(大阪医科大学) 大阪医科大学「皮膚がん」市民公開講座	10	91
H27.11.21	(大阪医科大学) 大阪医科大学「PET検査・放射線治療」市民公開講座	15	130
H27.11.9	(京都薬科大学) A*STAR-京都薬科大学 Joint Symposium	116	8
H28.2.20	(京都薬科大学) 市民公開講座「大腸がん治療を知ろう」		

研修会・セミナー等の開催実績			
開催年月日	研修会等の名称	学内参加者数(人)	学外参加者数(人)
H27.4.16	(京都大学) 第11回京都のがん薬物療法を熱く語る会	10	56
H27.4.28	(京都大学) Special Oncology Seminar for Cancer	20	0
H27.5.26	(京都大学) 腫瘍セミナー	42	0
H27.6.27 - 6.28	(京都大学) 第27回 高精度放射線治療ワークショップ	4	0
H27.7.25	(京都大学) 婦人科腫瘍学セミナー 2015	20	0

H27.8.25	(京都大学) クリニカルシーケンス合同カンファレンス	25	0
H27.9.12 - 9.13	(京都大学) コアカリキュラム看護師教育 (EL NEC-J研修)	8	70
H27.9.19	(京都大学) 第40回京都放射線腫瘍研究会プログラム	31	60
H27.10.1	(京都大学) 第12回京都のがん薬物療法を熱く語る会	21	65
H27.10.20 - 10.21	(京都大学) 第28回がんチーム医療研修会	0	6
H27.10.20	(京都大学) Special Lecture	32	0
H27.11.7 - 11.8	(京都大学) コアカリキュラム看護師教育 (EL NEC-J研修)	12	65
H27.11.10 - 11.11	(京都大学) 第29回がんチーム医療研修会	0	6
H27.11.19	(京都大学) 第9回京都大学緩和医療研究会	38	6
H27.12.8 - 12.9	(京都大学) 第30回がんチーム医療研修会	0	12
H28.1.7 - 1.8	(京都大学) 「5大学連携シンガポール国立がんセンター (NCCS) 合同教育セミナー」	18	35
H28.1.19 - 1.20	(京都大学) 第31回がんチーム医療研修会	0	12
H28.1.23 - 1.24	(京都大学) 第28回 高精度放射線治療ワークショップ	2	0
H28.2.2 - 2.3	(京都大学) 第32回がんチーム医療研修会	0	6
H28.2.6	(京都大学) 第4回地域がん医療を担う薬剤師養成インテンシブ	10	50
H28.2.20	(京都大学) 第41回京都放射線腫瘍研究会プログラム	10	23
H28.3.5	(京都大学) がんチーム医療研修フォローアップミーティング		
H28.3.6	(京都大学) 京都大学・ソウル大学合同教育セミナー		
H27.5.25	(三重大学) 第3回 三重骨転移セミナー	10	45
H27.7.9	(三重大学) 第24回 三重県産婦人科腫瘍研究会	6	6
H27.7.30	(三重大学) 第8回三重大学緩和ケアセミナー	58	71
H27.8.29 - 30	(三重大学) 三重大学夏期緩和ケア研修会	24	9
H27.9.11	(三重大学) 第19回 がんチーム医療研究会	42	58
H27.9.19	(三重大学) 第1回医科歯科連携推進人材養成研修会	8	94
H27.9 - 11'	(三重大学) 三重県がんにおける質の高い看護師育成研修	1	8
H27.10.15	(三重大学) 第9回三重大学緩和ケアセミナー	85	94
H27.11.18	(三重大学) 三重大学がん診療PDCAサイクル講演会	17	47
H27.11.21	(三重大学) 第9回 三重乳房整容性研究会	10	23
H27.12.5	(三重大学) 第8回 三重乳腺疾患治療研究会	12	21
H27.12.8	(三重大学) 公開授業 地域包括ケアの取り組み	9	21
H27.12.19	(三重大学) 第21回 三重肺癌研究会	12	16
H28.1.10-11	(三重大学) 三重大学冬期緩和ケア研修会	26	24
H28.1.15	(三重大学) 第8回 三重骨軟部疾患集学的治療研究会	34	7
H28.1.28	(三重大学) 第10回三重大学緩和ケアセミナー	72	78
H28.2.6	(三重大学) 第2回 病院内で行う抗がん剤・放射線治療時の口腔ケア		
H28.2.6	(三重大学) 第2回医科歯科連携推進人材養成研修会		
H28.2.11	(三重大学) 三重大学緩和ケアフォローアップ研修会		
H28.2.26	(三重大学) 血液・腫瘍セミナー		
H27.4.18	(滋賀医科大学) 第9回地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成	8	173
H27.5.30	(滋賀医科大学) 第1回若年がんを考える会「滋賀がん生殖医療ネットワークキックオフセミナー」	2	58
H27.6.11	(滋賀医科大学) 第1回処方監査における検査値活用のための勉強会	8	203
H27.6.28	(滋賀医科大学) 第18回病診連携フォーラム	18	31
H27.7.1	(滋賀医科大学) 第8回薬物療法カンファレンス	2	42
H27.8.29	(滋賀医科大学) 第10回地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成	7	171
H27.9.2	(滋賀医科大学) 第9回薬物療法カンファレンス	3	25
H27.11.4	(滋賀医科大学) 第10回薬物療法カンファレンス	3	26
H27.11.8	(滋賀医科大学) 第19回病診連携フォーラム	21	17
H27.11.13	(滋賀医科大学) 第1回がん治療研修会「医療者に求められるアピランスケア」	3	106
H27.11.14	(滋賀医科大学) 滋賀がん性疼痛セミナー	3	66
H27.12.17	(滋賀医科大学) 第2回処方監査における検査値活用のための勉強会	6	87
H28.1.30	(滋賀医科大学) 第11回地域のがん薬物療法を支える薬剤師養成	8	181
H28.2.13	(滋賀医科大学) がん専門薬剤師・薬学研究者養成コースセミナー		
H28.2.17	(滋賀医科大学) 第2回緩和ケア講演会		
H28.2.25	(滋賀医科大学) 大阪医科大学化学療法センター・薬剤師養成研修		
H28.3.3	(滋賀医科大学) 第11回薬物療法カンファレンス		
H28.3.20	(滋賀医科大学) 第1回緩和ケア講演会		

H27.5.19	(大阪医科大学) 大阪医科大学附属病院第8回がんセンター研修会	80	0
H27.5.21	(大阪医科大学) 第7回三島圏域がん研究会	45	75
H27.6.13 - 6.14	(大阪医科大学) 三島医療圏緩和ケア研修会 がん診療に携わる医師のための緩和ケア研修会	19	15
H27.6.19	(大阪医科大学) 大阪医科大学附属病院がんセンター講演会	137	0
H27.9.10	(大阪医科大学) 大阪医科大学附属病院がんセンター講演会	80	0
H27.9.17	(大阪医科大学) 第8回三島圏域がん研究会	63	65
H27.10.8	(大阪医科大学) 大阪医科大学附属病院がんセンター講演会	65	0
H27.11.13	(大阪医科大学) 大阪医科大学附属病院がんセンター講演会	19	0
H28.1.28	(大阪医科大学) 第9回三島圏域がん研究会	89	51
H27.6.26	(京都薬科大学) がん疼痛緩和薬の臨床開発の実際セミナー	9	0
H27.7.3	(京都薬科大学) がん治療及びがん化学療法の最近の事例セミナー	9	0
H27.7.10	(京都薬科大学) がん治療・がん化学療法におけるQOL評価セミナー	9	0



5 大学連携 海外合同教育セミナー



国際学会、英文誌への発表一覧

京都大学

NO.	取組状況等	所属コース	氏名
1	学会発表:「GAP2015 Conference」、 「Integrated analysis of single nucleotide variants and copy number variants detected by whole exome sequencing in ovarian clear cell adenocarcinoma」、 (2015.4.15)	婦人科がん治療の開発	村上隆介
2	雑誌投稿:「The American Journal of Pathology」、 「Establishment of a novel histopathological classification of high-grade serous ovarian carcinoma correlated with prognostically distinct gene expression subtypes.」、 「2015年12月 Accepted」	婦人科がん治療の開発	村上隆介
3	学会発表: 「The American Society of Colon and Rectal Surgeons 2015 Annual Scientific Meeting」 「MDSGs accumulate invasion front of primary colorectal cancer through CCL15-CCR1 chemokine axis, and promote tumor progression」(2015.6.1)	手術療法・機器開発	稲本 将
4	雑誌投稿: 「Clinical Cancer Research」 「Loss of SMAD4 Promotes Colorectal Cancer Progression by Accumulation of Myeloid-Derived Suppressor Cells through CCL15-CCR1 Chemokine Axis」 「Published OnlineFirst September 4, 2015; doi:10.1158/1078-0432.CCR-15-0726」	手術療法・機器開発	稲本 将
5	学会発表: AACR annual meeting 2015, #5346, "Notch3-mediated squamous cell differentiation shows anti-tumor effect on esophageal squamous cell carcinoma as well as reduces its resistance to 5-Fluorouracil." Pennsylvania, PA, 平成27年4月	抗悪性腫瘍薬臨床開発	菊池 理
6	誌上发表: "Novel 5-fluorouracil-resistant human esophageal squamous cell carcinoma cells with dihydropyrimidine dehydrogenase overexpression" American Journal of Cancer Research 2015;5(8):2431-2440 平成27年8月出版	抗悪性腫瘍薬臨床開発	菊池 理
7	国際学会発表(2015年4月、oral presentation): SOX9 is a novel cancer stem cell marker surrogated by osteopontin in human hepatocellular carcinoma. Kawai T, Yasuchika K, Ishii T, Katayama H, Yoshitoshi EY, Ogiso S, Kita S, Yasuda K, Fukumitsu K, Hatano E, Kawaguchi Y, Uemoto S. The 50th International Liver Congress (ILC) Vienna, Austria. Young Investigator Award (full bursary) 受賞	手術療法・機器開発	河合隆之
8	国際学会発表(2015年10月、poster presentation): Osteopontin is a novel surrogate marker of SOX9+ cancer stem cells in human hepatocellular carcinoma. Kawai T, Yasuchika K, Ishii T, Katayama H, Yoshitoshi EY, Ogiso S, Kita S, Yasuda K, Fukumitsu K, Komori J, Hatano E, Kawaguchi Y, Uemoto S. American College of Surgeons 2015 Clinical Congress Chicago, USA.	手術療法・機器開発	河合隆之
9	論文発表(査読あり、full article): Keratin 19, a Cancer Stem Cell Marker in Human Hepatocellular Carcinoma. Kawai T, Yasuchika K, Ishii T, Katayama H, Yoshitoshi EY, Ogiso S, Kita S, Yasuda K, Fukumitsu K, Mizumoto M, Hatano E, Uemoto S. Clinical Cancer Research 2015 Jul 1;21(13):3081-91.	手術療法・機器開発	河合隆之
10	論文発表(査読あり、brief report): SOX9 is a novel cancer stem cell marker surrogated by osteopontin in human hepatocellular carcinoma. Kawai T, Yasuchika K, Ishii T, Katayama H, Yoshitoshi EY, Ogiso S, Kita S, Yasuda K, Fukumitsu K, Hatano E, Kawaguchi Y, Uemoto S. European Medical Journal 2015 June;3(2):76-77.	手術療法・機器開発	河合隆之
11	学会発表 1. Kawaguchi K, Suzuki E, Yamamoto Y, Saito K, Toi M. Upregulation of the interleukin 17/granulocyte-colony stimulating factor/fibroblast growth factor axis and its correlation with indoleamine 2,3-dioxygenase in breast cancer. ESMO Asia 2015. 2015; 39P.	手術療法・機器開発	河口浩介
12	学会発表 2. Kawaguchi K, Suzuki E, Yamamoto Y, Saito K, Toi M. Upregulation of the interleukin 17/granulocyte-colony stimulating factor/fibroblast growth factor axis in breast cancer and its negative association with treatment outcome. 2015 San Antonio Breast Cancer Symposium. 2015; P4-04-22.	手術療法・機器開発	河口浩介

13	シンポ発表 3. Kawaguchi K, Suzuki E, Isao Kii, Tatsuki R Kataoka, Masahiro Hirata, Keiko Iwaisako, Mariko Nishie, Ayane Yamaguchi, Hironori Haga, Masatoshi Hagiwara, Masakazu Toi. Monocyte-expressed neuropilin-1 underlies anti-HER2 antibody-mediated tumoricidal activity in breast cancer. The 2nd IFOM-Kyoto University Joint Symposium. 2015.	手術療法・機器開発	河口浩介
14	学会発表 5. Kawaguchi K, Suzuki E, Kii I, Kataoka TR, Hirata M, Nishie M, Haga H, Hagiwara M, Toi M. Knockdown of neuropilin-1 in monocytes impaired lymphocyte migration and anti-tumor activity in a humanized mouse model. American Association for Cancer Research Annual Meeting, 2015	手術療法・機器開発	河口浩介
15	Oncogenic fusion gene CD74-NRG1 confers cancer stem cell-like properties in lung cancer through a IGF2 autocrine/paracrine circuit. Cancer Research, accepted. Takahiko Murayama, Takashi Nakaoku, Masato Enari, Tatsunori Nishimura, Kana Tominaga, Asuka Nakata, Arinobu Tojo, Sumio Sugano, Takashi Kohno, Noriko Gotoh.	抗悪性腫瘍薬臨床開発	中奥敬史
16	Beyond ALK – RET, ROS1 and other oncogene fusions in lung cancer, Translational Lung Cancer Research, 2015 Apr;4(2):156-64. Takashi Kohno, Takashi Nakaoku, Koji Tsuta, Katsuya Tsuchihara, Shingo Matsumoto, Kiyotaka Yoh, Koichi Goto.	抗悪性腫瘍薬臨床開発	中奥敬史
17	学会発表 Druggable oncogene fusions in invasive mucinous lung adenocarcinoma. AACR annual meeting “Precision Medicine in the Clinic”, Philadelphia, april, 20, P4669 in Proceedings of AACR Takashi Nakaoku, Koji Tsuta, Hitoshi Ichikawa, Kouya Shiraiishi, Hiromi Sakamoto, Masato Enari, Koh Furuta, Yoko Shimada, Hideaki Ogiwara, Shun-ichi Watanabe, Hiroshi Nokihara, Kazuki Yasuda, Masaki Hiramoto, Takao Nammo, Teruhide Ishigame, Young Hak Kim, Michiaki Mishima, Jun Yokota, Teruhiko Yoshida, and Takashi Kohno;	抗悪性腫瘍薬臨床開発	中奥敬史
18	学会発表 「57th AAPM、Development of dynamic gimbaled x-ray head swing irradiation technique、27年7月」	先端医学物理研究者養成	小野智博
19	学会発表: 4th Biennial meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology, Title: Identification through functional genomics screen of factors whose down-regulation enhances the side population in ovarian cancer. November 12, 2015 – November 14, 2015	婦人科がん治療の開発	山ノ井康二
20	論文発表 Ohashi S, Miyamoto S, Kikuchi O, et al. Recent Advances From Basic and Clinical Studies of Esophageal Squamous Cell Carcinoma. Gastroenterology 2015;149:1700-1715.	抗悪性腫瘍薬臨床開発	後藤知之
21	学会発表: 15th International Congress of Radiation Research, poster presentation, Dynamic tumor-tracking irradiation with real-time monitoring for liver tumors using a gimbal mounted linac, 2015/5/25-29, Kyoto	先端的放射線治療開発	飯塚裕介
22	日本-台湾放射線治療シンポジウム, oral presentation, Dynamic tumor-tracking irradiation with real-time monitoring for liver tumors using a gimbal mounted linac, 2015/6/27-28, Yamanashi	先端的放射線治療開発	飯塚裕介
23	雑誌投稿: Radiotherapy and Oncology, Dynamic tumor-tracking radiotherapy with real-time monitoring for liver tumors using a gimbal mounted linac, 2015 Dec;117(3):496-500. doi: 10.1016/j.radonc.2015.08.033. Epub 2015 Sep 8.	先端的放射線治療開発	飯塚裕介
24	雑誌発表 Cancer Chemother Pharmacol Urinary kidney injury molecule-1 and monocyte chemotactic protein-1 are noninvasive biomarkers of cisplatin-induced nephrotoxicity in lung cancer patients. 2015.11	がん専門薬剤師養成	新家 遥
25	学会発表: 「the 50th International Liver Congress」 「Fetal hepatocyte as a cell source of liver tissue engineering using a decellularized matrix」 「2015年4月」、	手術療法・機器開発	小木曾聡
26	雑誌投稿: 「Annals of Surgical Oncology」、 「Laparoscopy-Specific Surgical Concepts for Hepatectomy Based on the Laparoscopic Caudal View: A Key to Reboot Surgeons' Minds」、 「2015年12月」	手術療法・機器開発	小木曾聡
27	学会発表 The 50th Congress of the European Society for Surgical Research “Loss of PTEN is a predictive biomarker of trastuzumab resistance in HER2 overexpressed oesophago-gastric adenocarcinoma” 平成27年6月	手術療法・機器開発	出口靖記
28	学会発表: 「15th International Congress of Radiation Research」、 「USEFULNESS OF HIF-1 IMAGING FOR DETERMINING OPTIMAL TIMING OF COMBINATION OF BEVACIZUMAB AND RADIOTHERAPY」、 「2015年5月27日」	先端的放射線治療開発	片桐幸大

29	学会発表:「2nd IFOM Kyoto University Joint Symposium」、「HIF-1-mediated Secretion of SHH Functions in the Formation of Stroma-rich Microenvironment of Pancreatic Cancers」、「2015年10月7日」	先端の放射線治療開発	片桐幸大
30	学会発表:「ICRR2015」、「Pretreatment modified Glasgow Prognostic Score predicts clinical outcomes after stereotactic body radiotherapy for early-stage non-small cell lung cancer」、「平成27年5月」	先端の放射線治療開発	岸 高宏
31	雑誌投稿:「Int J Radiat Oncol Biol Phys.」、「Pretreatment modified Glasgow Prognostic Score predicts clinical outcomes after stereotactic body radiotherapy for early-stage non-small cell lung cancer」、「平成27年7月」	先端の放射線治療開発	岸 高宏
32	雑誌投稿:「Pancreatology」、「Pretreatment C-reactive protein level predicts outcome and patterns of failure after chemoradiotherapy for locally advanced pancreatic cancer」、「平成27年11月」	先端の放射線治療開発	岸 高宏
33	学会発表: 3rd European Society Radiation Oncology Characterization of target registration error using radiopaque markers implanted in the lung	先端医学物理研究者養成	高宮大義
34	雑誌投稿: Medical Physics Multivariate analysis for the estimation of target localization errors in fiducial marker-based radiotherapy 2016年1月Revise投稿	先端医学物理研究者養成	高宮大義
35	学会発表: 「International Congress of Radiation Research」、「Intra-fractional target motions in accelerated partial breast irradiation」、「2015/5/26」	先端の放射線治療開発	平田希美子
36	学会発表: 「The 4th International Symposium of Training Plan for Oncology Professionals」、「Assessment of structural alterations of Rituximab in rat」、「2016/2/28」	がん専門薬剤師養成	大谷裕基
37	学会発表 IFOM, Relationship between FDG-PET/CT scans and KRAS Mutations in Metastatic Colorectal Cancer, 2015/10/6	手術療法・機器開発	戸田孝祐
38	論文投稿 The Journal of Nuclear Medicine, Relationship Between 18F-FDG PET/CT Scans and KRAS Mutations in Metastatic Colorectal Cancer, 2015/06/18	手術療法・機器開発	戸田孝祐
39	論文投稿 World Journal of Surgical Oncology, Intramural metastasis of T1 rectal cancer: report of a case report, 2015/12/9	手術療法・機器開発	戸田孝祐
40	学会発表: The 15th International Congress of Radiation Research, "Feasibility of Reducing The Adverse Reactions of Iodinate Contrast Media by Energy-resolved Computed Tomography Method", 2015/05	先端医学物理研究者養成	伊良皆拓
41	学会発表: 2015 IEEE Nuclear Science Symposium & Medical Imaging Conference, "Measurement of Effective Atomic Number of Human Tissue Equivalent Material by Energy-Resolved X-Ray Computed Tomography for Accurate Dose Calculation", 2015/11	先端医学物理研究者養成	伊良皆拓
42	学会発表: 4D Treatment Planning Workshop, "Evaluation of differences in the target displacement between X-ray fluoroscopic and four-dimensional cone-beam computed tomography imaging with amplitude- and phase-based sorting", 2015/11	先端医学物理研究者養成	伊良皆拓
43	学会発表: 「第37回欧州臨床栄養代謝学会」、「The impact of sarcopenic obesity on surgical site infections after laparoscopic total gastrectomy for gastric cancer」、「2015年9月6日」	手術療法・機器開発	錦織達人
44	セミナー発表: Seoul-Kyoto Breast Cancer Education Seminar 27.5.9~5.10 Imaging MS of Lipid distribution and its potential for breast cancer diagnosis	手術療法・機器開発	常盤麻里子
45	セミナー発表: シンガポール国立がんセンター合同教育セミナー 28.1.6~1.9 Detection of LGR5-positive cells in human breast cancer tissues	手術療法・機器開発	常盤麻里子

46	学会発表: Functionalization of Liposome with Cell-Penetrating Peptide for Boron Neutron Capture Therapy. Tsubasa Watanabe, Hiroyuki Nakamura, Shoji Tachikawa, Yosuke Nakagawa, Natsuko Kondo, Shin'ichiro Masunaga, Masahiro Hiraoka, Koji Ono, Minoru Suzuki. VIII Young Researchers BNCT meeting, Italy, Pavia.	先端的放射線治療開発	渡邊 翼
47	雑誌投稿: L-phenylalanine preloading reduces the $^{10}\text{B}(\text{n}, \alpha)^7\text{Li}$ dose to the normal brain by inhibiting the uptake of boronophenylalanine in boron neutron capture therapy for brain tumours Cancer Letters, 2016; 370: 27–32. Tsubasa Watanabe, Hiroki Tanaka, Satoshi Fukutani, Minoru Suzuki, Masahiro Hiraoka, Koji Ono	先端的放射線治療開発	渡邊 翼
48	学会発表: AACR advancement in ovarian cancer research, 「Expression in ovarian cancer suppresses tumor immunity through recruitment of myeloid derived suppressor cells」, 「H27年10月19日」	婦人科がん治療の開発	堀川直城
49	雑誌投稿: 「BMC cancer」, 「Genomic profile predicts the efficacy of neoadjuvant chemotherapy for cervical cancer patients」, 「H27年10月19日」	婦人科がん治療の開発	堀川直城
50	学会発表: 15th International Congress of Radiation Research, “The Akt/mTOR pathway functions in the synthesis of HIF-1 α protein in a glucose- and reoxygenation-dependent manner in irradiated tumors.” 2015年5月27日	先端的放射線治療開発	堤 ゆり江
51	学会発表: 国際学会名: The Liver Meeting 2015. (San Francisco, California, USA.) 発表タイトル名: Inflammation contributes to hepatocarcinogenesis through an acceleration of transcription-coupled mutagenesis. 発表年月: 2015年11月	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本知訓
52	学会発表: 国際学会名: 25th conference of the Asia Pacific Association for the Study of Liver. 発表タイトル名: Expression of activation-induced cytidine deaminase in hepatocytes under immune response against HBV. 発表年月: 2016年2月	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本知訓
53	雑誌投稿 雑誌: Cancers. タイトル: Exploring the Mechanisms of Gastrointestinal Cancer Development Using Deep Sequencing Analysis. 発表年月: 2015年7月	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本知訓
54	雑誌投稿 雑誌: Carcinogenesis. タイトル: Hepatic inflammation facilitates transcription-associated mutagenesis via AID activity and enhances liver tumorigenesis. 発表年月: 2015年8月	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本知訓
55	雑誌投稿 雑誌: Clinical Gastroenterology and Hepatology. タイトル: Neuroendocrine carcinoma of the gallbladder accompanied by pancreatobiliary maljunction. 発表年月: 2015年8月	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本知訓
56	シンポジウム発表: The 2nd IFON-Kyoto University Joint Symposium 「How boundaries of the different epithelia develop」 October 7th 2015	手術療法・機器開発	三小田直
57	学会発表 「The 2015 Annual Meeting of MASCC/ISOO」 「The Effects of a Self-Management Program on Antiemetic-Induced Constipation During Chemotherapy Among Breast Cancer Patients: A domized Controlled Clinical Trial.」 「2015 June」	がんリハビリテーション法の開発	華井明子
58	雑誌投稿 「Breast Cancer Res Treat.」, 「Effects of a self-management program on antiemetic-induced constipation during chemotherapy among breast cancer patients: a randomized controlled clinical trial.」, 「2016 Jan」	がんリハビリテーション法の開発	華井明子
59	セミナー発表: 「Kyoto University Hospital Exchange Programme」 「Non-coplanar volumetric-modulated arc therapy (VMAT) for craniopharyngiomas reduces radiation doses to the bilateral hippocampus: A planning study comparing dynamic conformal arc therapy, coplanar VMAT, and non-coplanar VMAT.」 「2016年1月8日」	先端的放射線治療開発	宇藤 恵

60	学会発表: 「GAP 2015 Conference」 「Decreased incidence rate of acute toxicity with prostate-based image-guided approach compared with bony structure-based approach in external-beam radiotherapy of prostate cancer」 「2015年4月16日」	先端的放射線治療開発	中村清直
61	学会発表: 「15th International Congress of Radiation Research」、 「Reduction in Acute Toxicity with Prostate-based Image-guided Approach Compared with Bone-based Approach in Radiotherapy of Prostate」、 「2015年5月26日」	先端的放射線治療開発	中村清直
62	論文投稿 Takeda H, Takai A, Marusawa H. Comprehensive characterization of hepatitis B virus-associated multifocal hepatocellular carcinoma using a multi-omics strategy. Ann Transl Med. 2015 Jan;3(1):3.	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田治彦
63	論文投稿 Sakai K, Takeda H, Nishijima N, Orito E, Joko K et al. Targeted DNA and RNA sequencing of fine-needle biopsy FFPE specimens in patients with unresectable hepatocellular carcinoma treated with sorafenib. Oncotarget. 2015 Aug 28;6(25):21636-44.	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田治彦
64	学会発表 American Association for Cancer Research, patient-derived cancer models meeting, "Summary of 50 Cases of Patient-Derived Colorectal Cancer Xenografts; Problems and Tips to Obtain Appropriate Results in Translational Researches", Feb 11 - Feb 14, 2016	手術療法・機器開発	前川久継
65	雑誌投稿: Role of the 5-HT4 receptor in chronic fluoxetine treatment-induced neurogenic activity and granule cell dematuration in the dentate gyrus. Mol Brain, 8: 29 (2015) Imoto Y, Kira T, Sukeno M, Nishitani N, Nagayasu K, Nakagawa T, Kaneko S, Kobayashi K, Segi-Nishida E:	がん専門薬剤師養成	西谷直也
66	雑誌投稿 Olanzapine augments the effect of selective serotonin reuptake inhibitors by suppressing GABAergic inhibition via antagonism of 5-HT6 receptors in the dorsal raphe nucleus. Neuropharmacology, 95: 261-268 (2015) Asaoka N, Nagayasu K, Nishitani N, Yamashiro M, Shirakawa H, Nakagawa T, Kaneko S:	がん専門薬剤師養成	西谷直也
67	雑誌投稿: Inhibition of histone deacetylases enhances the function of serotonergic neurons in organotypic raphe slice cultures. Neurosci Lett, 593: 72-77 (2015) Asaoka N, Nagayasu K, Nishitani N, Yamashiro M, Shirakawa H, Nakagawa T, Kaneko S:	がん専門薬剤師養成	西谷直也
68	学会発表: 3rd ESTRO Forum Congress 「Comparison of dose-volume parameters between the AIP and the Ex-phase CT imaging for lung SBRT planning」 (平成27年4月)	先端的放射線治療開発	光吉隆真
69	雑誌投稿: Medical Dosimetry 「Comparison of dose-volume parameters between averaged CT and end-exhalation CT images for treatment planning of lung stereotactic body radiotherapy」 (平成28年1月)	先端的放射線治療開発	光吉隆真
70	学会発表: AACR ovarian cancer research: Inhibition of Snail-induced EMT promotes anti-tumor immunity in ovarian cancer:2015年10月18日	婦人科がん治療の開発	滝 真奈
71	セミナー発表: 5大学合同シンポジウム・シンガポール・2016年1月6-9日・Snail inhibits anti-tumor immunity in ovarian cancer through recruitment of MDSC	婦人科がん治療の開発	滝 真奈
72	学会発表: 「ASCO GI シンポジウム」、 「A multi-center phase II study on the feasibility and efficacy of neoadjuvant chemotherapy for locally advanced rectal cancer」、 「2016年1月」	手術療法・機器開発	後藤沙織
73	学会発表: ICRR2015 "SBRT for hepatocellular carcinoma using gated radiotherapy with RTRT system and coiled fiducial markers: a report on initial 15 experience" 2015/5/26	先端的放射線治療開発	花澤豪樹
74	雑誌投稿: [Tohoku J. Ex. Med.], [Successful Treatment of TAFRO Syndrome, a Variant of Multicentric Castleman's Disease, with Cyclosporine A: Possible Pathogenetic Contribution of Interleukin-2], [2015 August, 236(4), 289-295].	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小西義延
75	学会発表: 「European NeuroEndocrine Tumor Society:ENETS」 「A Case of Multiple Pancreatic Insulinoma Laparoscopically Resected through Precise Spatial Diagnosis by SACI Test」、 3.9-11	抗悪性腫瘍薬臨床開発	仲野健三

76	セミナー発表: 「SEOUL-KYOTO BREST CANCER EDUCATION SEMINER」、 「Prospective validation of prediction models developed using a data mining technique」、 「2015年5月」	手術療法・機器開発	中山美恵
77	学会発表: 「ICRR2015 15th International congress of radiation research」、 「Stereotactic body radiotherapy for synchronous primary lung cancer」、 「2015/5」	先端放射線治療開発	新谷 堯
78	雑誌投稿: 「Clinical Lung Cancer」、 「Stereotactic Body Radiotherapy for Synchronous Primary Lung Cancer: Clinical Outcome of 18 Cases」、 「2015/9」	先端放射線治療開発	新谷 堯
79	学会発表: The 12th Asia-Pacific Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgery 「Validation of difficulty scoring system for laparoscopic liver resection by short-term outcome 2015.9.3	手術療法・機器開発	藤 浩明
80	学会発表: 「AID expression in neoplastic cells is predictive of disease severity and worse outcome of DLBCL」 International Hematology Club, November 6-7, 2015	抗悪性腫瘍薬臨床開発	大塚泰幸
81	雑誌投稿: Spontaneous clearance of hepatitis C virus after liver transplantation: a report of four cases (1st author) Surgical Case Reports (2015)	手術療法・機器開発	玉木一路
82	学会発表: 「the 13th South-East Asia Congress of Medical Physics (SEACOMP) congress」、 「Development of EPID-based Quality Assurance Procedures for Dynamic WaveArc Irradiation」、 「2015年12月11日」	先端医学物理研究者養成	平島英明

滋賀医科大学 国際学会、英文誌への論文発表一覧

1	Tetsuya Saita, Yuta Yamamoto, Satoshi Noda, Makoto Shioya, Daiki Hira, Akira Andoh, Shin-ya Morita, Tomohiro Terada, Masashi Shin. Quantification of Sorafenib in Human Serum by Competitive Enzyme-Linked Immunosorbent Assay. Biol. Pharm. Bull., 38,1788-1793(2015).		
2	Tomohiro Terada, Satoshi Noda and Ken-ichi Inui. Management of dose variability and side effects for individualized cancer pharmacotherapy with tyrosine kinase inhibitors. Pharmacol. Ther., 152, 125-134(2015).		
3	Nguyen Quoc Vinh, Shigeyuki Naka, Horacio Cabral, Hiroyuki Murayama, Sachiko Kaida, Kazunori Kataoka, Shigehiro Morikawa, Tohru Tani MRI-detectable polymeric micelles incorporating platinum anticancer drugs enhance survival in an advanced hepatocellular carcinoma model. International Journal of Nanomedicine, Vol.10, pages4137-4147, 2015		

京都薬科大学 国際学会、英文誌への論文発表一覧

No.	取組状況等	所属コース	氏名
1	ISEH 44th Annual Scientific Meeting in Kyoto (京都) Ion transport-associated molecules as therapeutic targets against glioblastoma stem cells 2015/9/17~9/19	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	高田 哲也
2	The 74th Annual Meeting of the Japanese Cancer Association (名古屋) Possibilities as therapeutic targets of ion transport-associated molecules against glioblastoma stem cells. 2015/10/8~10/10	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	高田 哲也
3	57th ASH Annual Meeting & Exposition (米国) Prediction of the Lenalidomide Toxicity and Its Therapeutic Efficacy in Japanese Multiple Myeloma Patients By Measuring Its Plasma Concentration. 2015/12/4~12/10	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	角 陽子
4	5大学連携「シンガポール国立がんセンター合同教育セミナー」(シンガポール) The depletion of γ -glutamylcyclotransferase induced cellular senescence and cell cycle arrest. 2016/1/6~1/9	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	松村 健吾
5	The 4th International Symposium of Training Plan for Oncology Professionals (大阪) Ion transport-associated molecules play an important role in maintenance of glioblastoma stem cells. 2016/2/27~2/28	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	高田 哲也
6	論文雑誌名: Journal of Pharmaceutical Health Care and Sciences 論文タイトル: Opioid analgesics increase incidence of somnolence and dizziness as adverse effects of pregabalin: a retrospective study	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	大石 晃弘

国内学会、雑誌等への研究発表一覧

京都大学

NO.	国内学会、雑誌等への研究発表	所属コース	氏名
1	学会発表: 「第57回公益社団法人日本婦人科腫瘍学会学術講演会」 「卵巣癌の遺伝子発現プロファイルに基づくタキサンおよびプラチナ感受性の予測スコアの可能性」平成27年8月7日	婦人科がん治療の開発	村上隆介
2	学会発表: 51回日本肝臓学会総会 熊本 Keratin 19, a cancer stem cell marker in human hepatocellular carcinoma. 河合隆之、安近健太郎、上本伸二 (2015年5月、ワークショップ)	手術療法・機器開発	河合隆之
3	学会発表: 第27回日本肝胆膵外科学会総会 Keratin19は肝細胞癌の新規癌幹細胞マーカーである 河合隆之、安近健太郎、石井隆道、片山外大、小木曾聡、喜多貞彦、福光剣、水本雅己、波多野悦朗、上本伸二 東京(2015年6月)	手術療法・機器開発	河合隆之
4	学会発表: 日本癌治療学会 「乳癌における原発巣と転移巣のPD-L1発現状況についての検討」日本癌治療学会(0021-4671)50巻3号 Page555(2015.09)	手術療法・機器開発	河口浩介
5	学会発表: 日本乳癌学会総会 23回 「Neuropollin-1陽性免疫細胞はトラスツズマブによる免疫応答を惹起し抗腫瘍活性を誘導する」日本乳癌学会総会 23回 Page352(2015.07)	手術療法・機器開発	河口浩介
6	論文発表: 「原着乳癌告知時から行うメンタルケアのツールとしての、当院独自のセルフチェックシートの有用性」 乳癌の臨床30巻6号(2015.12)	手術療法・機器開発	河口浩介
7	雑誌発表: 乳癌の抗体療法. 日本医事新報. 2015; 4768.	手術療法・機器開発	河口浩介
8	雑誌発表: 最前線の治療 「乳がん」. Medicament News. 2015; 第2208号.	手術療法・機器開発	河口浩介
9	雑誌発表: 【分子標的薬耐性メカニズムと対策】乳癌に対するHER2阻害薬療法耐性の機序と展望. 医学のあゆみ. 2015; 252: 809-13.	手術療法・機器開発	河口浩介
10	学会発表: 第74回日本癌学会学術総会 :HER2/HER3シグナル阻害によるNRG1遺伝子融合陽性肺がんの治療、 中奥 敬史、蔦 幸治、村山 貴彦、中田 飛鳥、白石 航也、荻原 秀明、金 永学、三嶋 理晃、後藤 典子、河野 隆志. 第74回日本癌学会学術総会抄録集、P240、9月、2015年	抗悪性腫瘍薬臨床開発	中奥敬史
11	学会発表: 第67回日本産科婦人科学会学術集会 「卵巣癌細胞のanoikis抵抗性を指標とした機能的ゲノミクススクリーニングにより同定されたABHD2の発現低下は、卵巣癌の化学療法耐性をもたらす予後不良因子となる」、27年4月10日～27年4月12日	婦人科がん治療の開発	山ノ井康二
12	学会発表: 第57回日本婦人科腫瘍学会学術集会 「機能ゲノミクススクリーニングによる、卵巣癌のanoikis抵抗性をもたらす因子の同定」、27年8月7日～27年8月8日	婦人科がん治療の開発	山ノ井康二
13	学会発表: 第74回日本癌学会学術集会 「漿液性卵巣癌のanoikis抵抗性を指標とした機能的ゲノミクススクリーニングからの、新規遺伝子ABHD2の同定」、27年10月8日～27年10月10日	婦人科がん治療の開発	山ノ井康二

14	学会発表: 日本癌学会 食道扁平上皮がんの化学放射線感受性に関連する分化誘導因子SIM2の同定 (2015年10月)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	玉置将司
15	学会発表: 第28回高精度外部放射線治療研究会, 口頭発表, 肝腫瘍に対するリアルタイムモニタリング下動物体追尾定位放射線治療, 2015/5/30, 京都	先端的放射線治療開発	飯塚裕介
16	学会発表: 日本放射線腫瘍学会第28回学術大会, 口頭発表, Image comparison between 4-dimensional computed tomography (4DCT) and 320 multi-detector CT (320-MDCT) in lung tumors, 2015/11/19-21, 群馬	先端的放射線治療開発	飯塚裕介
17	学会発表: 第115回日本外科学会定期学術集会 タイトル: DSS大腸炎惹起時、CD25 ^{high} 制御性T細胞の大腸から所属リンパ節への移動に $\alpha 4 \beta 7$ integrinが関与する 2015/4/18	手術療法・機器開発	中西保貴
18	学会発表: 第101回日本消化器病学会総会 タイトル: DSS誘発性大腸炎時に誘導される、CD25 ^{high} 制御性T細胞の大腸から所属リンパ節への移動に、 $\alpha 4 \beta 7$ integrinが関与する 2015/4/24	手術療法・機器開発	中西保貴
19	学会発表: 第23回日本乳癌学会学術総会、若年乳がん治療と生殖補助医療の介入について、2015年7月	手術療法・機器開発	多久和晴子
20	学会発表: 「日本外科学会」「腹腔鏡の視野特異性に基づいた完全腹腔鏡下肝切除手技」「2015年4月」、	手術療法・機器開発	小木曾 聡
21	学会発表: 「日本肝臓学会総会」「脱細胞化組織を鋳型とし胎仔肝細胞を細胞源として用いた三次元人工肝臓の構築」「2015年5月」	手術療法・機器開発	小木曾 聡
22	学会発表: 「日本肝胆膵外科学会」「脱細胞化骨格を鋳型とし肝前駆細胞を細胞源とした人工肝臓の構築」「2015年6月」、	手術療法・機器開発	小木曾 聡
23	学会発表: 「日本消化器外科学会」「脱細胞化組織を鋳型としマウス胎仔肝細胞を細胞源とした三次元肝臓の構築」「2015年7月」	手術療法・機器開発	小木曾 聡
24	学会発表: 「第28回日本放射線腫瘍学会」、「HIF-1-mediated Secretion of SHH Functions in the Formation of Stroma-rich Microenvironment of Pancreatic Cancers」、「2015年11月20日」	先端的放射線治療開発	片桐幸大
25	学会発表: 「第74回日本医学放射線学会総会」、「Pretreatment modified Glasgow Prognostic Score predicts clinical outcomes after stereotactic body radiotherapy for early-stage non-small cell lung cancer」、「平成27年4月」	先端的放射線治療開発	岸 高宏
26	学会発表: 「第64回近畿膵疾患談話会」、「切除不能局所進行膵癌に対する化学放射線療法におけるCRPの予後因子としての有用性」、「平成27年11月」	先端的放射線治療開発	岸 高宏
27	学会発表: 「日本放射線腫瘍学会第28回学術大会」、「切除不能局所進行膵癌に対する 化学放射線療法における CRPの予後因子としての有用性」、「平成27年11月」	先端的放射線治療開発	岸 高宏
28	学会発表: 「第23回乳癌学会」「27年7月3日」、「第53回癌治療学会」「27年10月30日」、「1-3個の腋窩リンパ節転移症例に対する乳房温存療法の治療成績」	先端的放射線治療開発	平田希美子

29	学会発表: 「日本薬剤学会第30年会」、「リツキシマブの生体における構造変化の評価」、「2015年5月21日」	がん専門薬剤師養成	大谷裕基
30	学会発表: 「第53回 日本癌治療学会学術集会」、「生体内におけるリツキシマブの経時的構造変化の解析」、「2015年10月31日」	がん専門薬剤師養成	大谷裕基
31	学会発表: 「第53回日本癌治療学会学術集会」、「胃癌患者におけるサルコペニア肥満が胃切除後Surgical site infectionに与える影響」、「2015年10月30日」	手術療法・機器開発	錦織達人
32	学会発表: 第109回医学物理学学会学術大会、「Development of Energy-resolved Computed Tomography Method for Reducing Adverse Reactions of Iodinated Contrast Media」, 2015/04	先端医学物理研究者養成	伊良皆 拓
33	学会発表: 「第70回日本消化器外科学会総会」、「胃癌患者におけるサルコペニア肥満が腹腔鏡下胃全摘術後のSurgical site infectionに与える影響」、「2015年7月16日」	手術療法・機器開発	錦織達人
34	雑誌投稿: 「日本外科学会雑誌」、「外科領域におけるHealth Technology Assessment」、「2015」	手術療法・機器開発	錦織達人
35	学会発表: 日本癌学会 愛知県 発表タイトル: Detection of LGR5-positive cells in human breast cancer tissues by stochemistry using a novel anti-LGR5 antibody 発表年月: 27年10月9日	手術療法・機器開発	常盤麻里子
36	雑誌投稿: 雑誌名: がん分子標的治療 発表タイトル: 乳がんに対する分子標的治療と併用療法 発表年月: 平成27年10月	手術療法・機器開発	常盤麻里子
37	学会発表: 日本中性子捕捉療法学会 マウスモデルを用いたL-FBPAとL-BPAの薬物動態における相同性の検討 2015年9月5日 渡邊翼, 服部能英, 太田洋一郎, 石村美紀, 切畑光統, 仲川洋介, 真田悠生, 増永慎一郎, 平岡眞寛, 小野公二, 鈴木実	先端的放射線治療開発	渡邊 翼
38	学会発表: 日本産婦人科学会、「卵巣癌腹膜播種におけるVEGF発現はMDSC浸潤を介して腫瘍免疫を抑制している」、「H27年4月」	婦人科がん治療の開発	堀川直城
39	学会発表: 婦人科腫瘍学会、「卵巣癌におけるVEGF発現は、腫瘍内にMDSCを誘導し局所免疫を抑制している」、「H27年8月」	婦人科がん治療の開発	堀川直城
40	学会発表: 日本癌学会、「VEGF expressed in ovarian cancer suppresses tumor immunity through induction of MDSC」、「H27年10月」	婦人科がん治療の開発	堀川直城
41	学会発表: 日本免疫学会「Expression of VEGF in ovarian cancer suppresses tumor immunity through recruitment of MDSC」、「H27年11月」	婦人科がん治療の開発	堀川直城
42	学会発表: 「第23回乳癌学会」、「1-3個の腋窩リンパ節転移症例に対する乳房温存療法の治療成績」、「27年7月3日」	先端的放射線治療開発	平田希美子
43	学会発表: 日本放射線腫瘍学会学術大会 27年11月19日 Evaluation of myocardial damage after chemoradiotherapy for esophageal carcinoma using 18-hour fasting FDG-PET	先端的放射線治療開発	石田祐一

44	学会発表: 「平成27年日本血液学会総会」、「同種造血幹細胞移植後における慢性腎臓病の発症率とリスク因子」、「平成27年10月16日」	抗悪性腫瘍薬臨床開発	城 友康
45	臨床外科 臨床報告 臨床外科 臨床報告 2015年8月 発行 「骨形成不全症に併発した大動脈弁閉鎖不全症の術後長期生存の1例」	手術療法・機器開発	笠原桂子
46	学会発表: 近畿作業療法学会 がんサバイバーに対する作業療法の可能性とランダム化比較試験の実践 2015年11月	がんリハビリテーション法の開発	華井明子
47	学会発表: 「日本血液学会」「移植後TMAに対するリコンビナントロンボモジュリンの有効性と安全性に関する後方視的解析」「2015年10月16日」	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松井宏行
48	学会発表: 「第74回日本医学放射線学会総会」「癌性髄膜症に対する全脳照射の治療成績」「2015年4月19日」	先端的放射線治療開発	宇藤 恵
49	学会発表: 「第24回日本定位放射線治療学会」「頭蓋咽頭腫に対する3次元回転原体照射、coplanar VMAT、non-coplanar VMATの比較検討」「2015年5月15日」	先端的放射線治療開発	宇藤 恵
50	論文発表: 日本消化器外科学会雑誌:査読あり 腹腔鏡下幽門側胃切除術後に肝鎌状間膜内ヘルニアをきたした1例 奥村公一、細木久裕、山浦忠能、吉村文博、金谷誠一郎 2015年2月(第48巻第2号):P172-177	手術療法・機器開発	奥村公一
51	学会発表: 「JDDW2015」、「発症早期の集学的治療は、Walled-off necrosisに対する侵襲的治療の必要性を減ずる」、「27年10月8日」	抗悪性腫瘍薬臨床開発	森田敏広
52	雑誌投稿: 「ヒマラヤ学誌」、「ブータン王国における内視鏡診療の経験」 in press	抗悪性腫瘍薬臨床開発	二階堂三洋
53	学会発表: 「第53回日本癌治療学会学術集会」「前立腺癌根治的放射線治療後の骨盤リンパ節再発に対する救済放射線治療の検討」「2015年10月29日」	先端的放射線治療開発	中村清直
54	雑誌投稿: 「肝・胆・膵」「【microbiome(腸内細菌)と肝胆膵領域の新世纪】膵臓とmicrobiome 良性膵疾患と腸内細菌」、「27年6月」	抗悪性腫瘍薬臨床開発	森田敏広
55	学会発表: 「第53回癌治療学会学術集会」2015/10/31 「慢性維持透析患者のがん診療実態調査(J-CANDY試験:多施設共同観察研究)」	抗悪性腫瘍薬臨床開発	船越太郎
56	学会発表: 2015年第37回バイオマテリアル学会 非ラメラ液晶製材の被覆による術後癒着防止効果の検証 2015年11月10日	手術療法・機器開発	山下幸大
57	雑誌投稿: 「最新透析医療」 「透析患者における抗がん薬治療の実態および血中濃度モニタリングについて」	抗悪性腫瘍薬臨床開発	船越太郎
58	学会発表: 「第74回日本癌学会学術総会」、「Regulation of glucose metabolism and protein degradation by Txnip in cancer suppression」、「平成 27 年10 月10 日」	がん専門薬剤師養成	Cristiane Lumi Hirata
59	学会発表: 第73回日本医学放射線学会総会 「局所進行非小細胞肺癌に対する(化学)放射線療法後の結果に与える治療前炎症所見の影響」(平成27年4月)	先端的放射線治療開発	光吉隆真

60	学会発表: 第53回日本癌治療学会 「局所進行NSCLCに対するCRT後の予後因子の検討」(平成27年10月)	先端的放射線治療開発	光吉隆真
61	学会発表: 「第53回日本癌治療学会学術集会」 「FOLFOX療法中の上肢機能 およびADLの変化に関する調査研究」(2015年10月31日(土))	がんリハビリテーション法の開発	田畑阿美
62	学会発表: 「日本外科学会総会」、「肝静脈根部腫瘍に対するアプローチ」、「27年4月」	手術療法・機器開発	池野嘉信
63	学会発表: 日本産婦人科学会・子宮体部癌肉腫における脈管侵襲像の病理学的検討・2015年4月	婦人科がん治療の開発	滝 真奈
64	学会発表: 日本癌学会・卵巣癌播種性転移モデルにおける上皮間葉転換因子SNAIL発現と局所免疫能 2015年9月	婦人科がん治療の開発	滝 真奈
65	学会発表: 日本免疫学会・Inhibition of Snail-induced EMT promotes anti-tumor immunity in ovarian cancer 2015年11月	婦人科がん治療の開発	滝 真奈
66	学会発表: 「日本外科学会学術集会」、「腹腔鏡下大腸切除術における予防的抗菌剤投与法のRCT (JMTO PREV07-01)におけるSSIの手術部位別検討」、「2015年4月」	婦人科がん治療の開発	後藤沙織
67	学会発表: 「日本消化器外科学会」、「Colorectal resection in gynecological cancer surgery」、「2015年7月」	婦人科がん治療の開発	後藤沙織
68	学会発表: 「大腸癌研究会プロジェクト研究会」、「結腸癌の縫合不全が予後に与える影響について」、「2015年7月」	婦人科がん治療の開発	後藤沙織
69	学会発表: 癌治療学会 regorafenibにてPRとなり長期病勢制御が得られた一例 10月	手術療法・機器開発	吉野健史
70	学会発表: 「第53回日本癌治療学会学術集会」、「寛解導入療法期急性白血病患者の身体活動量調査」、「27年10月31日」	がんリハビリテーション法の開発	地家淳志
71	雑誌投稿: 「医療薬学」、「薬剤師の介入による向精神薬適正使用と転倒・転落事故数への影響」、「2016/3予定」	がん専門薬剤師養成	重面雄紀
72	論文発表: 日本消化器外科学会雑誌 人工肛門造設部と上腕ポート抜去部、点滴抜針部に続けて壊疽性膿皮症を発症した1例 10月	手術療法・機器開発	吉野健史
73	学会発表: JASTRO2015 “人工呼吸管理下の患者に対する放射線治療 筋萎縮性側索硬化症を合併した口腔癌患者におこなった当院の取り組み” 2015/11/20	先端的放射線治療開発	花澤豪樹
74	学会発表 第28回 日本内視鏡外科学会:「内視鏡外科時代のマイルズ手術 上から行くか下から行くか?」2015/12/10-12	手術療法・機器開発	岡田倫明
75	学会発表 第70回 日本消化器外科学会:「Short-term results of neoadjuvant chemoradiotherapy in patients with locally advanced rectal cancer」2015/15-17	手術療法・機器開発	岡田倫明

76	雑誌投稿 日本消化器外科学会雑誌:「マイコプラズマ肺炎による咳嗽が誘因となったと思われる伝染性単核球症の1例」48(4):350-356,2015	手術療法・機器開発	岡田倫明
77	雑誌投稿 日本内視鏡外科学会雑誌:「左閉鎖孔に発生したリンパ管腫に対し腹腔鏡下切除を行った1例」20(6):649-695,2015	手術療法・機器開発	岡田倫明
78	雑誌投稿 「臨床血液 56(2015):4, p357」、「アドセトリスによる救療療法が著効したHodgkinリンパ腫」、「2015年4月」	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小西義延
79	学会発表 第57回日本小児血液がん学会総会 「High prevalence of BCOR-CCNB3 sarcoma in pediatric translocation negative Ewing sarcoma」 27年11月28日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	三上真充
80	研究会発表 第61回 同種造血細胞移植問題症例を考える会 「HLA半合致血縁者間骨髄移植後に抗ウイルス薬耐性HSV-1感染症を発症した一例」 27年10月2日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	三上真充
81	学会発表 第38回日本造血細胞移植学会総会 「HLA半合致血縁者間骨髄移植後に 抗ウイルス薬耐性HSV-1感染症を発症した一例」 28年3月4日 予定	抗悪性腫瘍薬臨床開発	三上真充
82	雑誌投稿: 日本小児科学会雑誌 「リンパ腫の治療中に気管腕頭動脈瘻を生じた重症心身障害児例」 27年5月1日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	三上真充
83	雑誌投稿: 書籍:「完全腹腔鏡下胃切除術 エキスパートに学ぶ体腔内再建法」、「リニアステイプラーを用いた再建 Functional法」、「2015年7月」	手術療法・機器開発	山浦忠能
84	研究会発表 平成27年9月12日、日本神経内分泌腫瘍研究会、 「SACIテストにて腫瘍局在を診断し腹腔鏡下に切除しえた膵インスリノーマの一例」	抗悪性腫瘍薬臨床開発	仲野健三
85	雑誌投稿: 「月刊薬事」、「乳癌 標準治療とエビデンス」、「2016年1月」	手術療法・機器開発	中山美恵
86	学会発表: 「第27回日本肝胆膵外科学会学術集会」 タイトル:difficulty scoring systemを用いた腹腔鏡下肝切除術の短期成績評価 2015年6月13日	手術療法・機器開発	藤 浩明
87	学会発表: 「第70回日本消化器外科学会総会」 タイトル: 高齢者における腹腔鏡下肝部分切除の現状と方向性 2015年7月17日	手術療法・機器開発	藤 浩明
88	雑誌投稿: 「日本内視鏡外科学会雑誌」 発表タイトル:腹腔鏡下肝切除術 difficulty scoring systemの検証 発表年月:第20巻 第6号・2015年11月	手術療法・機器開発	藤 浩明
89	学会発表: 第3回細胞凝集研究会、大腸がんCTOS(Cancer Tissue-Originated Spheroid)の三次元構造の破壊と再生、平成27年11月20日	手術療法・機器開発	萩原 健
90	学会発表: 「同種臍帯血移植における、HHV-6に対するホスカルネット先制攻撃的治療」 第77回日本血液学会学術集会 2015年10月16日～18日 金沢	抗悪性腫瘍薬臨床開発	大塚泰幸
91	学会発表: 日本産科婦人科学会学術講演会 「顆粒膜細胞腫11症例の検討」 2015年4月	婦人科がん治療の開発	北村幸子
92	学会発表: 日本婦人科腫瘍学会学術講演会、 「顆粒膜細胞腫32症例の検討」 2015年8月	婦人科がん治療の開発	北村幸子

滋賀医科大学 国内学会、国内雑誌への発表一覧

1	中村正子,高野淳,Manh Thang Phung,宮城洋平,醍醐弥太郎 乳がんの新規治療標的分子URST1の同定 第74回日本癌学会学術総会 2015年10月10日
2	Manh Thang Phung,高野淳,吉武義泰,篠原正徳,村上善則,醍醐弥太郎 予後バイオマーカーおよび口腔癌の治療標的としてのUROC1タンパクの同定 Characterization of UROC1 as a therapeutic target for oral cancer 第74回日本癌学会学術総会 2015年10月10日
3	血液腫瘍患者のCINVに対する低用量オランザピンの有効性と安全性 土手賢史 澤井麻記 野崎歩 小林由佳 日本臨床腫瘍学会 H27.7.28-30
4	糖尿病合併造血管腫瘍患者に対するがん化学療法時の留意点 土手賢史 小林由佳 日本癌治療学会 H27.10.15
5	リツキシマブ投与患者に対するB型肝炎ウイルス再活性化対策の現状と課題 土手賢史 古田祐美子 野崎歩 小林由佳 日本医療薬学会 H27.11/21-23
6	青木 健、津川拓也、河野直明、村田喜代史 肺腫瘍に対する体幹部定位放射線治療の治療成績 滋賀医大雑誌 Vol.29 02号

京都薬科大学 国内学会、国内雑誌への発表一覧

No.	取組状況等	所属コース	氏名
1	第19回日本がん分子標的治療学会学術集会(松山) 神経膠芽腫幹細胞に発現するイオン輸送体を標的とした新規治療ターゲットの探索 2015/6/10~6/12	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	高田 哲也
2	日本味と匂学会 第49回大会(岐阜) ラット味蕾での細胞周期に対するオキサリプラチンの影響 2015/9/24~9/26	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	大石 晃弘
3	第53回日本癌治療学会学術集会(京都) 母集団薬力学モデル解析によるGC療法後の骨髄抑制経時変化予測 2015/10/29~10/31	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	地崎 悠吾
4	第25回日本医療薬学会年会(横浜) ボルテゾミブ投与マウスにおける味覚感受性の変化 2015/11/21~11/23	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	大石 晃弘
5	5大学連携「医療フォーラム」(京都) 神経膠芽腫幹細胞におけるイオン輸送体関連分子の発現量解析および阻害評価 2016/1/19	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	高田 哲也
6	5大学連携「医療フォーラム」(京都) 母集団薬力学モデル解析とベイズ推定を用いたGC療法後の骨髄抑制経時変化予測 2016/1/19	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	地崎 悠吾
7	がん専門薬剤師・薬学研究者養成コース会議 ボルテゾミブ誘発性味覚障害の特性と発現機序に関する研究 2016/2/13	がん薬物療法を専門とする 薬学研究者育成コース	大石 晃弘

海外学会・シンポジウム等参加状況

京都大学

NO.	海外学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏名
1	2015年4月13日～17日 「GAP2015 Conference」、アメリカ・ヒューストン	婦人科がん治療の開発	村上隆介
2	27年5月30日～6月3日 2015年ASCRS参加・発表、米国	手術療法・機器開発	稲本 将
3	27年4月18日～22日 AACR annual meeting 2015学会参加、アメリカ合衆国	抗悪性腫瘍薬臨床開発	菊池 理
4	2016年1月6日～2016年1月9日 シンガポール国立がんセンター合同教育セミナー 参加、シンガポール	抗悪性腫瘍薬臨床開発	菊池 理
5	27年4月22日～4月28日 The 50th International Liver Congress (ILC)参加、ウィーン、オーストリア	手術療法・機器開発	河合隆之
6	27年10月4日～10月8日 American College of Surgeons 2015 Clinical Congress参加、シカゴ、米国	手術療法・機器開発	河合隆之
7	27年5月9日～27年5月10日 Seoul-Kyoto Breast Cancer Education Seminar参加 韓国	手術療法・機器開発	河口浩介
8	2015.10 「The 30th Anniversary Annual Critical Issues in Tumor Microenvironment」 Boston, MA, USA	手術療法・機器開発	河口浩介
9	27年4月18日～27年4月22日 AACR学会 (AACR Annual Meeting 2015) 参加 アメリカ	抗悪性腫瘍薬臨床開発	中奥敬史
10	28年1月4日～28年1月7日 AACR-IASLC国際合同学会 (Fourth AACR-IASLC International Joint Conference) アメリカ	抗悪性腫瘍薬臨床開発	中奥敬史
11	27年7月12～16日 57th AAPM参加、Anaheim, CA, US	先端医学物理研究者養成	小野智博
12	27年11月12日～27年11月14日 4th Biennial meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology参加、韓国	婦人科がん治療の開発	山ノ井康二
13	27年4月18日～27年4月22日 AACR参加、21日ポスター発表、アメリカ・フィラデルフィア	手術療法・機器開発	多代尚広
14	27年4月18日～27年4月21日 American Association for Cancer Research Annual Meeting参加、アメリカ合衆国	手術療法・機器開発	植弘奈津恵
15	2016年1月6日～2016年1月9日 シンガポール国立がんセンター合同教育セミナー 参加、シンガポール	手術療法・機器開発	多久和晴子
16	27年4月24日～27年4月26日 the 50th International Liver Congress参加、オーストリア	手術療法・機器開発	小木曾聡
17	27年6月10日～13日 The 50th Congress of the European Society for Surgical Research, Liverpool, UK	手術療法・機器開発	出口靖記
18	27年4月24日～27年4月28日 3rd ESTRO Forum Congress 、スペイン(バルセロナ)	先端医学物理研究者養成	高宮大義

19	28年1月6日～28年1月9日 シンガポール国立がんセンター合同教育セミナー参加 シンガポール	がん専門薬剤師養成	大谷裕基
20	2015年4月14日～16日 GAP conference, poster presentation, Houston, TX, US	抗悪性腫瘍薬臨床開発	吉岡正博
21	2015年5月16日～19日 DDW 116th annual meeting, poster presentation, Washington DC, US	抗悪性腫瘍薬臨床開発	吉岡正博
22	27年10月31日～11月8日 2015 IEEE Nuclear Science Symposium & Medical Imaging Conference参加、アメリカ	先端医学物理研究者養成	伊良皆拓
23	27年11月26日～27日 4D Treatment Planning Workshop参加、ドイツ	先端医学物理研究者養成	伊良皆拓
24	2015年9月8～9日 Centre for Patient Safety and Service Quality SYMPOSIUM, London Surgical Symposium 英国	手術療法・機器開発	錦織達人
25	27年5月9日～27年5月10日 Seoul-Kyoto Breast Cancer Education Seminar参加 韓国	手術療法・機器開発	常盤麻里子
26	28年1月6日～28年1月9日 シンガポール国立がんセンター合同教育セミナー参加 シンガポール	手術療法・機器開発	常盤麻里子
27	2015年9月13～17日 VIII Young Researchers BNCT Meeting (Pavia, Italy)	先端的放射線治療開発	渡邊 翼
28	2015年12月5日 The 1st Academic Meeting of Taiwan Society of Neutron Capture Therapy (Taiwan)	先端的放射線治療開発	渡邊 翼
29	27年10月17日～10月20日 AACR advancement in ovarian cancer research, アメリカ	婦人科がん治療の開発	堀川直城
30	27年11月13日～18日 The Liver Meeting 2015参加、アメリカ	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本知訓
31	28年1月6日～28年1月9日 シンガポール国立がんセンター合同教育セミナー参加 シンガポール	先端的放射線治療開発	宇藤 恵
32	27年10月23日～27年10月30日 Fourth AACR International Conference on Frontiers in Basic Cancer Researchへの参加及びペンシルバニア大学消化器内科での研究発表と食道オルガノイドモデル作製実習(米国フィラデルフィア市)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	馬場希一郎
33	27年4月14日～16日 GAP 2015 Conference参加 Texas	先端的放射線治療開発	中村清直
34	Feb 11 - Feb 14, 2016 American Association for Cancer Research, patient-derived cancer models meeting, .	手術療法・機器開発	前川久継
35	27年4月17日～27年4月23日 AACR Annual meeting 2015参加、アメリカ合衆国	手術療法・機器開発	西村友美
36	2016年1月7日～8日 5大学連携シンガポール国立がんセンター合同教育セミナー 参加	抗悪性腫瘍薬臨床開発	廣橋研志郎
37	27年5月8日～27年5月10日 Seoul-Kyoto Breast Cancer Education Seminar, 韓国	手術療法・機器開発	川田有希子
38	27年12月5日～27年12月8日 米国血液学会・米国	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田淳恵

39	平成27年4月24日～平成27年4月28日 第3回 欧州放射線腫瘍学会議/3rd ESTRO Forum Congress (スペイン)	先端的放射線治療開発	光吉隆真
40	2016年1月6日～9日 5大学連携シンガポール国立がんセンター合同教育セミナー	先端的放射線治療開発	光吉隆真
41	2015年10月17～20日 AACR/ovarian cancer research/・アメリカフロリダ	婦人科がん治療の開発	滝 真奈
42	2016年1月6～9日 5大学合同シンポジウム・シンガポール	婦人科がん治療の開発	滝 真奈
43	28年1月20日～28年1月25日 ASCO GI シンポジウム参加、アメリカ合衆国	手術療法・機器開発	後藤沙織
44	27年11月13日～17日 American Association for the Study of Liver The Liver Meeting USA	手術療法・機器開発	西野裕人
45	27年10月18日～27年10月21日 ASTRO・アメリカ	先端的放射線治療開発	花澤豪樹
46	27年4月15日—18日 The 11th Asian Society for Pediatric Research(ASPR 2015)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	三上真充
47	平成28年3月9-11日 ヨーロッパ神経内分泌腫瘍学会 (European NeuroEndocrine Tumor Society:ENETS)、バルセロナ(スペイン)	抗悪性腫瘍薬臨床開発	仲野健三
48	2015年5月8日～2015年5月10日 SEOUL-KYOTO BREST CANCER EDUCATION SEMINER参加、韓国	手術療法・機器開発	中山美恵
49	2015年4月16日～4月19日 アメリカ内視鏡外科学会SAGES アメリカ 学会参加	手術療法・機器開発	井上善景
50	27年4月18日～4月22日 AACR annual meeting 2015、第106回 米国癌研究会議 国名:アメリカ(フィラデルフィア) 場所: Pennsylvania Convention Center	手術療法・機器開発	山口絢音
51	2015年9月3日 The 12th Asia-Pacific Congress of Endoscopic and Laparoscopic Surgery, Daegu, Korea(韓国)	手術療法・機器開発	藤 浩明
52	平成27年11月6日～7日 フランス パリ International Hematology Club 参加	手術療法・機器開発	大塚泰幸
53	27年11月12日—14日 The 4th Biennial Meeting of Asian Society of Gynecologic Oncology、ソウル	婦人科がん治療の開発	北村幸子
54	27年12月10日～27年12月12日 「the 13th South-East Asia Congress of Medical Physics (SEACOMP) congress」参加、インドネシア	先端医学物理研究者養成	平島英明
55	27年10月12日～27年10月24日 バンクーバー前立腺センターにて研修参加、カナダ	抗悪性腫瘍薬臨床開発	住吉崇幸

国内学会・シンポジウム等参加状況

京都大学

NO.	国内学会・シンポジウム等参加状況	所属コース	氏名
1	「第57回公益社団法人日本婦人科腫瘍学会学術講演会」平成27年8月7日	婦人科がん治療の開発	村上隆介
2	2015年第70回日本消化器外科学会総会参加・発表、静岡県 27年7月15日～7月17日	手術療法・機器開発	稲本 将
3	第51回日本肝臓学会総会参加 熊本県 27年5月20日～5月23日	手術療法・機器開発	河合隆之
4	第27回日本肝胆膵外科学会総会参加 東京都 27年6月11日～6月13日	手術療法・機器開発	河合隆之
5	日本-台湾放射線腫瘍学シンポジウム 山梨県 2015/6/26-6/28	先端的放射線治療開発	飯塚裕介
6	The 2nd IFOM-Kyoto University Joint Symposium Kyoto, Japan 27年10月6日-7日	手術療法・機器開発	奥知慶久
7	The 74th annual meeting of the Japanese Cancer association Nagoya, Japan 27年10月8日-10日	手術療法・機器開発	奥知慶久
8	日本学会学術総会 愛知県 27年10月6日～27年10月8日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	中奥敬史
9	ICRR 2015 参加、京都 27年5月25～29日	先端医学物理研究者養成	小野智博
10	第67回日本産科婦人科学会学術集会、神奈川県 27年4月10日～27年4月12日	婦人科がん治療の開発	山ノ井康二
11	第67回日本産科婦人科学会学術集会、神奈川県 27年4月10日～27年4月11日	婦人科がん治療の開発	村上隆介
12	第57回日本婦人科腫瘍学会学術集会、岩手県 27年8月7日～27年8月8日	婦人科がん治療の開発	山ノ井康二
13	第74回日本癌学会学術集会、愛知県 27年10月8日～27年10月10日	婦人科がん治療の開発	山ノ井康二
14	日本癌学会学術集会総会 演題名:食道扁平上皮癌の染色体コピー数異常における 予後関連因子の検討 ・名古屋 平成27年10月8日～10日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	後藤知之
15	第28回高精度外部放射線治療研究会 口頭発表、肝腫瘍に対するリアルタイムモニ タリング下動体追尾定位放射線治療 京都 2015/5/30	先端的放射線治療開発	飯塚裕介
16	日本放射線腫瘍学会第28回学術大会、口頭発表、Image comparison between 4- dimensional computed tomography (4DCT) and 320 multi-detector CT (320-MDCT) in lung tumors, 群馬 2015/11/19-21	先端的放射線治療開発	飯塚裕介
17	第115回日本外科学会定期学術集会(名古屋): 2015/4/16-18	手術療法・機器開発	中西保貴
18	第101回日本消化器病学会総会(仙台): 2015/4/23-25	手術療法・機器開発	中西保貴
19	第44回日本免疫学会総会(札幌): 2015/11/18-20	手術療法・機器開発	中西保貴
20	第2回IFOM-京都大学 合同シンポジウム参加、京都市 27年10月6日～10月7日	手術療法・機器開発	多代尚広
21	第74回日本癌学会学術総会参加、名古屋市 27年10月8日～10日	手術療法・機器開発	多代尚広
22	第36回日本臨床薬理学会学術総会 参加、東京都 27年12月9日～11日	がん専門薬剤師養成	新家 遥
23	日本臨床腫瘍薬学会学術大会2016 参加予定、鹿児島県 28年3月12日～13日	がん専門薬剤師養成	新家 遥
24	第23回日本乳癌学会学術総会参加、東京都 27年7月2日～27年7月4日	手術療法・機器開発	植弘奈津恵
25	日本外科学会参加、愛知県 27年4月14日～27年4月16日	手術療法・機器開発	小木曾聡
26	日本肝臓学会総会参加、熊本県 27年5月21日～27年5月22日	手術療法・機器開発	小木曾聡
27	日本肝胆膵外科学会参加、東京都 27年6月11日～6月13日	手術療法・機器開発	小木曾聡
28	日本消化器外科学会参加、東京都 27年7月15日～7月17日	手術療法・機器開発	小木曾聡

29	第74回 日本癌学会学術総会、名古屋(愛知県) 27年10月8日	手術療法・機器開発	出口靖記
30	第23回日本消化器関連学会週間 東京都 27年10月9日～10日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	吉岡拓人
31	第74回日本癌学会学術総会、愛知県、 27年10月8日～10日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	吉岡拓人
32	第74回日本癌学会学術総会、愛知県、27年10月8日～10日	先端の放射線治療開発	片桐幸大
33	15th International Congress of Radiation Research、京都府 27年5月25日～29日	先端の放射線治療開発	片桐幸大
34	2nd IFOM Kyoto University Joint Symposium、京都府 27年10月6日～7日	先端の放射線治療開発	片桐幸大
35	28回日本放射線腫瘍学会、群馬県 27年第11月19日～21日	先端の放射線治療開発	片桐幸大
36	JDDW(日本消化器病学会総会)参加 東京都 2015年11月	抗悪性腫瘍薬臨床開発	生田耕三
37	第74回日本医学放射線学会総会参加、神奈川県 27年4月16日～27年4月19日	先端の放射線治療開発	岸 高宏
38	ICRR2015参加、京都府 27年5月25日～27年5月29日	先端の放射線治療開発	岸 高宏
39	日本放射線腫瘍学会第28回学術大会参加、群馬県 27年11月19日～21日	先端の放射線治療開発	岸 高宏
40	第23回乳癌学会参加、東京都 27年月7月2日～27年7月4日	先端の放射線治療開発	平田希美子
41	第53回乳癌学会参加、京都府 27年10月29日～27年10月31日	先端の放射線治療開発	平田希美子
42	第109回医学物理学会学術大会参加、神奈川県 27年4月16日～19日	先端医学物理研究者養成	伊良皆拓
43	第115回日本外科学会定期学術集会 日本 2015年4月16日～18日	手術療法・機器開発	錦織達人
44	第28回日本内視鏡外科学会総会 日本 2015年12月10日～12日	手術療法・機器開発	錦織達人
45	日本癌学会参加、愛知県 27年10月8日～27年10月10日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	津田喬之
46	日本癌学会 参加 愛知県 27年10月8日～27年10月10日	手術療法・機器開発	常盤麻里子
47	日本がん分子標的治療学会 トランスレーショナルリサーチワークショップ 東京都 28年1月15日	手術療法・機器開発	常盤麻里子
48	第12回日本中性子捕捉療法学会(神戸) 2015年9月5日	先端の放射線治療開発	渡邊 翼
49	JDDW(日本消化器関連学会週間)参加 27年10月8日～27年10月11日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	木村佳人
50	日本産婦人科学会、横浜 27年4月10日～27年4月11日	婦人科がん治療の開発	堀川直城
51	婦人科腫瘍学会、盛岡 27年8月8日～8月9日	婦人科がん治療の開発	堀川直城
52	癌学会、名古屋 27年10月8日～10月10日	婦人科がん治療の開発	堀川直城
53	がん治療学会、京都 27年10月29日～10月31日	婦人科がん治療の開発	堀川直城
54	日本免疫学会、札幌 27年11月18日～11月20日	婦人科がん治療の開発	堀川直城
55	15th International Congress of Radiation Research、京都府 27年5月25日～29日	先端の放射線治療開発	堤ゆり江
56	日本放射線腫瘍学会学術大会 群馬県 27年11月19-21日	先端の放射線治療開発	石田祐一
57	ICRR 2015 京都 27年5月25-29日	先端の放射線治療開発	石田祐一
58	肝細胞研究会参加、島根県 27年6月4日～5日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本知訓
59	Gplus参加、東京都 27年12月19日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松本知訓

60	日本血液学会総会 参加、石川県 27年10月16日～27年10月18日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	城 友康
61	日本免疫学会参加、札幌市 27年11月18日～27年11月20日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小野林太郎
62	第84回大腸癌研究会 熊本市 2016/1/14-2016/1/15	手術療法・機器開発	奥村公一
63	日本ヨーガ療法学会研究総会参加、兵庫県 2015年5月8日(金)～10日(日)	がんリハビリテーション法の開発	華井明子
64	日本ペインクリニック学会参加 大阪府 27年7月23日(木)～27年7月25日(土)	がんリハビリテーション法の開発	華井明子
65	日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 神奈川県 27年8月29日～27年8月30日	がんリハビリテーション法の開発	華井明子
66	第21回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 京都府 2015年9月11日～12日	がんリハビリテーション法の開発	華井明子
67	日本癌学会学術集会 名古屋 27年10月8日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松井宏行
68	日本血液学会学術集会 金沢 27年10月16日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	松井宏行
69	第74回日本医学放射線学会総会 2015年4月19日	手術療法・機器開発	藤 浩明
70	第24回日本定位放射線治療学会 2015年5月15日	手術療法・機器開発	藤 浩明
71	JDDW2015 東京参加 27年10月8日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	森田敏広
72	内科学会総会 参加 27年4月10～12日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	友野輝子
73	第112回日本内科学会講演会、京都府 27年4月10日～12日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	二階堂三洋
74	第29回日本医学会総会、京都府 27年4月11日～13日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	二階堂三洋
75	日本消化器内視鏡学会近畿支部第95回例会、大阪府 27年11月7日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	二階堂三洋
76	日本におけるデジタルヘルス-現状と将来展望、京都府 27年11月4日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	二階堂三洋
77	15th International Congress of Radiation Research参加 京都府 27年5月26日	先端の放射線治療開発	中村清直
78	第53回日本癌治療学会学術集会参加 京都府 27年10月29日～31日	先端の放射線治療開発	中村清直
79	第53回日本癌治療学会学術集会参加 京都府 27年10月29日～31日	がん専門薬剤師養成	大谷祐基
80	日本癌学会学術集会参加 27年10月8日～27年10月9日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田治彦
81	「第53回癌治療学会学術集会」参加 京都 27年10月29日～27年10月31日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	船越太郎
82	第23回日本乳癌学会学術総会、東京都 27年7月2日～27年7月4日	手術療法・機器開発	西村友美
83	第74回日本癌学会学術総会、愛知県 27年10月8日～27年10月10日	手術療法・機器開発	西村友美
84	癌学会参加 2015年10月8日～2015年10月10日	手術療法・機器開発	後藤規弘
85	第74回日本癌学会学術総会参加、愛知県 平成27年10月8日～平成27年10月10日	がん専門薬剤師養成	Cristiane Lumi Hirata
86	第29回日本医学会総会、京都 27年4月11日～27年4月13日	手術療法・機器開発	川田有希子
87	日本乳癌学会参加、東京都 27年7月2日～27年7月4日	手術療法・機器開発	川田有希子
88	日本血液学会・金沢県 27年10月16日～27年10月18日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	竹田淳恵
89	第73回日本医学放射線学会総会(横浜) 平成27年4月16日～平成27年4月19日	先端の放射線治療開発	光吉隆真
90	第53回日本癌治療学術集会(京都) 平成27年10月29日～平成27年10月31日	先端の放射線治療開発	光吉隆真

91	日本内視鏡外科学会、大阪市 27年12月10日～27年12月12日	手術療法・機器開発	池野嘉信
92	日本医学会総会参加、京都市 27年4月11日～27年4月13日	手術療法・機器開発	池野嘉信
93	日本産婦人科学会・横浜・ 2015年4月9日～12日	婦人科がん治療の開発	滝 真奈
94	日本癌学会・名古屋・ 2015年10月9日	婦人科がん治療の開発	滝 真奈
95	日本免疫学会 ・札幌・ 2015年11月20日	婦人科がん治療の開発	滝 真奈
96	第53回日本癌治療学会学術集会参加、京都府 27年10月29日～31日	手術療法・機器開発	星野伸晃
97	日本外科学会学術集会参加、愛知県 27年4月16日～27年4月18日	手術療法・機器開発	後藤沙織
98	日本消化器外科学会参加、静岡県 27年7月15日～27年7月17日	手術療法・機器開発	後藤沙織
99	大腸癌研究会参加、福岡県 27年7月3日	手術療法・機器開発	後藤沙織
100	癌治療学会 京都 27年10月30～10月31日	手術療法・機器開発	吉野健史
101	肝胆膵外科学会 東京 27年6月11日～6月12日	手術療法・機器開発	吉野健史
102	第74回日本癌学会学術総会参加、愛知県 27年10月8日～10日	手術療法・機器開発	津田 萌
103	第13回関西がんのリハビリテーション研究会参加、大阪府 27年10月3日	がんリハビリテーション法の開発	地家淳志
104	第53回日本癌治療学会学術集会参加、京都府 27年10月29日～31日	がんリハビリテーション法の開発	地家淳志
105	日本肝胆膵外科学会 学術集会参加、東京都 27年6月11日～13日	手術療法・機器開発	西野裕人
106	日本病院薬剤師会 東海ブロック 27年11月1日	がん専門薬剤師養成	重面雄紀
107	第25回医療薬学会年会 27年11月21日～23日	がん専門薬剤師養成	重面雄紀
108	第37回日本病院薬剤師会近畿学術大会 28年1月23日～24日	がん専門薬剤師養成	重面雄紀
109	第27回日本肝胆膵外科学会・学術集会 東京都 27年6月11日～13日	手術療法・機器開発	尾川諒太郎
110	JASTRO、群馬県 27年11月19日～27年11月21日	先端的放射線治療開発	花澤豪樹
111	日本消化器外科学会 静岡県 7/15-7/17	手術療法・機器開発	岡田倫明
112	日本内視鏡外科学会 27年12月10日～12日	手術療法・機器開発	岡田倫明
113	第24回 コンピューター外科学会 2015/11/21-23	手術療法・機器開発	岡田倫明
114	第2回IFOM-京都大学合同シンポジウム、京都府 27年10月6日～7日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小西義延
115	第75回日本癌学会学術集会、愛知県 27年10月8日～27年10月10日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	小西義延
116	第118回 日本小児科学会総会 27年4月17日～19日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	三上真充
117	第61回 同種造血細胞移植問題症例を考える会 27年10月2日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	三上真充
118	第57回 日本小児血液がん学会総会 27年11月27日～29日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	三上真充
119	第38回日本造血細胞移植学会総会 28年3月3日～5日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	三上真充
120	第51回日本移植学会総会、熊本県 平成27年10月1日～3日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	仲野健三
121	第3回日本神経内分泌腫瘍研究会、宮城県 平成27年9月12日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	仲野健三

122	第37回日本バイオマテリアル学会参加 京都府 27年11月9日～10日	手術療法・機器開発	村上隆英
123	ICRR2015 15th International congress of radiation research、京都府 27年5月25日～5月29日	先端放射線治療開発	新谷 堯
124	第74回 日本癌学会学術総会、愛知県、10月8日～10月10日	先端放射線治療開発	新谷 堯
125	第23回日本乳癌学会学術総会 東京 27年7月2日～7月4日	手術療法・機器開発	山口絢音
126	第24回日本定位放射線治療学会 長崎 2015年5月15日	先端放射線治療開発	宇藤 恵
127	第23回日本乳癌学会学術総会 東京 27年7月2日～7月4日	手術療法・機器開発	木曾末厘乃
128	臨床腫瘍学会 札幌 27年7月16日～7月17日	手術療法・機器開発	山口絢音
129	「第27回日本肝胆膵外科学会学術集会」 2015年6月13日	手術療法・機器開発	藤 浩明
130	「第70回日本消化器外科学会総会」 2015年7月17日	手術療法・機器開発	藤 浩明
131	第51回日本移植学会総会、(熊本) 2015年10月2-3日	がん専門薬剤師養成	都築徹教
132	第32回日本TDM学会、(松本) 2015年5月23-24日	がん専門薬剤師養成	都築徹教
133	外科学会、愛知県名古屋市 27年4月16-18日	手術療法・機器開発	白井久也
134	日本消化器外科学会総会、静岡県浜松市 27年7月15-17日	手術療法・機器開発	白井久也
135	第74回日本癌学会学術総会 27年10月8日～10日	手術療法・機器開発	萩原 健
136	第3回細胞凝集研究会 27年11月20日	手術療法・機器開発	萩原 健
137	癌免疫学会 27年6月9日～10日	手術療法・機器開発	西川 元
138	日本免疫学会 27年11月18日～20日	手術療法・機器開発	西川 元
139	第70回 日本消化器外科学会総会 (浜松市) 2015/7/15-7/17	手術療法・機器開発	玉木一路
140	日本癌学会参加、愛知県 27年10月8日～27年10月10日	抗悪性腫瘍薬臨床開発	野溝 岳
141	日本産科婦人科学会学術講演会、東京 27年4月9日—12日	婦人科がん治療の開発	北村幸子
142	日本婦人科腫瘍学会学術講演会、岩手 27年8月7日—9日	婦人科がん治療の開発	北村幸子
143	日本癌治療学会学術集会、京都 27年10月29日—31日	婦人科がん治療の開発	北村幸子
144	「日本医学物理学会学術大会」参加、神奈川県 27年4月16日～27年4月19日	先端医学物理研究者養成	平島英明
145	「日本医学物理学会学術大会、教育講演」参加、神奈川県 27年4月19日	先端医学物理研究者養成	平島英明
146	「第27回京大病院高精度放射線治療ワークショップ」参加、京都府 27年6月27日～27年6月28日	先端医学物理研究者養成	平島英明
147	「大阪医学物理セミナー」参加、大阪府 27年11月28日	先端医学物理研究者養成	平島英明
148	「第126回放射線治療かたろう会」参加、兵庫県 27年12月5日	先端医学物理研究者養成	平島英明

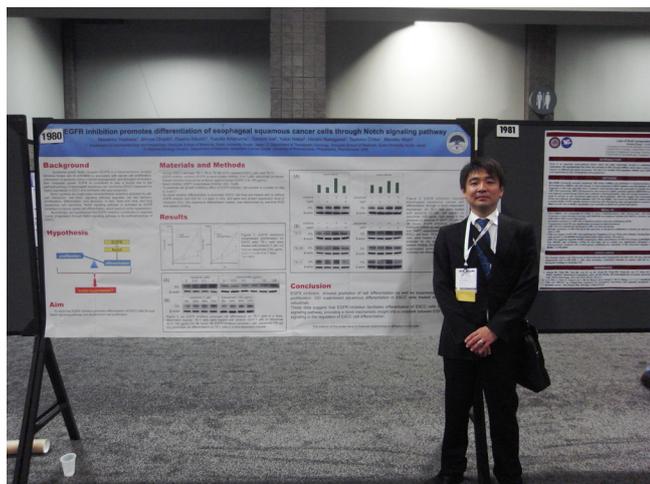
プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況

京都大学

NO.	プロトコル(臨床研究実施計画書等)作成への関与状況	所属コース	氏名
1	R0158-1巣漿液性腺癌の病理組織細分類に基づく治療個別化の探索	婦人科がん治療の開発	村上隆介
2	多施設共同医師主導治験「多剤不応進行再発食道癌に対するFTD/TPI 合剤(TAS-102)の有効性及び安全性に関する第Ⅱ相臨床試験」	抗悪性腫瘍薬臨床開発	菊池 理
3	疫学研究: E2126「肝細胞癌におけるCK19およびSOX9発現と予後に関する研究」	手術療法・機器開発	河合隆之
4	婦人科悪性腫瘍に対するセンチネルリンパ節の術中同定法ならびに微小転移診断法の確立と縮小手術への応用	婦人科がん治療の開発	山ノ井康二
5	婦人科癌におけるDNAメチル化および遺伝子発現の網羅的解析	婦人科がん治療の開発	山ノ井康二
6	プラチナ抵抗性再発・進行卵巣癌に対する抗PD-1抗体を用いた免疫療法に関する第Ⅱ相試験	婦人科がん治療の開発	山ノ井康二
7	婦人科がんにおけるカルボプラチンを含む癌化学療法レジメンに対するアプレピタント投与についての臨床第Ⅱ相試験	婦人科がん治療の開発	山ノ井康二
8	動物体追尾肝定位放射線治療の安全性および有効性評価の多施設共同第二相試験(UMIN試験ID:UMIN000017886)	先端的放射線治療開発	飯塚裕介
9	G534「血中循環乳癌細胞に対するエピジェネティクス・マルチマーカーの実用化開発研究」 プロトコル改訂	手術療法・機器開発	植弘奈津恵
10	膵癌に対する放射線治療における呼吸同期FDG-PET画像の有用性を検討する研究	先端的放射線治療開発	岸 高宏
11	全乳房照射法の安全性評価のための臨床試験 (C1079)	先端的放射線治療開発	平田希美子
12	生体内におけるリツキシマブの経時的な構造変化の評価 UMIN試験ID:UMIN000016713	がん専門薬剤師養成	大谷裕基
13	背景に多発ヨード不染帯を有する食道早期癌に対する内視鏡治療後の重複癌発生の抑制に関するpilot study	抗悪性腫瘍薬臨床開発	横山顕礼
14	「スフェロイド培養モデルの樹立及び臨床応用に関する研究」	抗悪性腫瘍薬臨床開発	西川義浩
15	次世代型質量分析計によるプロテオミクス解析を用いた新規肝細胞癌発癌エクソソームマーカーの探索	抗悪性腫瘍薬臨床開発	李 宗南
16	胃癌、食道癌に対するICG局注赤外線腹腔鏡観察によるセンチネルリンパ節ナビゲーション手術の有用性についての研究	手術療法・機器開発	錦織達人
17	胃上部の臨床病期I期の胃癌に対する腹腔鏡下噴門側胃切除の有用性に関する研究	手術療法・機器開発	錦織達人
18	サルコペニア肥満が腹腔鏡下胃全摘術後の手術部位感染に与える影響	手術療法・機器開発	錦織達人
19	腹腔鏡下大腸手術における術中ナビゲーション装置の精度の評価	手術療法・機器開発	錦織達人
20	「転移性膵腫瘍に関する後ろ向き多施設共同研究」の京都大学での倫理申請を担当	抗悪性腫瘍薬臨床開発	津田喬之

21	G738膵癌、胆道癌における遺伝子異常の網羅的解析と治療薬開発、	抗悪性腫瘍薬臨床開発	垣内伸之
22	G748家族性膵癌の疾患関連遺伝子に関する研究、	抗悪性腫瘍薬臨床開発	垣内伸之
23	G766膵神経内分泌癌及び膵MANECの遺伝子異常の網羅的解析	抗悪性腫瘍薬臨床開発	垣内伸之
24	「5FU+シスプラチン療法施行患者の静脈炎に対するステロイド軟膏を用いた予防効果に関する無作為二重盲検並行群間比較試験」	がんリハビリテーション法の開発	華井明子
25	G1053 頭頸部癌におけるFMISO-PET/CT検査の有用性の検討	先端的放射線治療開発	河村光栄
26	患者由来腫瘍異種移植片 (patient derived xenograft:PDX)を用いた消化管癌における薬剤応答性の探索的研究	抗悪性腫瘍薬臨床開発	馬場希一郎
27	ヒト消化管癌を用いたオルガノイド(3次元組織構造体)モデルの樹立	抗悪性腫瘍薬臨床開発	馬場希一郎
28	「KBP Box 治療計画ソフトウェアの臨床評価」	先端的放射線治療開発	中村清直
29	「腎機能低下患者における5-FUの薬物動態解明に関する研究」	抗悪性腫瘍薬臨床開発	船越太郎
30	「遺伝性びまん性胃癌の疾患関連遺伝子に関する解析」	抗悪性腫瘍薬臨床開発	船越太郎
31	乳癌化学療法時の悪心嘔吐に関する観察研究	手術療法・機器開発	西村友美
32	G424 乳がん微小環境形成に関わる分子生物学的機序の生体試料を用いた探索研究	手術療法・機器開発	川田有希子
33	C859 肺体幹部定位放射線治療における線量増加の安全性および有効性評価のパイロット研究	先端的放射線治療開発	光吉隆真
34	「小児脳腫瘍患児の精神・認知機能、協調運動および学校生活における適応行動に関する調査研究」	がんリハビリテーション法の開発	田畑阿美
35	「生体肝移植ドナー術後の長期経過」	手術療法・機器開発	池野嘉信
36	腹腔鏡下結腸癌切除術後の腹痛・腹部膨満感に対するTJ-100ソムラ大建中湯の有効性および安全性に関する探索的研究	手術療法・機器開発	星野伸晃
37	局所進行下部直腸癌に対する術前補助化学療法の有効性と認容性の検討 (C546)	手術療法・機器開発	後藤沙織
38	直腸低位前方切除術後の縫合不全予防のための経肛門ドレーンの意義 (E2491)	手術療法・機器開発	後藤沙織
39	ヒト腸管壁における硫酸アルミニウムカリウム水和物・タンニン酸(ALTA)による注射療法後の組織学的変化の検討 (R0326)	手術療法・機器開発	後藤沙織
40	肝右葉グラフトドナーの術後肝機能と年齢との関係に関する研究	手術療法・機器開発	吉野健史
41	「大腸癌肝転移治癒切除後の患者に対する術後補助化学療法として、L-OHPベース化学療法にUFT/LV療法の逐次療法を行うことの安全性と有用性の検討」	手術療法・機器開発	西野裕人
42	「近赤外蛍光カラーシステムを用いた新規術野投影機器の機能・性能の評価」	手術療法・機器開発	西野裕人

43	「Thiel法で固定された遺体の組織学的評価の有用性」 「腹腔鏡下大腸手術における術中ナビゲーションの位置精度の評価」(倫理申請中) 「ナビゲーションシステムを使用した腹腔鏡下S状結腸切除術の“追いつアドバンス” の教材作成」(倫理申請中)	手術療法・機器開発	岡田倫明
44	乳癌cN1症例におけるNAC後SLNBの精度とその後の予後の評価に関する研究	手術療法・機器開発	中山美恵
45	がん研有明病院 「大腸癌における網羅的遺伝子解析」	手術療法・機器開発	井上善景
46	岸和田市民病院 「腹膜偽粘液腫における網羅的遺伝子解析」	手術療法・機器開発	井上善景
47	「腹腔鏡を用いた肝切除の安全性の検証症例」	手術療法・機器開発	藤 浩明
48	「登録システムを用いた腹腔鏡下肝切除術の安全性に関する検討 ～前向き多施設 共同研究～」	手術療法・機器開発	藤 浩明
49	術前サルコペニアが肝胆膵移植術後アウトカムに与える影響に関する観察研究	手術療法・機器開発	白井久也
50	治癒切除不能な RAS 変異型進行再発大腸がんに対する Pegfilgrastim 併用下 FOLFOXIRI+Bevacizumab 療法の 奏効率についての検討 -多施設共同臨床第 II 相 試験-	抗悪性腫瘍薬臨床開発	大塚泰幸
51	「新たな培養法(CTOS法)を用いた再生T細胞の細胞傷害活性の測定法の開発、およ びその方法を用いたがん細胞固有抗原(変異抗原)特異的再生T細胞同定法の開発」	手術療法・機器開発	西川 元
52	臨床研究の計画書:肺癌におけるProgrammed Death Ligand 1遺伝子多型による予後 及び治療効果の関連性についての検討	抗悪性腫瘍薬臨床開発	野溝 岳



履修生による国内外学会での研究発表



評価結果表

※ 採点は、A:優、B:良、C:可、D:やや不十分、E:不可の5段階評価

	項目番号	達成目標	評価者1	評価者2	評価者3
全拠点共通目標	1	各コースの受入目標人数に対する入学者数、充足率を満たすための取組みはなされているか、	A	A	A
	2	がんに関する専門資格の取得へ向けた具体的な取組みがなされているか、	A	A	A
	3	コース履修者の満足度を満たすための取組みがなされているか、	A	A	A
	4	がんに特化した新講座の設置計画は計画どおり進められているか、講座の活動状況は、	A	A	A
	5	教員の指導能力向上のためのファカルティ・ディベロップメントの取組み状況、開催数と参加者数、	B	A	A
	6	外部委員による外部評価を実施し、PDCAサイクルを活用することで、プログラムの発展的な見直しを行う体制になっているか、	A	A	A
	7	医療チーム(放射線治療チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等)の整備数、新たな整備数、	A	B	A
	8	多職種が共同で参加できるカンサーボード等の整備数、新たな導入数、	A	B	A
	9	医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績、	A	A	A
	10	コース履修者の医療チーム、カンサーボードへの参加人数、開催数、期間等、	B	B	A
	11	院内がん登録件数・活用実績、地域がん登録との連携実績、	A	A	A
	12	地域医療機関、医師会、薬剤師会、看護団体、患者団体等との連携した取組件数、参加者数、	A	A	A
	13	社会への情報発信の取組実績(一般向け講演会の開催回数・参加者数)	A	A	A
	14	本事業のホームページを開設し、積極的な情報公開を行う体制となっているか、	A	A	A
国際交流目標	15	コース履修者の国際学会、英文誌への研究論文発表数、	A	A	A
	16	コース履修者の先進的な海外研究機関等への研修派遣数、国際学会等への参加者数、	A	A	A
	17	国際交流プログラムの実施数、	A	A	A
	18	海外で活躍している研究者を講師とする講演会等の開催数、	A	A	A
	19	コース履修者が海外の先進的医療・研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み、	A	A	A
連携大学間・職種間連携目標	20	連携5大学による「合同フォーラム」の開催、取組み参加状況、	A	A	A
	21	連携大学間・人材交流等連携事業の実施件数、	A	A	A
	22	連携5大学 コース履修者の e-learning 受講登録率、	A	B	B
	23	新たな e-learning 講義科目の提供の取組みについて、	A	B	A
	24	医療チーム、カンサーボードの質の向上のための取組実績、	A	A	A
教育改革目標	25	がん診療連携拠点病院や地域医療機関・団体等と連携した教育実績件数、	A	A	A
	26	多職種連携教育の実施件数・参加者数、多職種連携教育推進の取組み状況、	A	A	A
	27	がん診療連携拠点病院での緩和ケア研修会の修了者に対するフォローアップ研修会等の実施状況、	A	B	A
	28	各大学がんセンターや放射線治療施設等と連携したチーム医療研修の推進、	A	B	A

地域貢献目標	29	地域医療機関等と連携した地域医療貢献への取組件数、	B	B	A
	30	市民公開講座等一般向け講演会の開催数、	A	A	A
	31	インテンシブ事業を活用した地域医療貢献の推進状況、	B	A	A
	32	本事業概要等の発行、ホームページの充実への取組み状況、	A	A	A
	33	県内でのがん対策の企画、立案への貢献の取組みについて、	A	A	A
	34	ITを用いた効率的な連携による地域完結型医療体制の構築の取組み、	B	A	A
	35	テレビ会議システムを用いた多職種カンファレンスにより、県内の医療の質向上への取組み、	B	A	B
	36	がん医療に関係する企業等との共催・連携推進の取組み、	A	A	A
研究者養成目標	37	コース履修者が関与したプロトコル(臨床研究実施計画書等)作成件数、	A	A	A
	38	国際学会、英文誌への研究論文発表数、	A	A	A
	39	学会への研究論文の発表推進への取組み、 国内学会、和文誌への論文発表数	A	A	A
	40	先進的な海外研究機関等への研修派遣、国際学会等への参加数、	A	A	A
	41	がんプロ大学院生が国内外学会、研究機関等へ研修する場合のサポート体制整備の取組み状況、 国内学会・シンポジウム等参加状況	A	A	A
	42	がん研究基盤の発展構築へ向けた取組み状況、	A	A	A
	43	新たながん医療分野の開拓推進へ向けた取組み状況	A	A	A

外部評価講評

(評価者1) 全体的な評価、今後の在り方等について

本事業は、京都大学を主幹とする5大学がお互いに連携協力しながら、先端のがん研究者および地域がん医療に貢献するがん専門医療人の養成を行う取組である。

平成27年度も全体的に事業が順調に遂行されており、43項目のうち37項目をA評価とした。大学院生数は全体で47名と目標を上回るとともに、今年度までの4年間で計197名となり、事業最終年度を待たずして目標を上回る成果を達成したことは高く評価できる。地域医療機関や各種団体との連携、市民公開講座、またシンガポール国立がんセンターとの国際交流など、本事業は大学から地域や海外に広がりを見せている点も評価できる。一方、医療チームの活動実績や地域貢献目標などにおいてコース間の格差は正とともに全体的な活動の余地があり、今後京都大学のリーダーシップによって改善されることを期待したい。また、カンファレンスやキャンサーボード、学会への参加だけではFDとしては不十分であり、引き続き改善が必要である。

(評価者2) 全体的な評価、今後の在り方等について

1. 京都大学を中心とした5大学のがんプロ推進プランで、常に先進的内容を取り入れており内容に充実を見る。特に、クリニカルシーケンスユニット、メラノーマユニットといった次世代にマッチした部門が新たに設立されており、これらの発展には大いに期待したい。
2. がんプロ履修者はプログラム開始以後着実に増えており、特に研究者養成重点コースの入学者が予定を上回るペースであることはプログラムの充実を反映しているものと思われる。学生の声を聴いても満足度の高さを窺い知ることができる。毎年指摘されていることであるが、組織による差はあって先進的研究を中心としたプログラムが中心の京都大学と、京都大学に倣いながらも地域への貢献にも重点を置く他大学の構図がはっきりしてきている。しかし、それぞれの特徴を伸ばしつつ連携を図っており、組織全体のレベルの向上がプログラムの内容からも推察される。
3. 国際交流、さらにはグローバルな取り組みも積極的にされている(国際学会発表および論文)。しかし、医療チーム(放射線チーム、化学療法チーム、緩和ケアチーム等)の整備数など具体的な数値の記載がない。また多職種においても同様であり具体案が少ないように思える。
4. 26年度活動内容と比較すると、社会への発信、地域への貢献、地域医療機関との連携した取り組み参加者について若干減少気味であることが気になる。地域医療の取り組みが低下していることを危惧する。同様に市民公開講座においても開催数、参加者数など減少傾向が気になる。本プロジェクトの持つ意味は大きく重要であるがゆえに国民にも理解が得られるよう積極的な情報発信の場所であってほしい。

(評価者3) 全体的な評価、今後の在り方等について

- 本プログラムは全国の各がんプロの実績と比較して、平均を大きく上回る実績で、どの評価項目に関しても日本をリードするプログラムと評価される。
- 人材育成の面では、数多くの大学院生を集め、広く世界と交流したり、高度な研究成果を数多く学会、論文発表したりして着実にがんプロの本来の目的を実現している。
- また独創的な試みも多く、例えばクリニカルシーケンスユニットは次世代シーケンサーによる遺伝子の網羅的解析の結果を臨床にフィードバックさせるような試みで、世界をリードするプログラムである。
- 京都大学以外の大学におかれては、京都大学に比べて人的、物的リソースが限られる点はあるものの、京都大学の実績にキャッチアップする実績を目指すように、より一層努力されることを期待する。

がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン

「次代を担うがん研究者・医療人養成プラン」

京都大学・三重大学・滋賀医科大学・大阪医科大学・京都薬科大学

京都大学医学研究科 **がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン事務局**

〒606-8501 京都市左京区吉田近衛町

TEL 075-753-4654 FAX 075-753-9495

E-mail 060ganpro@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp